

ITU-R WP5D
第8回 会 合 報 告 書

第 1 . 1 版

平成 2 2 年 9 月 2 2 日

日 本 代 表 団

ITU-R WP5D 第8回（ベトナム、ダナン）会合報告書 目次

1. はじめに	1
2. 会議構成	2
3. 主要結果	3
3. 1 全体の主要結果	3
3. 2 各WG等の主要結果	3
(1)WG GENERAL ASPECTS (2)WG TECHNOLOGY ASPECTS	
(3)WG SPECTRUM ASPECTS (4) AH WORKPLAN (5)AH VOCABULARY	
4. 所感及び今後の課題	7
5. 各WG等における主要論議	8
5. 1 WG GENERAL ASPECTS	8
5. 2 WG TECHNOLOGY ASPECTS	10
5. 2. 1 SWG IMT SPECIFICATIONS	14
5. 2. 2 SWG M. 1580 & M. 1581	16
5. 2. 3 SWG RADIO ASPECTS	17
5. 2. 3. 1 DG COGNITIVE RADIO SYSTEMS	18
5. 2. 4 SWG EVALUATION	20
5. 2. 5 SWG COORDINATION	21
5. 3 WG SPECTRUM ASPECTS	23
5. 3. 1 SWG SHARING STUDIES	26
5. 3. 1. 1 DG UHF SHARING	32
5. 3. 1. 2 DG M. 2039	34
5. 3. 1. 3 DG IMT MITIGATION	35
5. 3. 1. 4 DG ANTENNA ISOLATION	40
5. 3. 2 SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS	43
5. 4 AH WORKPLAN	46
5. 5 AH VOCABULARY	48
6. Region 3 非公式会合	49
7. 今後の予定等	51
7. 1 WP5D 及び関連会合の今後の開催予定	51
7. 2 次会合に向けての日本のアクション事項	51
7. 2. 1 WG GENERAL ASPECTS 関係	51
7. 2. 2 WG TECHNOLOGY ASPECTS 関係	51
7. 2. 3 WG SPECTRUM ASPECTS 関係	51
付属資料1 参加国・機関と寄与文書数	53
付属資料2 ITU-R WP5D 第8回会合日本代表団名簿	56
付属資料3 日本寄書等の審議結果	57
5D/718 (J-1)、5D/719 (J-2)、5D/720 (J-3)、5D/721 (J-4)、	

5D/731（日本・中国・韓国共同（J-6））、5D/764（日本・中国・韓国共同（J-5））

付属資料4	入力文書一覧	60
付属資料5	出力文書一覧	68
付属資料6	各WGの当面のスケジュール	72
参考資料1	IMT-Advanced 無線インタフェース勧告の開発スケジュール	74

1. はじめに

IMT (IMT-2000 と IMT-Advanced を集合的に称するルートネーム) の地上系コンポーネントの更なる開発を目指す"Future development of the terrestrial component of IMT"を所掌とする ITU-R SG5(Study Group 5) WP5D(Working Party 5D)の第8回会合が、2010年6月9日～16日にベトナムのダナンにおいて開催されたので、その結果について報告する。

前回の WP5D 第7回会合 (2009年2月17日～24日、イタリアのトリノにて開催) では、IMT-Advanced の選定 Process のステップ5に対応した外部評価団体からの中間評価報告についての検証、IMT-2000 無線インタフェースに関する詳細勧告の第10版 (M.1457-10) に向けた改訂および M.[IMT.RSPEC]のワークプランならびに不要輻射に関する勧告 M.1580 及び M.1581 の第4版に向けた改訂の討議、IMT.RADIO に関する作業文書の作成及び CRS に関する討議、IMT の周波数配置に関する勧告 (M.1036-3) の改訂に関する作業文書の更新、[IMT.700]の作業文書の更新、SG4 が作成した 3.4-3.6GHz 帯の IMT に対する PFD 制限値の算出法[IMT-PFD]への対応、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案[IMT Mitigation]の作成、レポート M.2039 (IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータ) 改訂に向けた作業文書の更新、IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案[ANT ISO]の作成等が行われた。

今回の WP5D 第8回会合では、主な検討、作業として、モバイル市場に関する新勧告/レポート草案に向けた作業、IMT-2000 ハンドブックの作成に関する作業、IMT-2000 無線インタフェースの詳細勧告第10版 (M.1457-10) への改訂作業、IMT-Advanced 無線インタフェースの選定プロセスにおけるステップ4、5、6 (評価作業) に対応した作業、IMT-Advanced 無線インタフェースの詳細仕様に関する新勧告草案[IMT.RSPEC]の作成に関する作業、IMT-2000 の不要輻射に関する勧告 M.1580 及び M.1581 の第4版に向けた改訂作業、新レポート草案[IMT.RADIO]に関する作業文書の更新作業、IMT 周波数アレンジメント勧告 (M.1036-3) の改訂に向けた作業文書の更新、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案[IMT Mitigation]の更新、IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータに関するレポート(M.2039)の改訂に向けた作業文書の更新、IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]の作業文書更新等が行われた。

今回の会合には、29ヶ国及び27機関から合計184名の参加 (付属資料1参照) があり、日本からは19名が参加した (付属資料2参照)。

入力文書は合計104件であり、日本から入力した寄書は6件 (日中韓による共同寄書2件を含む) (付属資料3、4参照)。なお、前回会合からキャリーフォワードされた文書が10件あった。

本会合における出力文書 (TEMP 文書) は合計70件であった (付属資料5参照)。

2. 会議構成

各 WG 等の担当項目と議長を表 1 に示す。

日本は各 WG(Working Group)、SWG(Sub Working Group)、AH(Ad Hoc)及び DG(Drafting Group)に積極的に参加し、会議の進展に貢献した。

表 1 各 WG 等の担当項目と議長

Group	担当項目	議 長
WP5D	ITU-R WP5D 全体	S. BLUST (米)
WG GEN (GENERAL ASPECTS)	IMT 関連の全般的事項	K. J. WEE (韓)
DG HANDBOOK	ITU-D SG2 の IMT-2000 ハンドブック (GST) サプリメント 1 改定	E. EHRLICH (WiMAX フォーラム)
DG IMT.UPDATE	2010 年～2020 年頃の IMT 全般のビュー関連の新レポート草案[IMT.UPDATE]	J. OH (クワルコム、韓)
WG SPEC (SPECTRUM ASPECTS)	スペクトラム関連	A. JAMIESON (ニュージーランド)
SWG—SHARING STUDIES	周波数共用研究	M. KRAEMER (独)
DG Antenna Isolation	IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案	S. MAGNASSON (エリクソン)
DG IMT Mitigation	IMT と FSS 間の共用改善技術の新勧告草案	J. LEWIS (サムソン)
DG UHF Sharing	UHF 帯共用検討用 IMT 特性パラメータ	L. MARTI (仏)
DG M.2039	地上系 IMT-2000 の共用検討用特性パラメータの勧告 (M.2039) の改定案	J. P. MILLET (仏)
SWG—FREQUENCY ARRANGEMENTS	周波数アレンジメント勧告 (M.1036-3) の改訂案	Y. ZHU (中)
WG TECH (TECHNOLOGY ASPECTS)	無線伝送技術関連	A. SANDERS (米)
SWG—IMT SPECIFICATIONS	既存勧告の維持改訂管理 (IMT-2000 無線伝送技術勧告 (M.1457)、QoS 要求条件 (M.1079))、及び、新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]の開発	L. SUN (中)
SWG—M.1580 and 1581	不要輻射	N. P. MAGNANI (伊)
SWG—RADIO ASPECTS	無線関連技術 (CRS、新レポート草案 [IMT.RADIO]、[IMT.CRS]の開発他)	U. LÖWENSTEIN (独)
DG CRS	IMT 特化のコグニティブ無線システム	M. GRANT (米)
SWG—EVALUATION	無線インタフェース技術評価作業	S. WARD (米)
SWG—COORDINATION	評価グループのコーディネート作業	H. WANG (中)
AH VOCABURARY	用語関連	本多美雄 (日)
AH WORKPLAN	WP5D 全体の作業計画等調整	H. MENNENGA (独)
		H. OHLSEN (スウェーデン)

尚、AH VOCABURARY は今回の会合では開催されなかった。

3. 主要結果

3. 1 全体の主要結果

- ・ IMT のためのグローバルな広帯域無線サービス及び市場の解析と評価に関する新勧告または新レポート草案に向けた作業文書[IMT.UPDATE]を作成した。
- ・ 「IMT のグローバルな動向に関するハンドブック」を WP5D 第 16 回会合（2013 年）までに完成することで合意した。
- ・ 将来の IMT システムを検討するための有用な情報を得るためのワークショップは、次回会合でそのスコープや構成を明確にした上で、2011 年に行うことで合意した。
- ・ IMT の周波数アレンジメント勧告（M.1036-3）の改訂に向けた作業文書の更新を行った。
- ・ 勧告 M.1036-3 の改訂案の完成時期は 2011 年 3 月に予定されている WP5D 第 10 回会合のままとしたが、次回会合で安定化した内容となるように作業を進めることで合意した。
- ・ 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用のための干渉軽減技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]の作業文書の更新を行った。
- ・ IMT-2000 インタフェースの共用パラメータに関するレポート（M.2039）の改訂に向けた作業文書のステータスを「レポート改訂草案」に格上げし、更なる情報提供を求めるリエゾン文書を外部団体に発出した。
- ・ IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]は、作業文書の更新を行うとともに、レポート完成時期を WP5D 第 10 回会合に変更した。
- ・ 700-900MHz 帯での IMT から既存の TV 受信機やケーブル TV 等への影響に関する新研究課題が ITU-T SG9 で検討されているという ITU-T SG5 からの情報文書に対して、WP5D もこの活動に関与したい旨のリエゾン文書を ITU-T SG5（ITU-T SG9 及び ITU-R WP6A へは情報提供）へ発出した。
- ・ IMT-2000 無線インタフェースの詳細仕様勧告 M.1457 の第 10 版に向けた WP5D での改訂作業が完了した。
- ・ IMT-2000 無線インタフェースの詳細仕様勧告 M.1457 の第 11 版に向けた改訂作業は 2012 年に完了するスケジュールを合意した。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェースの選定プロセスにおけるステップ 4 及びステップ 5 の終了が確認された。
- ・ 11 の外部評価団体からの最終評価レポートに基づいて 13 の IMT-ADV 文書を作成した。
- ・ 外部評価団体からの評価レポートに基づいて、ステップ 6 の作業を開始した。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェースの詳細仕様に関する新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]に関連して、Global Core Specification(GCS)の使用方法和プロセスに関する IMT-ADV 文書を作成した。
- ・ 新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]の最初のリリース完了に向けたスケジュール並びに技術・事務手続き上の入力に関する無線インタフェース候補提案者へのリエゾン文書を作成・発出した。
- ・ 新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]の改定手順は、WP5D 第 10 回会合までに決定することで合意した。
- ・ IMT-2000 無線インタフェースの不要輻射に関する勧告（M.1580-3/M.1581-3）の改訂に向けた作業文書の更新を行った。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェースの選定プロセスと特性に関する新レポート草案[IMT.RADIO]の作業文書の更新を行った。
- ・ Cognitive Radio Systems の IMT への適用に関する新レポート草案[IMT.CRS]の作業文書の更新を行った。

3. 2 各WG等の主要結果

(1) WG GENERAL ASPECTS

- ・ 今会合では、2 件の新規リエゾン文書と 14 件の新規入力文書について検討を行った。
- ・ ITU-R WP4C からの IMT 衛星コンポーネントに関する検討の進捗状況についての通知とそれに係る助言を求

めるリエゾン文書に対しては、WP4C での検討計画及びその研究の実施状況に関して WP5D に通知し続けてもらいたいとする内容及び WP5D で将来の IMT について検討を開始した状況を通知する回答のリエゾン文書を作成 (5D/TEMP/336R1) し発出することとした。

ITU-R WP5B から WP5A 向け (WP5D へはコピー) の航空機公衆電話に関するリエゾン文書については、参考として WP5D へ送付されたものなので、WP5B では今年 11 月の会合で寄書を募って議論する予定であり、その結果を待って WP5A へ応答したいという内容なので、入力文書も無かったことから、次回以降の対応となる。

- ・ WP5D は "HANDBOOK on GLOBAL TREND in IMT" を作成することにした。作業の開始は次回第 9 回中国会合から、2013 年央に開催される第 16 回会合までに完成する計画とした。

Supplement 1 Handbook- Deployment of IMT-2000 Systems については Supplement to the GST と調整することとした。

ITU-D SG2 及び ITU-T SG13 と協働し、それぞれのハンドブックにおいて ITU-D と ITU-R における情報の重複を避けるため、担当するトピックの分担の検討を提案するリエゾン文書を送ることとした。
(5D/TEMP/338R2)

- ・ 2012～2020 年の期間における新たな IMT サービス及び市場予測に係り、レポートへ向けた作業文書 [IMT.UPDATE] を作成した (5D/TEMP/338R2)。今後の作業の進め方に関する作業計画 (5D/TEMP/339) も作成した。なお、本件に関連し、第 9 回会合において 2010 年以降 10 年間ににおける未来像や市場について意見交換を行うことを目的として予定していた半日間のワークショップについては延期とし、第 9 回会合において本件に係る具体的な研究範囲と文脈を明確化の上、議論し、2011 年のいずれかの会合で実施する方向で、決定することとした。
- ・ 次回第 9 回会合から WG GEN においては、ハンドブックと将来 IMT について、DG の格付けから 2 つの SWG を設立し活動することとした。

(2) WG TECHNOLOGY ASPECTS

- ・ IMT-2000 及び IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告を所掌としていた SWG-IMT SPECS は名称が WG-SPEC との間で紛らわしいとの理由で SWG-IMT SPECIFICATIONS に変更した。
- ・ IMT-Advanced の評価に関しては、11 の外部評価団体から最終評価レポート、ETSI 評価グループからステータスレポートが、3GPP 及び IEEE から Workshop 及び Coordination Meeting 報告、さらにコレスポネンスグループ(CG)コンビナからの入力があり、ステップ 4 を完了した。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェース候補選定のステップ 5 に於いては、11 の外部評価団体からの 13 の最終評価レポート及び 2 つの Additional Report (前回入力した ARIB のステータスレポート及び今回入力された ETSI 評価グループのステータスレポート) を 14 の IMT-ADV 文書 (IMT-ADV/10~23) として纏め、ITU の WEB サイトに掲載することに決定した。
- ・ 以上の作業をもってステップ 5 も完了し、外部評価団体には今回会合の結論を連絡するリエゾン文書を作成し、発出した。
- ・ また、入力された評価結果を基にアセスメント作業 (ステップ 6) を開始した。
- ・ IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 第 10 版に向けた改訂に関しては、6 つの無線インタフェースの更新情報を盛り込み、改訂の概要を作成して勧告改訂案を完成した。本改訂案は外部団体からのハイパーリンクを記入して本年 11 月の SG5 に承認を求め上程される。
- ・ また、IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 第 11 版に向けた改訂は、M.[IMT.RSPEC] の第 1 版に向けての改訂と同期させ、2012 年の SG5 に向けて作業を進めることに合意した。

- ・ IMT-Advanced 無線インタフェースの詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、IMT-2000 の時と同様に Global Core Specification(GCS)及び外部団体のハイパーリンクを利用する形での作成を前提とすることが合意され、その手順を規定した文書を IMT-ADV/24 として合意した。また、IMT-Advanced 無線インタフェース候補の提案者に対して、今回合会で決定した内容を連絡するリエゾン文書を作成、発出した。
- ・ 勧告草案 M.[IMT.RSPEC]に関しては、日本寄書を基に作業文書を作成し、次回合会にキャリアフォワードした。
- ・ M.[IMT.RSPEC]の改訂に関する手順に関しては米国提案及び AT&T の寄書を基に討議を行ったが、決議 57 に則って要求条件・評価手順の改訂も含めて考えるべきとの意見もあり、作業文書をキャリアフォワードして第 10 回会合までに結論を出すことに合意した。
- ・ IMT-2000 無線インタフェースの不要輻射に関する勧告 M.1580 及び M.1581 に関しては、各々第 4 版に向けた改訂の討議を実施したが、IMT に特定されていない周波数帯域の情報が含まれているため、外部団体に対して記載内容の確認を求めるリエゾン文書を発出することとし、完成を次回合会とした。
- ・ IMT.RADIO に関しては、スコープ及び具体的な記載内容に関して討議し、スコープからは“Framework”の文言は削除された。また、ステップ 5 関連の項に於いては、外部評価団体の最終評価レポートの IMT-ADV 文書を Annex から参照可能とする形式とし、本文には簡単な纏めのみを記載する形で作業文書を更新した。本作業文書はキャリアフォワードし次回合会で完成させ、本年 11 月の ITU-R SG5 合会に承認を求めることを確認した。
- ・ Cognitive Radio Systems(CRS)に関しては、今回合会での入力を基に作業文書を更新し、第 12 回会合にて完成することに合意した。

(3) WG SPECTRUM ASPECTS

周波数アレンジメント関連

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂に向けた作業文書の更新を行い、キャリアフォワードした (5D/TEMP/355)。なお、懸案となっていた周波数アレンジメントのフレキシビリティに関する扱いについては、考慮事項 (considerations)、勧告事項 (recommendations) の関連記載は合意したものの、具体的な周波数アレンジメントを記載した各 Annex への関連記載 (NOTE) の必要性について合意に至ることができず、継続議論とした。作業計画において、勧告改訂案の完成時期は第 10 回会合 (2011 年 3 月) のままとしたが、第 9 回会合 (2010 年 10 月) において安定化した内容となるよう、作業を進めることにした (5D/TEMP/354)。
- ・ 698-960MHz 帯の周波数アレンジメント策定に関わる作業文書[IMT.700]については、関連入力文書はなかった。引き続き、第 7 回会合の議長報告に添付された作業文書 (5D/679 Attachment 4.13) をキャリアフォワードし、当該作業文書に基づいて今後の議論を行うことを確認した。

共用検討関連

- ・ 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案[IMT Mitigation]の作成に向けた作業文書の更新を行い、キャリアフォワードした (5D/TEMP/374)。本作業文書には、日本からの提案内容 (5D/720) が反映された。本作業を伝えるリエゾン文書を WP4A に発出した (5D/TEMP/368Rev.1)。リエゾン文書には、日本からの提案内容 (5D/721) が反映された。なお、作業文書にコグニティブ無線に関わる記載が含まれているため、WP1B にも情報提供の位置づけで同報を行った。作業計画に変更はなく、新勧告案の完成時期は第 9 回会合 (2010 年 10 月) のままとした (5D/TEMP/376)。
- ・ レポート M.2039 (IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータ) 改訂に向けた作業文書について、外部団体からの入力文書に基づいて更新を行い、文書のステータスを作業文書 (Working Document) からレポート改訂草案 (Preliminary Draft Revision of Report) に格上げして、キャリアフォワードした (5D/TEMP/372)。

改訂内容の確認、及びさらなる情報提供を求めるリエゾン文書を外部団体に発出した（5D/TEMP/367）。作業計画に変更はなく、完成目標は第 9 回会合（2010 年 10 月）のままとした（5D/TEMP/376）。

- ・ IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案[ANT ISO]に向けた作業文書の更新を行い、キャリアフォワードした（5D/TEMP/373）。本作業の状況を伝えるリエゾン文書を WP1A 及び WP5A (ITU-T SG5 へも情報提供) に発出した（5D/TEMP/369）。作業計画を変更し、完成目標は第 10 回会合（2011 年 3 月）とした（5D/TEMP/376）。
- ・ 決議 224 (WRC-07 改) に基づく UHF 帯の共用検討について、作業文書を作成しキャリアフォワードした（5D/TEMP/371）。本作業に関連し、情報提供を求めるリエゾン文書を WP6A へ発出する（5D/TEMP/366Rev.1）とともに、本作業について（必要に応じて）情報提供を求めるリエゾン文書を外部団体へ発出した（5D/TEMP/367）。作業計画に変更はなく、完成目標は第 12 回会合（2011 年 10 月）のままとした（5D/TEMP/376）。
- ・ ITU-T SG9 において、700MHz～900MHz 帯における IMT から TV 受像機やケーブル TV 等への影響の検討に関わる新研究課題が検討されていることに関連し、WP5D も活動に関与したい旨のリエゾン文書を、ITU-T SG5 (ITU-T SG9 及び ITU-R WP6A へも同報) へ発出した（5D/TEMP/370）。

(4) AH WORKPLAN

- ・ WP5D の全般的ワークプランの最新化が行われた。
- ・ 次の第 9 回 WP5D 会合は中国から招聘が行われた。

(5) AH VOCABULARY

- ・ 今回の会合では Ad Hoc Vocabulary は 6 月 14 日のピリオド 2 に予定されていたが、直前でキャンセルされ、開催されなかった。Closing Plenary において、AH 議長の発言によれば、前回会合で各 SWG に対してボキャブラリーリストの提出を依頼していたが、今回で入力できなかったため、開催を取りやめたとのことである。
- ・ 第 9 回会合以降の AH 作業計画（マイルストーン）が更新された（5D/TEMP/347）。

4. 所感及び今後の課題

- ・ IMT-Advanced のビジョンや市場動向の検討については、我が国がこれまでリードしてきたことから、前回会合で合意した「2010 年以降 10 年間におけるビジョンや市場動向に関するワークショップ」への入力を念頭において、本課題の考え方や検討の進め方の案を盛り込んだ寄与文書を提出するとともに、次回会合でのワークショップの開催を積極的に支持した。しかしながら、次回会合では IMT.RADIO の最終化や周波数関連事項を含めて案件がたくさんあり、このような忙しい時期にワークショップを開催することに懸念を示す主管庁が多かったため、本ワークショップの開催は次回会合以降に延期するとの結論になったのは残念であった。
- ・ 本会合で作成された作業文書[IMT.UPDATE]の最終化については、2011 年 10 月に開催予定の WP5D 第 12 回会合とすることで合意したが、本文書の内容を充実させるためにも、ワークショップにおいて将来の IMT システムのための情報を得るとともに通信業界以外の関係者と意見交換することが重要であり、来年の早い時期にワークショップを開催することで調整する必要があると認識している。必要なら本件に関する寄与文書を準備する必要がある。
- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂作業の完了時期は WP5D 第 10 回会合のままであるが、次回会合で安定化した内容とすることが合意されたため、これまでに日本が提案した内容の精査も含めて、本作業の安定化を促進するための寄与文書を準備する必要がある。
- ・ 新勧告草案[IMT.RSPEC]の完成に向けて、2 つの候補技術のプロポーネントである日本の責務（IEEE 技術の Transposing Organization の明確化を含む）を期限（2010 年 10 月 6 日）までに果たす必要があり、関係団体・機関との調整等を適切且つ遅滞なく実施する必要がある。
- ・ 新勧告草案[IMT.RSPEC]に関連して、GCS の使用方法とプロセスについての IMT-ADV 文書を作成したが、「The GCS Proponent must have legal authority to grant to ITU-R」と規定され IMT-2000 のプロセスと若干異なることから、3GPP の PCG 会合（次回の PCG 第 25 回会合は、WP5D 第 9 回会合の後で開催されるので、メールによる審議が必要となろう）で、適切な対応について協議する必要がある。
- ・ 日中韓共同寄与文書により、本会合でのステップ 4～6 の終了を提案したが、WP5D 議長がステップ 6 の正式終了と外部への通知に強い懸念を示し、IMT.RADIO の最終化とセットにすることを強く望んだことから、本会合ではステップ 4 と 5 の終了に留まった。しかしながら、ステップ 6 の作業は順調に進んでおり、現状では特に大きな問題・課題はないと理認識している。SWG-Coordination 議長であり IMT-Advanced 評価グループのためのコレスポネンスグループのコンビナーである本多氏の継続的な貢献と ARIB 評価グループの関係各位のご支援・ご協力に深く感謝する。

5. 各WG等における主要論議

5. 1 WG GENERALASPECTS

(1) 議長 : Dr. K. J. Wee (韓)

(2) 主要メンバ : 日本代表団 (坂中、佐藤(孝)、佐藤(一)、石川、林、菅田)、中、韓、米、英、加、独、伊、仏、Ericsson、WiMAX Forum、Intel 他、全 40 名程度

(3) 入力文書 : IMT.UPDATE /

- Working process/ schedule : 5D/729 (KOR)、5D/759 (CHN)、5D/772 (Nokia & Industries)、
- Identification of working items/ study area : 5D/718 (J)、5D/730 (KOR)、5D/759 (CHN)、5D/772 (Nokia & Industries)、
- Document structure : 5D/772 (Nokia & Industries)、5D/777 (Brazil)、
- Contents (to be included in the documents): 5D/699 (USA)、5D/709 (CAN)、5D/711 (3G Americas)、5D/718(J)、5D/724(AT&T)、5D/730(KOR)、5D/759(CHN)、5D/772(Nokia & Industries)、5D/774(Nokia)、5D/777(Brazil)
- Preparation Workshop during 9th WP 5D : 5D/729 (KOR)
- Update Question 229-2/5 : 5D/729 (KOR)
- Handbook : 5D/733 (KOR)、5D/746 (WiMAX-Forum)、5D/770 (AT&T)
- Liaison Doc. : 5D/685 (WP4C)、5D/713 (ITU-R WP5B)
- 5D/598 (ITU-T SG5)、5D/602 (ITU-R WP5A)

(4) 出力文書 : 5D/Temp/333 (「グローバル広帯域無線サービス及び IMT 市場の分析と評価」に係る新勧告/レポート草案[IMT.UPDATE]のための作業文書)

5D/Temp/338R2 (LS to ITU-D SG2 and ITU-T SG13 : New Handbook on Global Trends in IMT copy to WP4C))

5D/Temp/339 (モバイル市場状況に関する PDN Report に関する詳細作業計画)

5D/Temp/361 ([IMT.Handbook]の詳細作業計画)

5D/Temp/359R1 (IMT2000 への移動 : IMT2000 システム展開の補足 1 の改定)、

5D/Temp/336R1 (LS to WP4C: 将来の IMT に関する研究の進捗状況)、

5D/Temp/334R1 (DG IMT.UPDATE 会合報告)

5D/Temp/337 (Workshop “IMT for the Next Decade”)

(5) 審議概要 :

(5-1) 経緯と所掌

本 WG では、将来のサービスやマーケットの予測をはじめ、Question ITU-R 229-2/5 (IMT 地上コンポーネントの将来の開発) の内容の中で、WP5D 内の他の WG が未検討の内容を検討対象とする。第 6 回会合にて、WG-Developing Aspects が本 WG に吸収されたことから、WG-Developing Aspects で扱っていた ITU-D との連携業務 (今回で言えば ITU-D で作成する Handbook との調整関係) や IMT-2000 Handbook 関連の業務についても本 WG で扱っている。

また、前回会合から将来の IMT サービスについての検討が開始された。この関連で将来の IMT に関する Workshop についても本 WG で取り扱うこととなった。

(5-2) 審議概要と主要結果

(5-2-1) 将来の IMT に係る検討

- ・ レポート[IMT.UPDATE]へ向けた作業文書を作成した。WG 議長からは、将来のサービスに係る見通しを纏めることと意向が示されたが、入力寄与文書に基づく現時点の作業文書の目次構成は次のとおりで、日本の提案も含まれた。
 - 各国のデータトラヒックの現在までの推移と今後の予測について
 - 地域／国／事業者のトラヒック情報
 - WRC-07 へ向けた市場予測
 - 移動広帯域の新しい傾向
 - IMT に特定されている周波数帯の現状
 - 将来の移動通信の新市場傾向
- ＜今後の情報が求められる項目＞
 - [制度策定者の見解]
 - [産業側の見解]
 - [製造業者]
 - [事業者]
- ・ 今後は今回作成した作業文書を叩き台に、寄与文書入力により改定を提案していくことを確認した。
- ・ 以下にも記したワークショップからの情報も、当該[IMT.UPDATE]の作業文書に適宜反映される。
- ・ 完成目標は 2011 年 10 月と変わっていない。

(5-2-2) ハンドブック

- ・ WP5D は”HANDBOOK on GLOBAL TREND in IMT”を作成することにした。作業の開始は次回の中国会合から、2013 年央に開催される第 16 回会合までに完成する計画とした。
- ・ ITU-D、ITU-T と協働し、それぞれのハンドブックにおいて ITU-D と ITU-R において情報の重なりを避けるため、担当するトピックの分担の検討を提案するリエゾン文書を送ることにした。
- ・ ITU-D SG2 のハンドブックと WP5D でこれから作成する”HANDBOOK on GLOBAL TREND in IMT” のそれぞれの情報を相互に活用することが有用とし、協力の呼びかけもこのリエゾン文書に含めた。
- ・ Supplement 1 Handbook- Deployment of IMT-2000 Systems については Supplement to the GST と調整することとした。
- ・ このリエゾン文書については、ITU-D SG2 会合が今年の 9 月に開催され、上記について検討が行われ、その結果が返信され、次回の成都における WP5D 会合で ITU-D の意向等の情報が得られるので、それを踏まえて、WP5D として具体的な進め方について検討し、作業を進める。
- ・ 研究課題 Q77-6/5「移動無線通信技術の開発及び実施における開発途上国の必要性の検討」について、更なる決議の 2 で研究結果は 2010 年までに完成されるべきとしてある等について、今後の扱いについては、RA-2012 の前までに結論を得るため、本件に関する寄与文書は次回 WP5D 会合に入力することが求められた。

(5-2-3) ワークショップ

- ・ 前回会合において、10 月に中国の成都で開催予定の WP5D 第 9 回会合中に実施し、そこで得られる情報を作業文書[IMT.UPDATE]に反映したいとする意向が WG 議長から示されていたが、今回の WP5D 会合で、開催内容、開催期間、開催日、準備に要する事項が未定である状態にあることから、難色を示された。より具体的な取り扱う範囲と文脈を明確化の上、議論し、2011 年のどこかの会合で実施する方向で、成都会合において決定することが、今回の最終プレナリで、本件に関する複数の意見に基づく WP5D 議長の判断により決定された。
- ・ 会合における議論では、通信業界以外の分野から広くスピーカを募り、将来の IMT システムを検討する上で参考となる有用な情報を得ることを目的としている。

(5-2-4) 組織構成

次回会合から WG GEN においては、ハンドブックと将来 IMT について DG の格付けから 2 つの SWG を設立し活動することとした。

(5-2-5) 前回会合で検討することにしていた事項（飛行機上の公衆移動電話サービス）

前々回(2010 年 2 月)会合において、ITU-R WP5A からの Report M.1051-1 “Public mobile telephones service with aircraft”の改訂に向けた寄与依頼に関するリエゾン文書（5D/602）について、“WP5D では 6 月(第 8 回)会合で引き続き検討する”旨を回答するリエゾン文書（5D/TEMP/292）としてまとめ、ITU-R WP5A に発出したが、今回の会合では本件に係る入力がなく、審議されなかった。

(6) 今後の課題：

将来の IMT に係る検討のように作成された作業文書やキャリアフォワードされた文書とその関連の勧告文書やレポート文書について日本国内で検討し、我が国にとって不利となる拙速な結論や方向性が導かれないよう、必要に応じて寄書入力を行う。具体的には以下のとおりである。

- ・ 将来の IMT に関する検討に係る今後の対応については、作業文書構成についての整理が必要である。また、具体的な検討作業の進め方についても入力していく必要がある。今回の日本寄書は今後の作業の論点を含んでいるが、作業文書の中で明瞭に反映されていないので、明確化のため及び内容を拡充した寄与文書を入力することが必要である。
- ・ 長期に亘りアウトプットがない研究課題 Q77-6/5 の今後の扱いについては、国内の議論によって、必要に応じて、本件に関する寄与文書入力を行う。
- ・ ITU-R レポート M.1051-1 の改訂（飛行機上の公衆移動電話サービス）：本件について、わが国は WP5A に「前回改訂から 20 年を経過した古い報告を改訂するより、むしろ新報告作成が望ましい」との寄書を提出したが、WP5A では新レポートを作成しないこととなったことを踏まえ、当該レポートの WP5A における改訂に関する議論に関し、WP5D として必要な情報の提供の可否について、国内で意見を集約する必要がある。

5. 2 WG TECHNOLOGY ASPECTS

(1) 議長：Lixin Sun（中国）

(2) 主要メンバ：日本代表团（坂中、佐藤(孝)、橋本、鬼頭、広池、木幡、新、藤井、田中、菅田、本多、林、佐藤(一)、北、桂川、小松、外山、高野、石川）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、独、イタリア、フランス、ロシア、インド、DoCoMo、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson 他全 150 名程度

(3) 入力文書

(3-1a) RSPC 勧告 M.1457 Update

5D/682(IEEE), 5D/687(ETSI), 5D/692(ATIS), 5D/706(BR/TIA TR45.5), 5D/714(AT&T, Alcatel Lucent, Datang, Fujitsu, Hitachi, Huawei, NEC, DoCoMo, NSN, Qualcomm, Samsung, Telecom Italia, Ericsson, ZTE), 5D/723(AT&T, Telecom Italia), 5D/725(IEEE), 5D/784 (BR)

(3-1b) M.[IMT.RSPEC]

5D/691, 698(米), 5D/719(日本), 5D/722(AT&T), 5D/726(IEEE), 5D/734(印)

(3-2) 不要輻射勧告 M.1580/M.1581

5D/688r1, 689(Agilent, ALU, Qualcomm), 5D/702, 703(AT&T, Alcatel-Lucent, DaTang, Fujitsu, Hitachi, Huawei, NEC, NSN, NTT DoCoMo, Qualcomm, Samsung, Telecom Italia, Ericsson, ZTE), 5D/744(WiMAX Forum)

(3-3) Radio Aspects 関連

5D/696(WP5A), 5D/707(Canada), 5D/731,764(日中韓), 5D/734(印), 5D/700(米), 5D/752(仏),
5D/747(WiMAX Forum), 5D/767(ZTE, Datang), 5D/778(Brazil)

(3-4) EVAL 関連

5D/764 (日中韓), 5D/710 (BR/Israeli EG), 5D/715 (ETSI), 5D/716,717 (ATIS), 5D/736 (BR/TIA
TR-45), 5D/739,740 (BR/TTA PG707), 5D/743,780 (BR/REG), 5D/750 (BR/WCAI EG), 5D/757
(BR/ TCOE India), 5D/760,763 (BR/ChEG), 5D/769 (BR/WINNER+), 5D/779 (BR/WFEG),
5D/781 (BR/CEG), 5D/727 (IEEE), 5D/738 (BR/3GPP), 5D/756 (CG Convener), 5D/775 (Brazil)

(3-5) Coordination 関連

5D/764 (日中韓), 5D/710 (BR/Israeli EG), 5D/715 (ETSI), 5D/716,717 (ATIS), 5D/736 (BR/TIA
TR-45), 5D/739,740 (BR/TTA PG707), 5D/743,780 (BR/REG), 5D/750 (BR/WCAI EG),
5D/757 (BR/ TCOE India), 5D/760 (BR/ChEG), 5D/769 (BR/WINNER+), 5D/779 (BR/WFEG),
5D/781 (BR/CEG), 5D/727 (IEEE), 5D/738 (BR/3GPP), 5D/756 (CG Convener)

(3-6) その他

5D/681 (IEEE: RIT 名称), 5D/686 (BR: SG6 の Question 関連), 5D/695 (WP5A : QoS 関連),
5D/697 (WP5A : Ubiquitous 関連), 5D/685 (WP4C : 衛星 IMT-Advanced 関連)

(4) 出力文書:

5D/TEMP/335	(M.1457-10 Sec. 5.1),
5D/TEMP/340	(M.[IMT.RSPEC] Working Document),
5D/TEMP/341r1v2	(M.1457-10 改訂概要)
5D/TEMP/343r1	(M.1457-10 Sec. 5.6)
5D/TEMP/344	(M.1457-10 Sec. 5.2)
5D/TEMP/345	(M.1457-10 Sec. 5.3)
5D/TEMP/346	(M.1457-10 Sec. 5.4)
5D/TEMP/348r1	(SWG-M.1580 Meeting Report)
5D/TEMP/349r1v2	(Liaison to EO Re: M.1580/1581)
5D/TEMP/350	(M.1580 Micro workplan)
5D/TEMP/351	(PDNR M.1580-4)
5D/TEMP/352	(PDNR M.1581-4)
5D/TEMP/353	(M.[IMT.RSPEC] Update Procedure)
5D/TEMP/357r1v2	(IMT-ADV Doc for M.[IMT.RSPEC] GCS Procedure)
5D/TEMP/358	(M.[IMT.RSPEC] Liaison to EO)
5D/TEMP/360	(M.1457-10 Sec. 5.5)
5D/TEMP/363	(M.[IMT.RSPEC] Workplan)
5D/TEMP/364	(IMT.CRS Working Document)
5D/TEMP/365	(IMT.CRS Workplan)
5D/TEMP/377	(IMT-ADV Doc for Israeli EG)
5D/TEMP/378	(IMT-ADV Doc for ATIS EG : IEEE)
5D/TEMP/379	(IMT-ADV Doc for ATIS EG : 3GPP)
5D/TEMP/380	(IMT-ADV Doc for TR-45)
5D/TEMP/381	(IMT-ADV Doc for TTA PG707 : 3GPP)
5D/TEMP/382	(IMT-ADV Doc for TTA PG707 : IEEE)
5D/TEMP/383	(IMT-ADV Doc for Russian EG)
5D/TEMP/384	(IMT-ADV Doc for WCAI EG)
5D/TEMP/385	(IMT-ADV Doc for TCOE India EG)
5D/TEMP/386	(IMT-ADV Doc for Chinese EG)
5D/TEMP/387	(IMT-ADV Doc for WINNER+ EG)
5D/TEMP/388	(IMT-ADV Doc for WiMAX Forum EG)
5D/TEMP/389	(IMT-ADV Doc for Canadian EG)
5D/TEMP/390	(IMT-ADV Doc for Additional Evaluation Report)

5D/TEMP/391	(Working Document for Step 6)
5D/TEMP/392r1	(Liaison to Independent Evaluation Groups)
5D/TEMP/393r1	(SWG-Coordination meeting report)
5D/TEMP/394	(IMT.RADIO Workplan)
5D/TEMP/395	(IMT.RADIO Working Document)
5D/TEMP/396	(SWG-Radio Aspects Meeting Report)
5D/TEMP/397r1	(SWG-IMT SPECIFICATIONS Meeting Report)
5D/TEMP/398	(SWG-EVALUATION meeting report)
5D/TEMP/403r1	(WG-TECH Meeting Report)

(5) 審 議 概 要 :

(5-1) 所掌と経緯

本 WG は、IMT-2000 の無線インタフェースに関する技術仕様の改訂、IMT-Advanced の無線技術の検討を所掌としている。

本会合の検討課題は、RSPC 勧告 M.1457 の改訂検討、不要輻射勧告 M.1580/M.1581 改訂検討、IMT-Advanced 無線インタフェースの選定作業及び M.[IMT.RSPEC]、M.[IMT.RADIO]、IMT.CRS に関する検討であった。

(5-2) 体制

下記の 5 つの SWG、1 つの DG という体制で審議を行った。

Group	Chairman	Topic
SWG IMT SPECIFICATIONS	Mr. Nicola Pio Magnani (伊)	RSPC勧告M.1457の第10版に向けた改訂原案検討 新勧告草案M.[IMT.RSPEC]の開発
SWG M.1580/81	Mr. Uwe Lowenstein (独)	不要輻射勧告M.1580/81の第4版に向けた改訂原案検討
SWG Radio Aspects	Mr. Marc Grant (米)	新Report案M.[IMT.RADIO]及びIMT.CRSに関する検討
DG-CRS	Mr. Stephen Ward (米)	IMT.CRSの検討
SWG Evakuation	Mr. Hu Wang (中)	IMT-Advanced無線インタフェース提案の評価、アセスメント
SWG Coordination	Mr. Yoshio Honda (日)	IMT-Advanced無線インタフェース評価入力を受領対応

(5-3) 審議概要と主要結果

- 1) Coordination 関連 : IMT-Advanced の無線インタフェースに関しては、日中韓から 5D/764 で今回会合における必要作業及び進め方が提案され、それに基づいてステップ 5 の作業を実施した。今回会合では、前回会合と今回会合の間に実施された IEEE の第 2 回 Evaluation Group Coordination Meeting 報告 (5D/727)、3GPP の第 2 回 LTE-Advanced Evaluation Workshop 報告(5D/738)及び Correspondence Group Convener の CG 報告(5D/756)、Israeli EG (5D/710)、ETSI (5D/715)、ATIS EG (5D/716, 717)、TIA TR-45 (5D/736)、TTA PG707 (5D/739, 740)、Russian EG (5D/743,780)、WCAI WG (5D/750)、TCOE India (5D/757)、Chinese EG (5D/760)、WINNER+ (5D/769)、WiMAX Forum EG (5D/779)、Canadian EG (5D/781)の 12 の Independent Evaluation Group からレポート入力があり、無線インタフェース候補の外部評価であるステップ 4 を完了した。

また、今回会合における SWG-EVAL での作業の結果を受け、外部評価団体とのコーディネーションとしてのステップ 5 を終了し、各 Independent Evaluation Group に対して、今回会合での結論を連絡するリエゾン文書 (5D/TEMP/392r1)を発出した。

- 2) Evaluation 関連 : Israeli EG (5D/710)、ETSI (5D/715)、ATIS EG (5D/716, 717)、TIA TR-45 (5D/736)、TTA PG707 (5D/739, 740)、Russian EG (5D/743, 780)、WCAI WG (5D/750)、TCOE India (5D/757)、Chinese EG (5D/760)、WINNER+ (5D/769)、WiMAX Forum EG (5D/779)及び Canadian EG (5D/781)の 11 の Independent

Evaluation Group から 13 の技術的評価の最終報告があり、各々に対して質疑を実施した。尚、Russian EG の入力 5D/780 は評価結果のプレゼンテーション資料であり、内容は評価報告書である 5D/743 と同一である。

各最終評価報告書は IMT-ADV 文書とすることに合意し、WP5D において内容概要を作成するとともに入力寄書を添付して 5D/TEMP/377~389 として完成した。また、技術的評価は含んでいないものの外部評価団体からのステータスレポートとして前回入力された ARIB EG (5D/628)及び今回合会で入力された ETSI (5D/715)も追加レポートとして IMT-ADV 文書を 5D/TEMP/390 として作成した。これらの IMT-ADV 文書 (IMT-ADV/10~23) は WG-TECH Plenary、 WP5D Plenary において承認され、ITU の IMT-Advanced 関連の Web サイトに掲載される。

また、外部評価の結果を基に無線インタフェース候補のアセスメント作業(ステップ 6)に着手し、その作業文書を 5D/TEMP/391 に作成して次回合会にキャリアフォワードした。

- 3) RSPC 勧告 M.1457 Update: 勧告 M.1457 の第 10 版に向けた改訂については 5D/714 により 3GPP メンバから 5.1 章(CDMA DS)及び 5.3 章 (CDMA TDD)、5D/706 により BR 経由 TIA TR45.5 から 5.2 章(CDMA MC)、5D/692 により ATIS から 5.4 章(TDMA SC)、5D/687 により ETSI から 5.5 章(TDMA/FDMA)、5D/682 により IEEE から 5.6 章(OFDMA TDD WMAN)の入力があり、それに基づいて第 10 版に向けた改訂案を 5D/TEMP/341r1v2 (改訂概要)、5D/TEMP/335 (5.1 章)、5D/TEMP/344 (5.2 章)、5D/TEMP/345 (5.3 章)、5D/TEMP/346 (5.4 章)、5D/TEMP/360 (5.5 章)及び 5D/TEMP/343r1 (5.6 章)に完成した。本改訂案は WG-TECH Plenary、WP5D Plenary で合意され、各 Stakeholder SDO からのハイパーリンク情報入力を盛り込んで本年 11 月の SG5 に承認を求め上程される。また、第 11 版に向けた改訂に関しては IMT-Advanced 詳細無線勧告である M.[IMT.RSPEC]の第 1 版に向けた改訂と同期して行うことで原則合意し、2011 年には改訂を行わないことを合意した。改訂スケジュール等外部団体に送付するリエゾン文書は次回合会で検討する。
- 4) M.[IMT.RSPEC]: IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、今回米国から 5D/691 として開発の手順、日本から 5D/719 として開発に必要な検討事項の入力があり、IMT-2000 の詳細無線インタフェース勧告 ITU-R M.1457 と同様に Global Core Specification(GCS)及び外部団体のハイパーリンクを利用する形での作成を前提とすることを合意した。その手順を規定した文書を 5D/691 の添付文書を基に 5D/TEMP/357r1v2 として作成した。本文書は WG-TECH Plenary、 WP5D Plenary にて承認され IMT-ADV/24 として発行される。また、IMT-Advanced 無線インタフェース候補の提案者に対して、今回合会で決定した内容を連絡するリエゾン文書を 5D/TEMP/358 として作成、発出した。M.[IMT.RSPEC]に関しては、日本寄書 5D/719 の添付文書を基に 5D/TEMP/340 に新勧告草案の作業文書を作成し、次回合会にキャリアフォワードした。尚、M.[IMT.RSPEC]の改定に関する手順に関しては米国提案(5D/698)及び AT&T の寄書(5D/722)を基に討議を行ったが、決議 57 の規定に基づいて要求条件・評価手順の改訂も含めて考えるべきとの意見もあり合意に至らなかった。本 Update 手順は作業文書を 5D/TEMP/353 に作成し、次回合会にキャリアフォワードして第 10 回合会までで結論を出すことに合意した。
- 5) 不要輻射勧告 M.1580/1581: 勧告 M.1580 及び M.1581 に関しては今回 5D/702,703 により 3GPP メンバから Annex 1 と 3 (CDMA DS/TDD)、5D/688r1, 689 により 3GPP2 メンバから Annex 2 (CDMA MC)、5D/744 により WiMAX Forum から Annex 6 (OFDMA TDD WMAN)に関する改訂提案があり、第 4 版改訂原案 (PDNR) を 5D/TEMP/351 (M.1580)、5D/TEMP/352 (M.1581)に作成した。但し今回入力された改訂提案に IMT に特定されていない周波数帯域 (衛星に割り当てられた周波数帯域)の情報が含まれているため、脚注で「IMT 帯でないが、技術が使用可能」を示すことについて、外部団体に対して記載内容の確認を求めるリエゾン文書 (5D/TEMP/349r1v2)を発出することとし、次回その回答を待って改訂案を完成させることとした。
- 6) CRS 関連 : CRS に関しては今回、米国、フランス、WiMAX Forum、中国企業(ZTE, Datang)及び Brazil か

ら寄書入力があり、作業文書を 5D/TEMP/364 に作成した。また、完成を第 12 回会合と合意し、Micro Workplan を 5D/TEMP/365 に更新した。

- 7) IMT.RADIO 関連 : IMT.RADIO に関しては今回日中韓から 5D/731、Canada から 5D/707 の具体的な修正提案入力があり、討議を行った。両者ともその Scope から“Framework”の文言を削除する提案を行っているため、スコープ部は Editorial な修正を加えて合意した。また、ステップ 5 及びステップ 6 に関する項に関しては SWG-EVAL で作成する IMT-ADV 文書及びアセスメント結果について、纏めのみを本文に、詳細内容は Annex に Reference で掲載するとの形式で作成することも合意した。但し、ステップ 5 の完了が今回会合であり、ステップ 6 が作業中であるため、この項の具体的な文書は最終化せず、作業文書を 5D/TEMP/395 に更新して次回会合にキャリーフォワードした。
- 8) その他 : WP5A からの QoS 及び Ubiquitous に関するリエゾン文書に対しては、次回 WP5A 会合が次回 WP5D 会合よりも後であることから次回会合でリエゾン回答文書を検討することとした。また、IEEE から入力された IMT-Advanced 無線インタフェース候補の名称変更に関する提案は、次回会合で討議することとなった。
- 9) SG8 に承認を求める文書。

5D/TEMP/335	(M.1457-10 Sec. 5.1),
5D/TEMP/341r1v2	(M.1457-10 改訂概要)
5D/TEMP/343r1	(M.1457-10 Sec. 5.6)
5D/TEMP/344	(M.1457-10 Sec. 5.2)
5D/TEMP/345	(M.1457-10 Sec. 5.3)
5D/TEMP/346	(M.1457-10 Sec. 5.4)
5D/TEMP/360	(M.1457-10 Sec. 5.5)

- 10) Carry forward documents: 今会合では、下記文書を次回会合へキャリーフォワードすることにした。

5D/679 Att. 5.1	(M.1457 Roadmap),
5D/681	(IEEE: RIT 名称),
5D/695	(WP5A : QoS 関連のリエゾン文書),
5D/697	(WP5A : Ubiquitous 関連のリエゾン文書),
5D/TEMP/340	(M.[IMT.RSPEC] Working Document),
5D/TEMP/350	(M.1580 Micro workplan)
5D/TEMP/351	(PDNR M.1580-4)
5D/TEMP/352	(PDNR M.1581-4)
5D/TEMP/353	(M.[IMT.RSPEC] Update Procedure)
5D/TEMP/363	(M.[IMT.RSPEC]Workplan)
5D/TEMP/364	(IMT.CRS Working Document)
5D/TEMP/365	(IMT.CRS Workplan)
5D/TEMP/391	(Working Document for Step 6)
5D/TEMP/394	(IMT.RADIO Workplan)
5D/TEMP/395	(IMT.RADIO Working Document)

- 11) Bookshelf に入れた Document.

無し

5. 2. 1 SWG IMT SPECIFICATIONS

- (1) 議 長 : Nicola Pio Magnani (伊)
- (2) 主要メンバ : 日本代表团 (坂中、佐藤(孝)、広池、木幡、田中、林、佐藤(一)、桂川、高野、石川)、中国、韓国、米国、英国、カナダ、独、イタリア、フランス、ロシア、インド、DoCoMo、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson 他、全 50 名程度
- (3) 入力文書 5D/682 (IEEE) , 5D/687 (ETSI), 5D/692 (ATIS), 5D/706 (BR/TIA TR45.5), 5D/714 (AT&T, Alcatel Lucent, Datang, Fujitsu, Hitachi, Huawei, NEC, DoCoMo, NSN, Qualcomm, Samsung,

Telecom Italia, Ericsson, ZTE), 5D/723 (AT&T, Telecom Italia), 5D/725 (IEEE) ,
5D/691,698 (米) , 5D/719 (日本), 5D/722 (AT&T), 5D/726(IEEE), 5D/734 (印)

- (4) 出力文書 : 5D/TEMP/335 (M.1457-10 Sec. 5.1),
5D/TEMP/340 (M.[IMT.RSPEC] Working Document),
5D/TEMP/341r1v2 (M.1457-10 改訂概要)
5D/TEMP/343r1 (M.1457-10 Sec. 5.6)
5D/TEMP/344 (M.1457-10 Sec. 5.2)
5D/TEMP/345 (M.1457-10 Sec. 5.3)
5D/TEMP/346 (M.1457-10 Sec. 5.4)
5D/TEMP/353 (IMT-ADV Doc for M.[IMT.RSPEC] Update Procedure)
5D/TEMP/357r1v2 (M.[IMT.RSPEC] GCS Procedure)
5D/TEMP/358 (M.[IMT.RSPEC] Liaison to EO)
5D/TEMP/360 (M.1457-10 Sec. 5.5)
5D/TEMP/363 (M.[IMT.RSPEC] Workplan)
5D/TEMP/397r1 (SWG-IMT SPECIFICATIONS Meeting Report)

(5) 審議概要 :

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、WG-TECH 管轄既存勧告の改訂と維持、TECHNOLOGY に関する他部門との連携、Question に対する検討、及び IMT-Advanced 詳細無線インタフェース勧告の検討である。既存勧告とは、M.1457 (IMT-2000 詳細無線インタフェース仕様)、M.1079 (QoS 要求条件) であり、今回合会では M.1457 改訂及び IMT-Advanced 詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関する論議が実施された。

(5-2) 審議概要と主要結果

勧告 ITU-R M.1457 の各無線インタフェースに対しては、第 10 版に向けた改訂に関して 5D/714 により 3GPP メンバから 5.1 章(CDMA DS)及び 5.3 章 (CDMA TDD)、5D/706 により BR 経由 TIAT R45.5 から 5.2 章(CDMA MC)、5D/692 により ATIS から 5.4 章(TDMA SC)、5D/687 により ETSI から 5.5 章 (TDMA/FDMA)、5D/682 により IEEE から 5.6 章(OFDMA TDD WMAN)の入力があり、それに基づいて改訂原案の検討を行った。まず、改訂文書のベースラインとなる文書の確認が行われ、ITU BR から SG5 で承認された第 9 版の文書が示されたため、各々の無線インタフェースでチェックを実施した。

また、改訂案作成に際しては ITU BR から 5D/784 にて改訂に必要な書類が提出されたとの報告があり、改訂に必要な条件が満たされたため第 10 版に向けた改訂概要を 5D/TEMP/341r1v2、5.1 章を 5D/TEMP/335、5.2 章を 5D/TEMP/344、5.3 章を 5D/TEMP/345、5.4 章を 5D/TEMP/346、5.5 章を 5D/TEMP/360、5.6 章を 5D/TEMP/343r1 に完成した。本改訂案は WG-TECH Plenary、WP5D Plenary で合意され、各 Stakeholder SDO からのハイパーリンク情報入力を盛り込んで本年 11 月の SG5 に承認を求め上程される。

M.1457 の第 11 版に向けた改訂に関しては、AT&T と Telecom Italia から 5D/723 で 2011 年に行うという提案が、IEEE から 5D/725 で M.[IMT.RSPEC]の改訂と同期して行うとの提案が入力され議論となった。結論として AT&T が 2011 年は M.[IMT.RSPEC]作成に集中することが適当との考えから 5D/723 の提案を Withdrawn し、IMT-Advanced 詳細無線勧告である M.[IMT.RSPEC]の第 1 版に向けた改訂と同期して行うことで原則合意して、2011 年には改訂を行わないことを合意した。改訂スケジュール等外部団体に送付するリエゾン文書は次回合会で検討する。

IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、今回米国から 5D/691 として開発の手順、日本から 5D/719 として開発に必要な検討事項の入力があり、必要な作業、規定について討議を行った。

討議の結果 IMT-2000 の詳細無線インタフェース勧告 ITU-R M.1457 と同様に Global Core Specification(GCS)、及び外部団体のハイパーリンクを利用する形での作成を前提とすることを合意し、その手順を規定した文書を 5D/691 の添付文書を基に 5D/TEMP/357r1v2 として作成した。本文書は WG-TECH Plenary、WP5D Plenary で承認され IMT-ADV/24 として発行される。

また、IEEE は本手順をサポートし、IEEE 技術における対応案を 5D/725 で入力し、IEEE 技術の提案者である TTA はこれに同意する旨の発言を行った。IEEE 技術のもう一つの提案者である日本は IEEE の寄書提案内容への対応に関して結論が出ていないため、次回会合において IEEE 技術提案者としての対応を明確にするとのコメントを行った。

また、IMT-Advanced 無線インタフェース候補の提案者に対して、今回で決定した内容を連絡するリエゾン文書を 5D/TEMP/358 として作成、発出した。

M.[IMT.RSPEC]に関しては、日本寄書 5D/719 の添付文書を基に各無線インタフェースの情報を Annex に記載する形式で作業文書を 5D/TEMP/340 に作成し、次回会合にキャリアフォワードした。勧告文書のページ削減方法に関しては今後の課題として次回討議することとなった。

M.[IMT.RSPEC]の改訂に関する手順に関しては、米国提案(5D/698)及び AT&T 寄書(5D/722)を基に討議を行った。これらの提案では IMT-2000 の改訂と同様に meeting Y,Y+1,Y+2 の 3 回会合が必要との記載となっているが、meeting Y+2 は外部団体に必要な Transpose 期間を考慮して Y+2a (Y+1 の次の会合)、Y+2b (Y+1 の 2 回後の会合)と選択可能としており、Y+1 会合の 3 回後の会合で外部団体のハイパーリンクを確認する記載もあるため、改訂に必要な会合数は 5 回となり、現状の IMT-2000 と異なった手順となる。また、M.[IMT.RSPEC]の改訂にあたっては決議 57 の規定に基づいて要求条件・評価手順の改訂も含めて考えるべきとの意見もあり、合意に至らなかった。

本改定手順は作業文書を 5D/TEMP/353 に作成し、次回会合にキャリアフォワードして第 10 回会合までで結論を出すことに合意した。

(6) 今後の課題：

- ・ IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 第 10 版に向けての改訂に関しては、ARIB/TTC は Stakeholder SDO としてハイパーリンク等の必要情報を ITU に連絡する必要がある。
- ・ 日本は 3GPP 技術、IEEE 技術の提案者としてリエゾン文書にて連絡された手順に則り期限までに必要な入力を実施する必要がある。
- ・ ARIB/TTC は 3GPP 技術の提案者としてリエゾン文書にて連絡された手順に則り期限までに必要な入力を実施する必要がある。
- ・ M.[IMT.RSPEC]の作業文書に関しては、ページ数削減案を検討し、必要であれば寄書入力を行う。
- ・ M.[IMT.RSPEC]の改訂手順に関しては、その内容を吟味し、必要であれば寄書入力を行う。

5. 2. 2 SWG M.1580 & M.1581

- (1) 議長：U. Lowenstein (独)
- (2) 主要メンバー：日本代表团(菅田)、米、加、仏、伊、中、韓、他各国、AT&T、QC、INTEL、TIA、(約 15 名)
- (3) 入力文書：Update M.1580/81 : 5D/688R1、5D/689 (TIA TR-45.5)、5D/702、5D/703 (3GPP TSG RAN) 5D/744 (WiMAX Forum)
carried forward 文書：5D/679 CH05-Att.5.3 (5D/TEMP/288R1) (作業文書 M.1580-4)、
5D/679 CH05-Att.5.4 (5D/TEMP/289R1) (作業文書 M.1581-4)
詳細作業計画 : 5D/679 Chapter 2R1 Att. 2.9
- (4) 出力文書：5D/TEMP/348r1 SWG-M.1580 & M.1581 議長報告

5D/TEMP/349r1	外部組織及び主管庁に向けた事務連絡文書（勧告 ITU-R M.1580-3 / M.1581-3 の改訂）
5D/TEMP/350	勧告 ITU-R M.1580-3, M.1581-3 の更新のための詳細作業計画
5D/TEMP/351	ITU-R 勧告 M.1580 の Rev.4 へ向けた作業文書
5D/TEMP/352	ITU-R 勧告 M.1581 の Rev.4 へ向けた作業文書

(5) 審 議 概 要 :

(5-1) 経緯と所掌

- ・ 本 SWG の所掌は、IMT-2000 無線インタフェースの不要輻射に関する ITU-R 勧告 M.1580/M.1581 の 6 つの Annex における一般的な不要輻射特性に関する更新資料の取り込みを含め、適宜 ITU-R 勧告 M.1580/M.1581 を修正することである。次回第 9 回会合における完成を目指し、第 4 版へ向けた作業を行っている。

(5-2) 審議概要と主要結果

- ・ TIA、3GPP 及び WiMAX Forum からの入力文書で提案された作業文書における変更内容については、作業文書に含むことを合意した。
- ・ 外部標準化組織から入力された周波数帯を見るといくつかのバンドクラスが、M.1580/81 のタイトルで記載されている「地上系」IMT-2000 とは異なる周波数帯が含まれている。M.1457 の更新との整合性を考慮すべきではないか、但し、どこかの主管庁が当該帯域で IMT-2000 の技術を使用しているかもしれないので注意が要るとのコメントがあった。このよう周波数帯としては L バンド、400MHz European PAMR band であった。また、Annex 1、Annex 2、Annex 3、Annex 6 に記載のあるこのような周波数帯域において、IMT 地上コンポーネントに特定されていない帯域については、現状の記載に注記することとした。将来に類似の状況が発生したら、同様のアプローチを採用する意向。
- ・ このため、外部の標準化検討団体に WP5D のこの取扱いについて事務連絡文書を送付し周知することにした。
- ・ 勧告 ITU-R M.1580-4 及び M.1581-4 に向けた更新文書が次回会合にキャリーフォワードされ、次回会合で第 4 版を完成することとした。そして、2010 年 11 月 22、23 日に開催される ITU-R SG5 会合に、最終版を承認のために提出される。

(6) 今後の課題 :

- ・ 国内無線設備規則との間で不整合が生じることのないように適宜対処する。

5. 2. 3 SWG RADIO ASPECTS

(1) 議 長 : Marc Grant(米)

(2) 主 要 メ ン バ : 日本代表团（坂中、佐藤(孝)、木幡、田中、菅田、本多、林、佐藤(一)、桂川、高野、石川）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、独、フランス、ロシア、インド、DoCoMo、IEEE、WiMAX Forum、Telecom Italia、Intel、Qualcomm、Ericsson 他、全 60 名程度

(3) 入 力 文 書 : 5D/696 (WP5A), 5D/707 (Canada), 5D/731,764 (日中韓), 5D/734 (印), 5D/700 (米), 5D/752 (仏) 5D/747 (WiMAX Forum), 5D/767 (ZTE,Datang), 5D/778 (Brazil)

(4) 出 力 文 書 : 5D/TEMP/364 (IMT.CRS Working Document),
5D/TEMP/365 (IMT.CRS の Micro Workplan),
5D/TEMP/394 (IMT.RADIO の Micro Workplan),
5D/TEMP/395 (IMT.RADIO Working Document),
5D/TEMP/396 (SWG-Radio Aspects Meeting Report)

(5) 審 議 概 要 :

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は IMT-Advanced の無線インタフェース選定、CRS に関わる検討である。

(5-2) 審議概要と主要結果

CRS に関しては今回米国、フランス、WiMAX Forum、中国企業及び Brazil から寄書入力があり、前回会合と同様に Drafting Group (DG) を設けて討議を行い作業文書を 5D/TEMP/364 に作成した。

米国寄書 5D/700 は Introduction において Regulation に関する記述の変更を提案しており、WRC の Agenda Item 1.19 にも絡む可能性があるため議論となったが、IMT に特化した形で Regulation に関連する事項がある場合には Case by case で対応するとの認識で進めることとなった。

フランスは 5D/742 にて従来の考え方を踏襲して、Intra-Operator のシナリオを重視する提案を行ったが、他の入力寄書の提案は Inter-Operator、空いている周波数帯域等も考慮すべきとの意見もあり、今後さらに議論を進めることとなった。

また、本文書の完成は従来の予定では第 11 回会合であったが、今回、完成を第 12 回会合と合意し、Micro Workplan を 5D/TEMP/365 に更新した。

尚、DG 議長の Ward 氏に確認したところ、議長は CRS の Question である Question 241-1/5 に基づいて作業を実施することも可との認識であったが、従来の WP5D での合意は IMT の Question である Question 229 の配下で行うこと、Question 241 は、SG5 では WP5A に割り当てられていることを説明し、その認識の下で作業を行ってもらうことで納得してもらった。

IMT.RADIO に関しては今回日中韓から 5D/731、Canada から 5D/707 の具体的な修正提案入力があり、討議を行った。まず、スコープから“Framework”の文言を削除する提案に関しては合意され、スコープ部はエディトリアルな修正を加えて合意した。

ステップ 5 及びステップ 6 に関する項に関しては、Canada は WP5D としての結論を記載すべきであるとの提案を行っており、韓国も各ステップで結論を出すことが好適であるとの意見を表明した。これに対し WP5D 議長は選定ステップにおいて結論を出すのはアセスメント結果(ステップ 6)及び Consensus Building (ステップ 7)であり、ステップ 5 の時点では WP5D としての結論は無いと主張した。議論の結果、ステップ 5、ステップ 6 とも SWG-EVAL が担当 SWG であるため、SWG-EVAL での討議結果を尊重することで合意し、SWG-EVAL で作成した IMT-ADV 文書及びアセスメント結果について、纏めのみを本文に、詳細内容は Annex に Reference で掲載するとの形式で作成することを合意した。

ステップ 5 の作業は SWG-EVAL での完了が今回会合の最終盤であり、ステップ 6 が作業中であるため、この項の具体的な文書は最終化せず、作業文書を 5D/TEMP/395 に更新して次回会合にキャリーフォワードした。また、タイトルもスコープに合わせて変更したが、ステップ 4-7 等の表現となっているため、次回見直しが必要である。

その他 WP5A からの SDR に関するリエゾン文書 (5D/696)は紹介のみで特に議論無く、キャリーフォワードもされなかった。

(6) 今後の課題：

IMT.RADIO に関して、ステップ 7 及びステップ 8 に向けた項目に関して日本は提案者としてステップ 7 に対する対応に合わせ、必要であれば文書の検討を行う。

CRS に関しては、内容が IMT に特化したものから拡張される入力がないため、次回までに検討を行い、必要であれば寄書入力を行う。

5. 2. 3. 1 DG COGNITIVE RADIO SYSTEMS

(1) 議長：Mr. Stephen Ward (米)

- (2) 主要メンバ：米、加、英、独、豪、仏、露、スウェーデン、フィンランド、中、韓、他各国、Ericsson、Qualcomm、Intel、WiMAX-F、アルカテル・ルーセント、ノキア、日本代表团（石川、桂川、高野、菅田）、全 20 名程度
- (3) 入力文書：Carried forward document：5D/314（QC）、
入力 Doc.：5D/696（WP5A）、700（米）、752（仏）、767（ZTE, DaTang Telecon, Technology & Industry）、778（Brazil）
- (4) 出力文書：5D/TEMP/364（PDNReport ITU-R M.[IMT.CR]に向けた作業文書）
5D/TEMP/365（作業計画）

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 DG の所掌は IMT に関する技術運用事項（IMT の無線インタフェース、CRS 技術、Femto Access Node）における CRS に係る検討である。

前回会合で WP5A、WP5B 等が独自に CRS に関し検討していることから、WP5D でも IMT 特有事項について検討することは問題ないと判断し、DG を設けて検討を開始した。

(5-2) 審議概要と主要結果

- ・ CRS に関しては今回 WP5A、米国、仏、中国の ZTE 等のグループ、伯から寄与文書があり、そこから主要点を抽出して、前回作成した作業文書と統合して改定した作業文書を作成した。
- ・ 第 12 回会合でレポートの改定が完成する作業計画も作成された。（議論では、検討作業の目標について PDN Report 作成という一文を削除したことから分かるように、実際には、当該文書は検討の方向性を与えるガイドラインの性格の内容となっている。）
- ・ 議長の本 DG の作業として、次の意向が表明された。①この統合文書は議長報告に添付する。②今後、数回の会合で改善していく。③適宜、WP5A にフィードバックする。④技術面にのみ焦点をあてる。
- ・ WP5D は制度事項を決定しないが、技術のみの検討でなく、制度面の考慮も必要という意見があった。（独、伊が理解示す。）これに対し、DG 議長は ITU-R SG5 なので技術のみの検討が原則。主管庁は制度面について独自に選択可能と見解を示した。
- ・ 検討中の文書が言及する見地については、より一般的な表現が適当とする考え方で議論すべきとする意見により、その方針に従って今後の議論が進められる。DG 議長も意向として、より広い意味を持たせたいとの意向が表明された。
- ・ 作成中の文書は Intra-operator case に関する議論であるとして、伊が本件議論の前提条件に言及した。仏も Intra-operator シナリオは、スペクトラム有効利用の観点で焦点を当てていると発言があった。
- ・ 技術はパワフル（こうしたいと思ったことを技術的に実現可能）だが、inter-operator、non IMT operator 等のシナリオの場合については、分離が重要。制度的問題が克服されてから、議論する必要という意見もあった。（WiMAX-F）implementation のシナリオ問題として、3 つのケースに分けて考える必要があり、それがばらばらに議論されると混乱する。ケースとして 1) inter-operator、2) intra-operator、3) non-IMT operator を区別して議論すべきとの意見があった（独）。Single シナリオが唯一でなく、Single シナリオのみ既述すると、何にでも Single シナリオで対応可能と解釈される懸念があるので、全ての可能性を同レベルで記載した方がいいと主張（伊）。一般的なレポートなので、特定のシナリオに特化すべきでないとする意見が多かった（仏、独、ノキア、ZTE）。結局、種々シナリオについての入力を求めることとした。

CRS については、「IMT オペレータに対する Intra-Operator シナリオの特別なケースが、調和がとれ、グローバルな、かつ制度的に整った IMT スペクトラム環境で CRS の能力から多くの利便が得られる理想的な候補である。」ということが、現状の認識として明文化できた内容である。

- ・ 本件の議論における留意点として次の点が挙げられる。
 - － 周波数利用に係る免許は、自動的に引き継がれない場合があり注意が必要。(伊)
 - － スペクトラムの使用方法に関し、寄与文書では“borrow”という用語が使用されていたが、“Access spectrum from IMT-operator / non-IMT operator”に置き換え、IMT オペレータおよび IMT オペレータ以外からのアクセスに関するシナリオについては、将来の広範な議論である。(Editor's note に示された記述)
 - － 「暫定的な CRS 技術を実現する最も可能性のある方法としての無線技術間の相互使用の採否」、「CRS の代表的アプローチ（機会に応じたスペクトラムへのアクセス）」、それに関連した「スペクトラムの不使用部分の特定と共用」に関する記述の使い方、「システムの変更の制御方法（徐々に行う必要がある）、現行システムとの両立性、QoS（CRS にとっての QoS とは）、事業者がサービス提供上の QoS を設定する現行の方法、設計目標」の取扱いについては、種々議論があつて纏まらなかった。ITU-T との議論も必要。
 - － IMT-Mitigation の検討において、CRS 技術が Mitigation に有効として DG CRS での検討結果を期待する動きがある。しかし、現状では Mitigation に有効な CRS 側の結論は何も得られてなく、今後の検討如何の部分であり、IMT-Mitigation からの期待に対し懸念がある。本件に関し、DG 議長は、CRS に係る具体的な技術内容、今後のスケジュール等について IMT-Mitigation との間で何も約束していない。
 - － 技術的な検知は帯域の使用にも関連させて考える。

(6) 今後の課題：

CRS に関しては必要であれば寄書入力を検討する。

5. 2. 4 SWG EVALUATION

- (1) 議長：Hu WANG (中国)
- (2) 主要メンバ：日本代表団（坂中、佐藤(孝)、石川、本多、田中、鬼頭、他）、中村(3GPP)、中国、韓国、インド、カナダ、IEEE、Intel、ATIS、TR-45 他 全 40 名程度
- (3) 入力文書：5D/710 (BR-IEG), 715 (ETSI), 716 (ATIS), 717 (ATIS), 727 (IEEE), 736 (BR-TR45), 738 (BR-3GPP), 739 (BR-TTA), 740 (BR-TTA), 743 (BR-REG), 750 (BR-WCAI), 756 (Convener of CG), 757 (BR-TCOE India), 760 (BR-ChEG), 763 (BR-ChEG), 764 (日中韓), 769 (BR-WINNER+), 775 (伯), 779 (BR-WFEG), 780 (BR-REG), 781 (BR-CEG)
- (4) 出力文書：5D/TEMP/377 (イスラエル評価グループによる IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/378 (ATIS WTSC による IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/379 (ATIS WTSC による IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/380 (TR-45 評価グループによる IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/381 (TTA PG707 による IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/382 (TTA PG707 による IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/383 (ロシア評価グループによる IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/384 (WCAI による IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/385 (TCOE India による IMT-Advanced 候補技術の評価),

5D/TEMP/386 (中国評価グループによる IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/387 (WINNER+評価グループによる IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/388 (WiMAX Forum 評価グループによる IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/389 (カナダ評価グループによる IMT-Advanced 候補技術の評価),
5D/TEMP/390 (登録評価グループの付加的な報告),
5D/TEMP/391 (ステップ 6 のための作業文書),
5D/TEMP/398 (SWG-Evaluation 議長報告)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、IMT-Advanced の無線インタフェースの評価に関する技術的な課題を解決することである。
今会合では、評価グループから提出された最終評価レポートのレビュー、最終評価レポートの IMT-ADV 文書化、IMT-Advanced 開発プロセスのステップ 6(アセスメント)に関する作業などを行った。

(5-2) 審議概要と主要結果

最初に今回の SWG の作業として、前回の WP5D 第 7 回会合報告(5D/597, Attachment 2.11)と日中韓共同寄書(5D/764)に基づいて、最終評価レポートのレビューを行うこと、この評価レポートの IMT-ADV 化を行うこと、ステップ 6 の作業を開始することであることが合意された。

11 評価グループから最終評価レポートが入力され、使用している評価手法の確認などについて、これらのレビューを行った。次に、評価レポートを IMT-ADV 化するためのカバーシートテンプレートを日中韓により提案された内容を基に作成した。評価結果の記述に関しては、評価グループごとに様々な場合があるため、複数技術をひとつのカバーシートで対応できるように章立てを修正、また、要求条件ごとに記述を行い、さらに性能評価に関しては試験環境ごとに記述が可能なように、提案された案に対して修正を行った。カバーシートテンプレートの完成後に、各評価グループによりカバーシートが作成された。作成されたカバーシートでは、すべての評価はレポート ITU-R M.2135-1 を採用しており、評価した項目については ITU の要求条件を満足していることが記載された。

前回 WP5D 会合でインドから提案された Open area rural 環境を使用した付加的な評価が TTA PG707、ロシア評価グループ、TCOE India、中国評価グループによって行われた。前回会合でこの試験環境は Informative なものであることが結論となっていたが、インド以外の評価グループも評価を実行してきたため、この試験環境を IMT-ADV 化するなど、再度扱いが議論となった。本環境はモデルとして時期尚早であるとの意見もあり、最終的には、SWG 議長報告にこのモデルの必要性について記述すること、及び、カバーシートの付加的評価手法の節に、本環境による評価を記述することとなった。

ARIB 及び ETSI は、自己評価を行うなどの理由により、他の評価グループとは状況が異なるため、付加的なレポートとして、IMT-ADV 化を行った。

ステップ 6 の作業を開始した。今回会合では、提案された候補技術に対する、すべての評価グループの評価結果の総括表を作成し、ITU の要求条件を満足しているという共通認識は得られたものの、ステップ 6 は次回会合の議題であるため合意はせず、作業文書(5D/TEMP/391)としてキャリアフォワードした。

(6) 今後の課題:

次回会合においては、ステップ 6 を完了するための作業が行われる予定である。

5. 2. 5 SWG COORDINATION

(1) 議長: 本多 (日本)

- (2) 主要メンバ：日本代表团（坂中団長、佐藤（孝）、佐藤（一）、石川、鬼頭、林、田中、広池、木幡、他）、中村（ドコモ）、中国、韓国、米国、英国、カナダ、IEEE、WiMAX Forum、Intel、Qualcomm、Ericsson、AT&T、ブラジル、評価グループ他 全約 80 名程度
- (3) 入力文書：5D/710(イスラエル評価グループ), 5D/715(ETSI), 5D/715(ATIS WTSC), 5D/716 (ATIS WTSC), 5D/727(IEEE), 5D/736(TR-45), 5D/738(3GPP), 5D/739(TTA PG707), 5D/740(TTA PG707), 5D/743(ロシア評価グループ), 5D/750(WCAI), 5D/756(IMT-Advanced コレスポネンシ・グループ・コンビナ), 5D/757(TCOE India), 5D/760(中国評価グループ), 5D/769(WINNER+), 5D/775(ブラジル), 5D/779(WiMAX Forum), 5D/780(ロシア評価グループ), 5D/781(カナダ評価グループ)
- (4) 出力文書：5D/TEMP/392Rev.1 (評価グループへのリエゾン),
5D/TEMP/393 (SWG 議長報告)

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、IMT-Advanced 無線インタフェース技術開発プロセス（提案・評価プロセス）のステップ 3（提案の受領および受領確認）、ステップ 5（外部評価グループ活動のレビューと調整）およびステップ 7（評価結果の考慮、コンセンサス・ビルディングおよび決定）においてコーディネーションを行う WP5D のフォーカル・ポイントとなることである。

(5-2) 審議概要と主要結果

本 SWG 会合は今会期中に 3 回開催された。IMT-Advanced 無線インタフェース技術提案の最終評価レポートが外部評価グループから入力され、主にこれらを審議した。WG Technology Aspects において、5D/764(日中韓)に基づく作業方法が合意済みであり、その作業を実施した。

まず第 7 回 WP5D 会合後の評価に関する活動を見直した。これらは、IEEE による評価コーディネーション会合(5D/727)、および 3GPP による評価ワークショップ(5D/738)である。また IMT-Advanced 評価のコレスポネンシ・グループ活動についても報告が行われた(5D/756)。この結果、評価グループのためにコーディネーションは十分行われたとの認識に至った。

つぎに、評価グループからの最終評価レポートのチェックを行った。これらは、5D/710(イスラエル評価グループ), 5D/715(ATIS WTSC), 5D/716(ATIS WTSC), 5D/727(IEEE), 5D/736(TR-45), 5D/739(TTA PG707), 5D/740(TTA PG707), 5D/743(ロシア評価グループ), 5D/750(WCAI), 5D/757(TCOE India), 5D/760(中国評価グループ), 5D/769(WINNER+), 5D/779(WiMAX Forum), 5D/780(ロシア評価グループ), 5D/781(カナダ評価グループ)である。技術的な部分については SWG EVALUATION の所掌であるので、手続的な部分について確認を行った。11 の評価グループから評価レポートの入力があり、プロセスのステップ 4(評価グループによる評価)が終了したことを確認した。なお、5D/715(ETSI)は評価レポートではなく、ARIB の状況報告(5D/628)とともにその他のレポートとして、SWG EVALUATION で扱いが議論された。また 5D/775(ブラジル)は、2 つの無線インタフェース候補提案を IMT-Advanced 技術として支持するもので、今会合では留意されることとなった。

次に全評価グループに対するリエゾンの草案作成を行った。リエゾンには、今会合での評価レポートの受領、ステップ 4 終了の通知、および評価グループへの謝辞を含むことで内容を合意した。なお、韓国、日本、英国、米国等がステップ 5 も終了するべきとの主張を行い、ステップ 5 終了の通知もリエゾンに示すこととなった。最終的に SWG EVALUATION が、評価レポートを ADV 文書とすることで合意したので、これら ADV 文書の番号 (IMT-ADV/10 から IMT-ADV/23) をリエゾンに記述した(5D/TEMP/392Rev.1)。

最後に議長から、半年間評価活動を行いそれぞれの評価レポートをまとめた評価グループに対して謝辞があり、

閉会した。

(6) 今後の課題：

次回第9回会合では、コンセンサス・ビルディングを行い、最終的に勧告化する無線インタフェースを決定する作業が行われる予定である。その方法について検討して提案する必要がある。

5. 3 WG SPECTRUM ASPECTS

(1) 議長：Alan Jamieson（ニュージーランド）

(2) 主要メンバ：米、加、メキシコ、英、仏、独、露、フィンランド、スウェーデン、中、韓、印、ニュージーランド、クアルコム、アルカテル・ルーセント、エリクソン、ノキア、インテル、WiMAX-F、テレフォニカ、日本代表团（坂中、橋本、小松、広池、北、藤井、新）、全80名程度

(3) 入力文書：Doc.5D/

①全般：679（第7回会合議長報告、Chapter 2、Chapter 4）

②WG Spectrum Aspects：

- IMT.700 関連：679 (Att. 4.13)
- JTG5-6 の結果報告：683 (SG5、6 議長)
- ITU-T SG9 の新研究課題：694 (WP6A)、758 (ITU-T SG5)

③SWG Sharing Studies：____はキャリアフォワード文書

- UHF帯共用検討：617 (米)、683 (SG5、6 議長)、693 (WP6A)、728 (オマーン)、762 (Huawei, ZTE)
- レポート M.2039 改訂：690 (TIA)、704 (3GPP)、741 (TTA)
- 新レポート案[ANT.ISO]：748 (WiMAX-F)、761 (中)、765 (中)、766 (中)、768 (フランステレコム)、771 (エリクソン)
- 新勧告案[IMT.MITIGATION]：684 (WP4A)、705 (3GPP)、720 (日)、721 (日)、732 (韓)、735 (オランダ)、742 (米)、745 (WiMAX-F)

④SWG Frequency Arrangements：____はキャリアフォワード文書

- 勧告 M.1036 改訂：619 (米)、622 (加)、638 (WiMAX-F)、643 (UTMS-F)、656 (エリクソン)、659 (UAE)、665 (コロンビア)、701 (メキシコ)、708 (加)、737 (テレフォニカ)、749 (WiMAX-F)、751 (コロンビア)、753 (仏)、754 (ノキア等)、755 (仏、独、スウェーデン)、773 (ノキア等)、776 (ブラジル)

(4) 出力文書：Doc.5D/TEMP

- 354 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に係る作業計画
- 355 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に向けた作業文書
- 356 SWG Frequency Arrangements 議長報告
- 366 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP6A へのリエゾン文書
- 367 M.2039 改訂及び UHF 帯の共用検討に関わる外部団体へのリエゾン文書
- 368 新勧告案[IMT.MITIGATION]の作業に関わる WP4A へのリエゾン文書
- 369 新レポート案[ANT.ISO]の作業に関わる WP1A, 5A へのリエゾン文書
- 370 ITU-T SG9 が作成している新研究課題に関する ITU-T SG5 へのリエゾン文書
- 371 UHF 帯における共用検討の新レポート案の作業文書
- 372 IMT-2000 共用検討パラメータに関するレポート M.2039 の改訂草案

- 373 MT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案草案[ANT ISO]作成に向けた作業文書
- 374 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT Mitigation]作成に向けた作業文書
- 375 SWG Sharing Studies 議長報告
- 376 SWG Sharing Studies の作業計画
- 402 WG Spectrum Aspects 議長報告

(5) 審 議 概 要 :

(5-1) 所掌と経緯

WG Spectrum Aspects(WG-SPEC)は、IMT の周波数全般に関連する事項についての検討を行うことを所掌とし、周波数アレンジメント勧告の改訂、共用検討関連の検討、リエゾン文書の作成について議論を行った。

(5-2) 体制

第 1 回 WG 会合において、SWG Sharing Studies と SWG Frequency Arrangements の 2 つの SWG を設置することが承認された。前回 WP5D 会合に引き続き、SWG Sharing Studies は M. Kraemer 氏（独）が議長、SWG-Frequency Arrangements は Y. Zhu 氏（中）、及び A. Sanders 女史（米）が共同議長として、それぞれ担当することが承認された。SWG の構成は以下の通り。

SWG 名	SWG 議長・副議長	主なトピック
SWG-Sharing Studies	議長 M. Kraemer氏（独）	共用検討
SWG-Frequency Arrangements	共同議長 Y. Zhu氏（中） A. Sanders女史（米）	勧告M.1036-3の改訂

(5-3) 審議概要と主要結果

第 1 回会合では、SWG Sharing Studies と SWG Frequency Arrangements の 2 つの SWG の設置を承認し、SWG に割り振られた文書は各 SWG で審議することにした。また、以下の 3 項目について議論が行われた。

(1) 698-960MHz帯の周波数アレンジメントのための作業文書[IMT.700]の取り扱い

本作業文書に関連する入力文書はなかった。WG 議長より、次回会合にキャリアフォワードすることが提案され、カナダが支持した。キャリアフォワードに際しては、当該作業文書は前回会合の議長報告として参照可能であるため、今回の議長報告に改めて添付はしないこととした。

(2) JTG5-6 後の作業について

文書 6D/683（SG5、6 議長）に基づき、橋本 SG5 議長より、JTG5-6 の検討が完了したことに伴うその後の作業の進め方に関する説明が行われた。特段コメントはなく、WG 議長より、SWG Sharing Studies の検討で考慮するように指示が行われた。

(3) ITU-T SG9 の新研究課題の検討について

WG 議長より、文書 5D/694（WP6A）、758（ITU-T SG5）の説明が行われた。SWG Sharing Studies 議長より、カウンセラに相談したところ、ITU-T、ITU-R の事務局長間で議論があったこと等が紹介され、検討にあたって適切な無線パラメータを反映することの必要性が述べられ、WP6A と同様なりエゾン文書を WP5D から返すべきであろうとコメントされた。WG 議長からの支持があり、SWG Sharing Studies で具体的なりエゾン文書の作成を行うことにした。

第2回会合（最終）では、まず各 SWG 議長からの報告（SWG Sharing Studies : 5D/TEMP/375、SWG Frequency Arrangements : 5D/TEMP/356）が行われた。以上の報告について、特段質疑はなかった。引き続き、以下の出力文書の審議が行われた。

<審議された出力文書>

TEMP/366 UHF帯の共用検討の作業に関わるWP6Aへのリエゾン文書

- ・ 仏より、UHF 帯の共用検討に関する作業文書のタイトルには研究課題 229 を引用しているが、本リエゾン文書には記載をする必要がないかと確認のコメントがあった。SWG Sharing Studies 議長は、WP5D にアサインされている研究課題なので特段引用する必要はないと回答し、仏が固執しなかったため、修正は行わなかった。
- ・ 一部エディトリアルな修正を行って、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/367 M.2039 改訂及びUHF帯の共用検討に関わる外部団体へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/368 新勧告案[IMT.MITIGATION]の作業に関わるWP4Aへのリエゾン文書

- ・ 一部エディトリアルな修正を行って、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/369 新レポート案[ANT.ISO]の作業に関わるWP1A, 5Aへのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/370 ITU-T SG9 が作成している新研究課題に関するITU-T SG5 へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/376 SWG Sharing Studiesの作業計画

- ・ 特段コメントなく、WP5D 議長報告の第2章に添付することにした。

TEMP/354 M.1036 勧告改訂の作業計画

- ・ 特段コメントなく、WP5D 議長報告の第2章に添付することにした。

続いて、次回会合へキャリーフォワードする文書の確認が行われた。

- ・ SWG Sharing Studies : 5D/TEMP/371、372、373、374、375
- ・ SWG Frequency Arrangements : 5D/550、619、622、638、643、708、749、754、773、5D/TEMP/355、356
- ・ 作業文書[IMT.700] : 5D/679 Attachment 4.13

以上で、WG Spectrum Aspects の審議を終了した。

(6) 今後の課題 :

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂、及び 698-960MHz 帯の周波数アレンジメント策定に関わる作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、以下の点を考慮して、適切に対処していく必要がある。

- (1) 勧告 M.1036-3 の改訂作業については、次回会合で安定化した内容とすることが合意されたため、作業文書に記載されている日本の提案内容を含め、最終的なまとめ方を意識した検討を行っていく必要がある。
- (2) 作業文書[IMT.700]は、我が国における 700/900MHz 帯の利用に関わる国内の検討状況を注視し、今後の対応の検討を行っていく必要がある。
- ・ 共用検討関連では、以下の点を考慮して、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、適切に対処していく必要がある。
 - (1) 新勧告案[IMT Mitigation]の作成に当たっては、我が国の技術的検討内容が作業文書に反映されていることを踏まえ、次回会合で新勧告案が完成されるよう対処していく必要がある。
 - (2) レポート M.2039 の改訂は、外部団体からの意見が審議に適切に反映されるよう対処しつつ、次回会合でレポート改訂案が完成されるよう対処していく必要がある。
 - (3) 新レポート案[ANT ISO]の作成の作業は、作業文書の内容の適切性の確認を行うとともに、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。
 - (4) UHF 帯における共用検討は、作業文書の内容の適切性の確認を行うとともに、我が国では当該周波数帯の一部を IMT に使用（及び使用予定）であることを踏まえ、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。
 - (5) ITU-T SG9 の新研究課題の検討については、検討されている周波数帯の一部が、我が国では IMT に使用（及び使用予定）であることを踏まえ、議論の動向を注視し、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。

5. 3. 1 SWG SHARING STUDIES

- (1) 議長：M. Kraemer（独）
- (2) 主要メンバー：米、加、英、独、仏、露、中、韓、印、豪、ニュージーランド、スウェーデン、フィンランド、ブラジル、ロシア、他各国、UMTS-F、WiMAX-F、日本代表团（坂中、橋本、佐藤（孝）、広池、新、藤井、外山、菅田、北、高野、木幡、小松）、約 70 名程度
- (3) 入力文書：Doc.5D/ 617 (米), 683 (SG5 & SG6 議長), 684 (WP 4A), 690 (TIA TR-45.5), 693, 694 (WP 6A), 704 (3GPP TSG-RAN), 705 (3GPP TSG-RAN), 720,721 (日), 728 (オーストラリア), 732 (韓国), 735 (オランダ), 741 (TTA), 742 (米), 745,748 (WiMAX フォーラム), 758 (ITU-T SG5), 762 (Huawei, ZTE), 761, 765, 766 (中), 768 (フランステレコム), 771 (エリクソン)
- (4) 出力文書：Doc.5D/TEMP
 - 366 UHF 帯共用検討に関する WP6A へのリエゾン文書
 - 367 IMT 共用検討パラメータに関するレポート M.2039 の改訂に関する外部団体へのリエゾン文書
 - 368 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]に関する WP4A へのリエゾン文書
 - 369 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]に関する WP1A 及び WP5A へのリエゾン文書
 - 370 ITU-T/SG9 における新研究課題に関する ITU-T/SG5 へのリエゾン文書
 - 371 UHF 帯共用検討に関する新レポート草案に向けた作業文書
 - 372 IMT 共用検討パラメータに関するレポート M.2039 の改訂草案
 - 373 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]に向けた作業文書
 - 374 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]に向けた作業文書

375 SWG Sharing Studies の議長報告

376 SWG Sharing Studies に関する作業計画

(5) 審 議 概 要 :

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG は、IMT-2000、IMT-Advanced の周波数帯における共用検討、共用検討に用いるパラメータを主な所掌とし、WP5D 第 2 回会合から M. Kraemer 氏（独）が SWG 議長を務めている。

今会合では、決議 224 に基づく UHF 帯の共用検討、IMT 共用検討パラメータに関するレポート M.2039 の改訂、3.4-3.6GHz 帯の共用改善技術の新勧告草案[IMT-Mitigation]の作業文書と WP4A へのリエゾン文書、基地局併設等のアンテナ共用に関する新レポート草案[ANT Isolation]の作業文書、その他 ITU-T からのリエゾン文書への回答等についての審議が行われた。

(5-2) 体制

第 1 回 SWG 会合において、下表の通り 4 つのドラフティンググループを設置することと、DG 議長が承認された。

名称	議長	内容
DG UHF SHARING	L. Marti 女史（仏）	決議224に基づくUHF帯における移動業務と他業務との共用検討
DG REVISION M.2039	J.P. Millet 氏（仏）	IMT共用検討パラメータに係るレポートM.2039の改訂作業
DG IMT MITIGATION	J. Lewis 氏（サムソン）	3.4-3.6GHz帯のIMTとFSSの共用改善技術に関する新勧告草案の作業文書及びリエゾン文書への対応
DG ANTENNA ISOLATION	S. Magnasson 氏（エリクソン）	IMTを含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案の作業文書

(5-3) 審議概要と主要結果

第 1 回会合では、SWG に割り当てられた文書の紹介と質疑が行われ、上記 4 つのドラフティンググループの設立が合意され、DG 議長が承認された。主な審議内容と結果は以下の通りである。

① UHF帯の共用検討関連（入力文書：5D/617, 683, 693R1, 728, 762）

5D/617 (米)

・ SWG 議長より、キャリアフォワードされたものと説明され内容の説明なし。ノーコメント。

5D/683 (SG5 & SG6 議長)

・ SWG 議長より、昨日の WG-SPECTRUM で紹介された JTG5-6 終了に関する情報と説明。ノーコメント。

5D/693 Rev1(WP 6A)

・ SWG 議長より、昨日の WG-SPECTRUM で紹介された WP5D のリエゾンへの返答リエゾン文書と説明された。クアルコムより、WP6A 議長報告の Annex 15、18 だけでなく、16、17 も有益と指摘された。

5D/728 (オマーン)

・ SWG 議長より、JTG5-6 に提出した文書の一部であると説明。ノーコメント。

5D/762 (Huawei, ZTE)

・ クアルコムより、698-806 MHz/790-862 MHz の 2 つの帯域だけでなく隣接する帯域の検討も必要と指摘された。

② レポート M.2039 の改訂関連（入力文書：5D/690, 704, 741）

5D/690 (TIA TR-45.5)

・ノーコメント、

5D/704 (3GPP TSG RAN)

・仏より次回の 最終化に間に合うかとの質問があり、3GPP は 9 月なので 10 月の WP5D に改訂版が入力されるだろうと回答された。

5D/741 (TTA)

・SWG 議長より 8.75MHz のプロファイル追加を提案しているが、M.1580/M.1581 と同じにする必要があるとし、DG で詳細を議論して欲しいと要請した。

③ IMTとFSSの共用改善技術に関する新勧告草案関連（入力文書：5D/684, 705, 720, 721, 732, 735, 742）

5D/684 (WP 4A)

・Lewis 氏が、幾つかいい指摘（Good suggestions）が含まれると説明した。ノーコメント。

5D/705 (3GPP TSG RAN)

・SWG 議長より、10 月の WP5D 会合に入力が期待されるとコメント。

5D/720 (日)

・ノーコメント

5D/721 (日)

・ノーコメント

5D/732 (韓)

・韓国は、WP5D は新たな共用促進（干渉軽減）技術についてオープンだから、CRS 技術の完成度が高くなったら（mature になったら）組み込めばよい、と発言。

5D/735 (オランダ)

・提案元が不在のため Lewis 氏がコンタクトして意図を確認するとした。

・ロシアから、これは 6GHz 以上の周波数に適用される技術で、3.5GHz 帯の IMT の場合は修正が必要とコメントした。

5D/742 (米)

・韓国が、CRS 節のテキストを提案しているとし、CRS の節の削除に反対した。

・SWG 議長は、DG でどのように扱うかガイドラインが必要と少し議論したいとした。

・米は、SWG-Radio Aspect で CRS の検討を始めたばかりであり WP5D 内で整合を図るべきとし、韓国は RA とはスコープが異なると反論した。仏は CRS の包含は時期尚早とコメント。

・SWG 議長提案により、CRS のプレースホルダを残し、進捗により内容が熟したら包含するとの Editor's Note を付しておき、次回に判断することが合意された。

5D/745 (WiMAX フォーラム)

・ノーコメント

④ 基地局併設等のANT Isolation関連（入力文書：5D/748, 761, 765, 766, 768, 771）

5D/748 (WiMAX フォーラム)

・全ての IMT システムを対象とするか、M.1073 に記載の Non-IMT システムを含むか、一つのレポートにするか分割するか、スケジュール等の問題点を指摘し、分割するほうが望ましいとする提案であったが、SWG 議長より DG へのガイドランを議論したいとした。

・クアルコムはシステムによって特性が異なると指摘し、アルカテル・ルーセントらがコメントした。

・SWG 議長より、アンテナ・アイソレーションそのものに関するレポートと干渉検討に関する内容を分割

する方法が提案され、意義無く合意された。

5D/761 (中)

- ・ WiMAX フォーラムより、まだ例として残すかどうか質問され、SWG 議長より先の決定に従い適切な箇所に入れるよう DG に要請された。

- ・ アルカテル・ルーセントより、修正履歴が無いので前回の作業分からの差分が分からないと指摘し、P7 の図 4、ANNEX 等が追加内容と回答された。

5D/765 (中)

- ・ ノーコメント

5D/766 (中)

- ・ ノーコメント

5D/768 (フランステレコム)

- ・ WiMAX フォーラムより、どちらのレポートに入れるべき内容かが質問され、SWG 議長から DG で最適な場所を探すよう要請された。

5D/771 (エリクソン)

- ・ フランステレコムより、フランステレコムの入力文書と同じポイントであると指摘された。

⑤ ITU-T からのリエゾン文書 (入力文書：5D/694, 758)

5D/694 (WP 6A)、5D/758 (ITU-T SG5)

- ・ SWG 議長より、昨日の WG-SPECTRUM での議論に従い、WP6A から ITU-T/SG5 へのリエゾン文書のような簡単な返答リエゾン文書を作成することが提案され合意された。

- ・ Alan 氏 (ニュージーランド) より、ケーブルシステムへの干渉 (Interference) という表現は使わず影響 (impact) という表現にすべきと指摘された。

- ・ リエゾン文書案を作成するボランティアを募ったが誰も申し出なかったため、オフラインで決めるとした。

⑥ その他

- ・ クアルコムより、UHF 帯共用検討に関し、前研究会期の SG8/WP8F で作成した共用検討レポートが SG8 に提出され(8F/1336, 8/190)、SG8 で WP8F に差し戻しになったが、継続検討するのか確認する発言があった。ニュージーランドより継続する必要は無いと指摘され、議長報告に記載することになった。

- ・ 各 DG では、ガイドラインに沿って作業文書の更新、関係するリエゾン文書案の作成及びワークプランの見直しを行うよう要請された。

第 2 回会合では、各 DG からの進捗報告を受けると共に、SWG Sharing Studies からの出力文書案 (Sharepoint 内の作業文書：SWG Sharing 1～10) の審議が行われた。主な審議内容と結果は以下の通りである。

DG 議長からの報告：

(i) DG UHF Sharing

- ・ DG 議長より、3 回の会合を開催し、レポートのスケルトンと幾つかのテキストを作成したこと、周波数を 698-806MHz、790-862MHz に限定すること、WP6A へのリエゾンを作成したことが報告された。

(ii) DG Revision M.2039

- ・ DG 議長より、1 回の会合を開催し、入力文書をレビューし作業文書を更新したこと、外部機関へのリエゾンを作成したこと、次回に完成させる予定であることが報告された。

(iii)DG IMT Mitigation

- ・ DG 議長より、多数の会合をも開催し、作業文書を更新したこと、WP4A へのコメントを含むリエゾン文書を作成したことが報告された。

(iv)DG Antenna Isolation

- ・ DG 議長より、2 回の会合を開催し、作業文書と関連 WP へのリエゾン文書を作成したことが報告された。

UHF 共用検討関連：

①UHF 帯共用検討レポートの作業文書（SWG Sharing 1 → 5D/TEMP371）

- ・ SWG 議長より、最初の文書であり詳細なレビューはせず、議長報告に添付し、次回に更なる検討を行うとされた。

②UHF 帯共用検討に関する WP6A へのリエゾン文書（SWG Sharing 2 → 5D/TEMP/366）

- ・ DG 議長より説明され、エディトリアルな修正の後、WG-SPECTRUM に諮ることが承認された。
- ・ 仏より第 2 Bullet で放送の保護基準の情報を求めるテキストについて質問があり、DG 議長及び SWG 議長より DG JTG5-6 では 790-862MHz 帯の検討を行っていないと説明し、クアルコムをサポートにより、現状通りとすることが合意された。

レポート M.2039 の改訂関連：

①レポート M.2039 改訂に向けた作業文書（SWG Sharing 3 → 5D/TEMP/372）

- ・ SWG 議長より説明された。ニュージーランドより本文書のステータスが確認され、DG 議長より修正履歴は現在の版（in force）からの差分を示していることが説明された。インテルの指摘により、脚注 5,36,38 が削除され、次回にキャリーオーバーすることが合意された。

②外部団体へのリエゾン文書（SWG Sharing 4 → 5D/TEMP/367）

- ・ SWG 議長より、最終 DG 会合の後にタイトルの修正、次回の WP5D 会合のスケジュールを説明する一文を追加したことが説明された。
- ・ インテルより、第 2 段落の周波数範囲が UHF 帯共用検討の周波数だけを記載していると指摘したが、SWG 議長より M.2039 の作業に加えて UHF 帯の共用検討を行うと記述しているとし、この部分に特段の変更は行われなかった。
- ・ ニュージーランドより、第 1 段落最後の部分の「missing parameters」が混乱するすると指摘し、DG 議長、クアルコムらの提案で表に足りないパラメータがあるとのテキスト、インテル、サムソンの指摘で、外部機関からコメントを求めることを明示するテキストが追加された。
- ・ クアルコムより M.2039 は UHF 周波数帯だけでないことが指摘されたが、アルカテル・ルーセントからタイトルに 2 つの目的があることが明示されていることがコメントされた。

IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]関連：

①作業文書（SWG Sharing 5 → 5D/TEMP/374）

- ・ SWG 議長より、未だ作業中であり、詳細なレビューは行わず、議長報告に添付することが提案された。
- ・ DG 議長より、次回の 10 月会合で完成させ SG5 に上程する予定であり、作業文書の文字を削除し、ステータスを格上げすることが提案された。しかし、アルカテル・ルーセントより、DG で議論していない、Sector Beam forming など完全に合意されていない内容を含むとして反対し、SES のサポートもあり、格上げは見送られた。

②WP4A へのリエゾン文書 (SWG Sharing 6 →5D/TEMP/368)

- ・ DG 議長より説明され、タイトルに WP1B 追加が必要ことが説明された。
- ・ SWG 議長、ニュージーランドらより、“ - ” (ハイフン) で WP4A コメントと WP5D コメントを区切るフォーマットが分かりにくいと指摘され、オフラインでフォーマットを修正することになった。また、インテルの指摘、DG 議長の指摘で 10 月会合の日付の追加などエディトリアルな修正が行われた。
- ・ オフラインで修正を前提に、WG-SPECTRUM に諮ることが承認された。

基地局併設等のANT Isolation関連：

①作業文書 (SWG Sharing 7 →5D/TEMP/373)

- ・ SWG 議長より、未だ作業中であり、詳細なレビューは行わず、議長報告に添付することが提案され、特段のコメントなく合意された。

②WP1A 及び WP5A へのリエゾン文書 (SWG Sharing 8 →5D/TEMP/369)

- ・ DG 議長より説明された。
- ・ インテルより、次回で完成としているが、未だ Preliminary な段階と指摘され、SWG 議長より「完成は次回の議論に依存する」とのテキストが提案されたが、クアルコム、サムソンらのコメントによりテキストは追加せず、WP5D の日付などエディトリアルな修正のみ行われた。また、ニュージーランドの提案によりステータスを「For information」とすることで、WG-SPECTRUM に諮ることが承認された。

ITU-T SG9 の新研究課題に関するリエゾン文書：

①ITU-T/SG5 へのリエゾン文書 (SWG Sharing 9 →5D/TEMP/370)

- ・ 初めに、ニュージーランドより「今後の作業はワークプランに依存する」と指摘された、
- ・ SWG 議長より説明され、コンタクトを SWG 議長にし、WG-SPECTRUM に諮ることが承認された。

ワークプランのレビュー：

SWG Sharing 10 (Workplans)

- ・ SWG 議長より、DG 議長名の追加、各会合の開催場所の追加、などが説明された。
- ・ IMT.Mitigation のタイトル修正、UHF-Sharing のタイトルに Q.229 の追加が指摘され修正された。
- ・ ANT-Isolation で、ニュージーランドより ITU-T/SG5,WP5A からのリエゾンの回答を考慮すると次回の完成は困難と指摘され、完成時期を 1 回延期することになった。
- ・ これに従って、WP1A、WP5A へのリエゾンの内容をオフラインで修正することになった。
- ・ 上記を修正し、WG-SPECTRUM に報告することが承認された。

(6) 今後の課題：

- ・ 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案 [IMT Mitigation]の作成、共用検討用 IMT-2000 パラメータに関するレポート M.2039 の改訂作業、基地局併設時等のアンテナ共用に関する新レポート草案[ANT.ISO]の作成において、完成スケジュールを考慮しながら、適切な内容となるよう、必要に応じて対処することが必要である。
- ・ また、UHF 帯における共用検討、ITU-T SG9 の新研究課題については、検討されている周波数の一部が我が国では IMT に使用（及び使用予定）であることを踏まえ、議論の動向を注視し、我が国にとって不利な結論が導かれないよう、対処していく必要がある。

5. 3. 1. 1 DG UHF Sharing

(1) 議長： Laura Marti 女史 (仏)

(2) 主要メンバ： 仏、露、Sweden、Finland、米、加、中、韓、他各国、WiMAX-F、Alcatel-Lucent、Ericsson、Samsung、Qualcomm、日本代表团（坂中、新、小松、藤井、北）、全 40 名程度

(3) 入力文書： Doc.5D/617(USA)、683(Chairman SG5 & SG6)、693(WP 6A)、5D/728(Oman)、5D/762(Huawei, ZTE)

(4) 出力文書： 5D/TEMP/

366Rev2 WP6A へ向けた UHF 帯の共用検討に係るリエゾン文書

371 UHF 帯の共用検討新レポート案[IMT.SHARING.UHF]に向けた作業文書

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 DG は決議 224 (WRC-07 改) に基づく UHF 帯における共用検討の新レポート案[IMT.SHARING.UHF]の作業文書作成のため、SWG Sharing Studies の傘下に設置された。なお、本レポート案作成の詳細作業計画は、前回（第 7 回）会合において設置された AH SPECTRUM で作成を行ったものである。

本会合には、前回会合でキャリーフォワードした 1 件の寄与文書(5D/617)に加え、SG5 議長及び SG6 議長からの JTG 5-6 の完了の報告および決議 224 への注意喚起の文書を含む 4 件の寄与文書(5D/683、5D/693、5D/728、5D/762)が新たに入力された。DG 議長には、前回の詳細作業計画の作成の過程で任命された通り、仏の Laura Marti 女史が選出された。

(5-2) 審議概要と主要結果

今会合では DG は 3 回開催され、DG 議長が作成した新レポート案の目次案を基にした作業文書の作成、関連 WP へのリエゾン文書の送付先及び送付時期について討議した。なお、リエゾン文書案および詳細作業計画の具体的内容については SWG Sharing Studies において直接討議を行った。

1) 新レポート案[IMT.SHARING.UHF]の作業文書の作成

- タイトルに関してロシア、フィンランドより決議 224 (WRC-07 改) を含めるべきとのコメント、Qualcomm からの Question ITU-R 229 に基づくという考えもあるとのコメント等を反映して" Working document towards a draft new Report on the coexistence studies in relation to Resolution 224 and Question 229 in the bands 790-862 and 698-806 MHz."に修正を行った。
- レポートのスコープ (1.1 章) に関しては、DG 議長が前回会合で作成した詳細作業計画の記載内容を基に作成したとコメントがあったが、ロシアより決議 224 に基づくのであれば対象周波数は 790-862MHz と 698-806MHz であり UHF 帯という表現は誤解を招くとコメントがあった。同様に Alcatel-Lucent より周波数帯を明記するべきではないかとのコメントがあり、修正を行った。
- 過去の関連の検討結果の記載 (1.2.1 章) について、Alcatel-Lucent より、上記と同様な理由で、450MHz 帯の共用検討に関するレポート M.2110 の章については、[]付きにして欲しいとコメントがあった。また、フィンランドからは、勧告 M.1036 改訂の作業へ影響を与えてはいけなとのコメントを行い、レポート M.2110 は引用を行わないことにした。
- 過去の関連の検討結果の記載 (1.2.1 章) において、DG 議長より JTG5-6 で検討した内容 (1.2.1.2 章) を明確にしておきたいとして、その内容を確認。ロシアより JTG5-6 の作業は Region 1, 3 が対象ということを確認する修正。さらに、790MHz 以下の放送業務との両立性検討が検討の 1 つでないかとコメント。韓国より、航空無線航法サービスは Region 3 へ分配がないため、いずれテキストの修正が必要とコメント。

- ト。次回会合以降での寄与文書の入力により議論することにし、1.2.1.2 章全体を[]付きとした。
- 1.2.2 章 (Objective)に関してはロシアより、共用検討にフォーカスすべきで、IMT の保護というような表現を使うことの適切性について指摘があった。adequate protection との表現に修正が提案されたが、フィンランドより前の章との整合性から、adequate は不要とコメント、ロシアも強い反対はしなかったが、Editor's note として次回会合以降の改善が必要と追記した。また、ロシアより、移動無線システム間についてのケースも含めるべきとコメント。WiMAX-F、Huawei の指摘により、表現を修正。フィンランドより IMT 同士の検討は必要かとのコメントがあったが、DG 議長より、決議 224 の invites ITU-R 2 の内容で検討可能と回答。最終的に、IMT 同士の検討、IMT と他の移動無線システムとの検討との記載に修正した。
 - 2 章(Services allocated on a primary basis below 862MHz)に関して Alcatel-Lucent より 450MHz 帯の記載を全体的に削除する要請があり、オフラインで DG 議長が修正することとなった。また、ロシアの指摘により、移動業務の分配に関するテキストを削除の提案。韓国は、Region 3 の状況を記載するのに有用であり、一部は残すべきとコメント。ロシアからはテキストは問題ないが、放送業務も同様に古くから分配されているわけであり、当該テキストを残しておくことの意味をよく考えなければいけないとコメント。韓国の提案により、Table 2.1 の中へ当該テキストを移動。ロシアの指摘により、Region 1 に関する同様なテキストを Table 2.1 の中に移動することとなった。
 - 2.2.1 章 GE-06 関連のテキストに関してはロシアよりオマーンからの入力文書 5D/728 の必要性についてコメントがあったが、DG 議長より次回会合以降にオマーンに確認する必要ありと回答。韓国より、本テキストが GE-06 の締結国に適用されるということをタイトルに記載すべきとコメント。DG 議長は、最初の文に説明がしてあるかとコメントしたが、脚注を使って、"GE-06 parties のみに適用"と記載。仏提案より "GE-06 Final Acts を参照せよ" とのテキストの追加し、MSS の記載の削除を実施。
 - 3 章(Characteristics (including protection criteria) and parameters of mobile systems below 862MHz)については Huawei、ZTE からの入力文書 5D/762 を基に作成したと、DG 議長より説明があった。WiMAX-F からは LTE だけでなく WiMAX のパラメータを含めるべきコメント。WiMAX-F からはパラメータのメイン部分を本文に記載した上で、その詳細を Annex 等に入れることも考えるべきとコメント。仏からはレポート M.2039 の改訂で情報が得られるかもしれないとコメント。
 - 4 章(Methodologies and propagation models used to assess compatibility)に関して WiMAX-F より IMT 同士の検討を行うのか、IMT と IMT 以外のシステムの検討を行うのかの質問があり、DG 議長より、5D/762 の提案に基づいて IMT 同士の検討を含めていると回答。また、WiMAXF より LTE となっているところを IMT に変更するのはどうかと提案し、LTE 等はサブセクションとして議論することとなった。
 - 4.3 章、4.4 章の記載に関してはそれぞれ JTG 5-6 の議長報告 5-6/180 Annex5 および Annex4 を参照する形式となった。
 - 上記までの作業文書の討議を実施し、オフラインで修正が加えられた文書が SWG Sharing Studies、WG SPEC を経て、WP5D Plenary にて 5D/TEMP/371 として次回会合にキャリーフォワードされた。

2)関連 WP 等へのリエゾン文書について

- WP6A、WP5B、WP5C、外部団体へそれぞれが所掌するシステム等の protection criteria を問い合わせるリエゾン文書を作成の検討を実施した。
- 仏からは外部団体への問い合わせはレポート M.2039 の関連の内容も想定されるので、SWG レベルでの調整が必要とコメント。ロシアからは IMT 以外の移動業務については WP5A へのリエゾンが必要とコメント。
- リエゾン文書の発出時期に関してロシアからは次回の WP5D 会合後でも良いとコメントがあったが、Samsung からはドラフト案は準備しておくべきではないかコメント、Qualcomm からは WP6A からリエ

ゾン文書を受け取っているのでリエゾン文書を今会合で返すべきとコメント。

- SWG Sharing Studies 議長の提案により、WP6A へのリエゾン文書は作成、WP5A, 5B, 5C については、次回会合で発出でも良いとのコメントがあり、会合時間の関係もあり、リエゾン文書の内容については SWG Sharing Studies で討議することとなった。
- SWG Sharing Studies で討議した WP6A へのリエゾン文書案は、WG SPEC を経て、リエゾン文書案 5D/TEMP/372Rev1 が WP5D Plenary で承認された。

(6) 今後の課題：

我が国では当該周波数帯の一部を IMT に使用（及び使用予定）であるため、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。

5. 3. 1. 2 DG M.2039

(1) 議長：Mr. J.P.Millet(仏)

(2) 主要メンバ：米、加、英、独、仏、露、スウェーデン、フィンランド、メキシコ、中、韓、NZ、他各国、Ericsson、Qualcomm、Intel、WiMAX-F、Alcatel-Lucent、Motorola、日本代表団（坂中、新、藤井、北）、全 60 名程度

(3) 入力文書：Doc.5D/690 (TIA TR-45.5)、704(3GPP)、741(TTA)

(4) 出力文書：5D/TEMP/

367Rev1 レポート M.2039 改定に係る外部団体へのリエゾン文書

372 レポート M.2039 改定に向けた改定草案文書(キャリアフォワード)

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 DG は IMT-2000 共用検討パラメータレポート M.2039 の改定に関わる作業を所掌とし、第 5 回会合において作業計画を作成され作業を開始した。前回第 7 回においては作業文書及び更新と外部団体に向けた情報提供を依頼するリエゾン文書の作成を実施している。

本会合では外部団体に向けた情報提供を要求するリエゾン文書に対して 3 件の寄与文書(5D/690, 704, 741)が入力された。SWG Sharing Studies において SWG 議長の提案により、DG を設置しレポート M.2039 の改定に関わる作業文書の更新を実施することとなり、DG 議長には第 7 回会合に引き続き Millet 氏が選出された。

(5-2) 審議概要と主要結果

今会合では DG は 1 回のみ開催され、DG 議長が入力文書をもとに更新したレポート M.2039 の作業文書及び外部団体へのリエゾン文書案についてそれぞれ討議した。

1) M.2039 の作業文書の更新について

- DG 議長が前回会合でキャリアフォワードした作業文書に入力文書の内容を反映させた文書を基に議論を開始した。
- 5D/690(TIA TR-45.5)からの修正提案については特段コメントがなく反映された。
- 5D/704(3GPP)からのコメントを基に 2 章に追加した Note に関して Alcatel-Lucent、WiMAX-F より特定の周波数帯の限定したコメントではないとの指摘により、Note は 1 章に移動することとなった。また、5.1 章及び 5.2 章に記載した議長 Note に関して WiMAX-F より確認があり、IMT-2000 インタフェース名のカラムをテーブルに追加する提案があり、WiMAX-F が支持し修正することとなった。
- 5D/741(TTA)からの入力 OFDMA TDD WMAN に対して 7MHz, 8.75MHz のプロファイルの追加があり反

映されたが、一部表に空欄になるため DG 議長から WiMAX-F に対して次回会合で情報提供かのか確認があり、WiMAX-F よりできる限り提供すると予定との回答あり。

- 4 章 1.8GHz, 2GHz, 2.3GHz, 2.5GHz 帯の表 3(Mobile Station)の列が多くなったため分割してはどうかと DG 議長から提案があり、Alcatel-Lucent、独のコメントを受けて IMT-2000 無線インタフェースを 3 インタフェース毎の表 3A 及び表 3B に分割することで合意。表 4(Base Station)と合わせて DG 議長が修正することとなった。
- 6 章 450-470MHz 帯に関して Motorola の指摘により 3GPP のパラメータはないこと、外部団体のリエゾン文書からも 1GHz 以下でグループ化できるとの回答を基に 5 章に組み込むこととなった。
- 7 章(修正後 6 章) 3.4-3.6GHz 帯のパラメータに関して 3GPP2 は予定なし、3GPP は次回以降の入力予定、WiMAX-F から次回会合に入力予定であることがコメントされた。
- 上記で DG 内での作業文書の更新作業は完了、SWG Sharing Studies 議長の指摘により次回会合で作業完了予定であるため文書形式を作業文書からレポート改定草案に格上げした。残りの修正を DG 議長が実施することとなった。

(SWG Sharing Studies、WG SPEC を経てリエゾンバック案は 5D/TEMP/372 として WP5D Plenary で次回会合にキャリーフォワードされることとなった。)

2)外部団体へのリエゾン文書について

- DG 議長が作成した外部団体へ向けた情報提供を依頼するリエゾン文書案のレビューを実施した。
- リエゾン文書案の中に記載されていた 790-862MHz のパラメータが 698-806 MHz 帯のパラメータにも適用可能という部分が DG UHF Sharing に関連した問い合わせになっていたため議論になった。
- WG SPEC 議長より DG UHF Sharing についての事項を含めることが DG M.2039 において適当なのかとのコメントを受け、本リエゾン案としては M.2039 の改定という観点にテキストを修正することで DG 内の合意を得た。
- SWG Sharing Studies、WG SPEC を経てリエゾン文書案 5D/TEMP/372Rev1 は WP5D Plenary で承認された。

(6) 今後の課題：

次回会合での改版作業完了に向け今会合で作業文書からレポート改定草案に格上げされており特段問題はない。外部団体からの情報が適切に反映されるよう引き続き対処する。

5. 3. 1. 3 DG IMT MITIGATION

(1) 議長： John Lewis(Samsung)

(2) 主要メンバー： 米、加、英、独、仏、露、中、韓、ニュージーランド、ブラジル、スウェーデン、フィンランド、他各国、WiMAX フォラム、インテル、ケルコム、エリクソン、SES、日本代表团（坂中、橋本、新、藤井、外山、北、小松、他）、約 70 名程度

(3) 入力文書： Doc. 5D/684 (WP4A), 705 (3GPP TSG-RAN), 720,721 (日), 732 (韓), 735 (オランダ), 742 (米), 745 (WiMAX フォラム)

(4) 出力文書： 5D/TEMP

368 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]に関する WP4A へのリエゾン文書

374 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT-Mitigation]に向けた作業文書

376 SWG Sharing Studies に関する作業計画（IMT Mitigation 部分）

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

第6回ドレスデン会合において3.4-3.6GHz帯のIMTとFSSの干渉軽減技術に関する新勧告を作成することが合意され、第7回トリノ会合において日本、仏、韓の入力文書に基づいて新勧告草案の作業文書を作成すると共に、WP4Aに作業状況を伝えるリエゾン文書を送付した。

DG議長は前回同様John Lewis氏(サムソン)が選出され、今会合では入力文書に基づく作業文書の更新及びWP4Aへのリエゾン文書の審議が行われた。

(5-2) 審議概要と主要結果

DG会合は全体で3回開催され、DG議長が入力文書の提案内容(追加、削除等)をまとめた作業文書を順にレビューし、提案内容の採用の可否、適切な表現への変更等を審議した。WP4Aへのリエゾン文書については、第3回DG会合においてDG議長が作業文書の審議結果及び日本寄与文書(5D/721)に基づいて作成したリエゾン文書案を審議した。

第1回会合では、ScopeからAnnex1の途中まで審議が行われた。(作業文書:WD-DaNang-01)

Scope:

- ・米国、WP4Aからの入力のアップデートで、主にRRの記述を正確にすると共に“including mitigation techniques and Spectrum management techniques”という技術的な文言を削除した

Considering, noting: 特に意見なし

Recommends:

- ・NOTE1の「干渉軽減技術とそのパラメータについて関係主管庁どうして合意が必要」の文言削除については、仏が懸念を示し、ロシアとの間で議論があったが、WG議長のJamieson氏(ニュージーランド)からNOTEが勧告の一部とする記載方法がおかしいとの指摘もあり、最終的にrecommendsの2として記載することとなった。

Annex

- ・タイトル及び冒頭のテキストで、干渉軽減技術の効能(improve)記載について“would”か“may”の記載で、「全ての干渉軽減技術には少なくとも効果がある」(エリクソン)、「シナリオに依存し、場合によっては効果のないケースもある」(露)など意見が割れたが、最終的に米国提案のimprove → increase sharingを元にWG議長のJamieson氏(ニュージーランド)より“design to increase the potential for sharing”とする提案があり、受け入れられた。

1 Possible mitigation techniques

- ・「多くのFSS地宛局には非ライセンス局であり位置がわからない」の記載については、「非ライセンス局の扱いの確認」(仏)、「実際には大きなインパクトがある」(DG議長)などの議論があり、最終的な結論はレポートM.2109の記載の仕方を参照することにして、議論は持ち越された。

1.1 Sector disabling

- ・セクタ停波の記載では、WiMAX Forum 寄書より追加された「受信機とペアで…」のセンテンスの意味が不明であったため修正を行わなかった。
- ・セクタ停波の記載には日本からの入力内容記載に対して、ロシアが対抗案を提出し内容についての簡素な追加説明が認められた。(本内容は前日にロシアから日本に打診があり予め内容を確認していたもの)。ロシアからはさらに、国際調整と国内調整で干渉軽減技術の効果がどのように効果が異なるのか、適用範囲等を明確に記載する内容で、主に日本からのセクタ停波とMIMOの抑圧効果を示す表に条件をつける提案があった。またロシアからは、同様な記載を全ての干渉軽減技術に反映させることを提案した。しかしながらDG議長からは、大幅な修正が必要であることや、実際に本体のテキスト化するアイデアが現時点でなく、詳細は別途ということを持ち越された。

- ・日本から入力の子クタ停波の効果を表す表について、子クタの定義がわからない旨の質問が仏よりあり、Appendix に全ての記載がある(日)と回答。子クタの定義を追記することとなった。

1.2 Multiple input, multiple output (MIMO)

- ・日本からの MIMO の記載について質問があり、技術的な回答を実施。質問の目的があいまいであったが、最終的にそのようなコストを誰の責任で負担するのかという話だったことがわかり、DG 議長より「業界間で話し合うこと」とされた。
- ・MIMO について、ロシアがビームフォーミング技術と日本入力の MIMO の記載とを分けること並びに、WiMAX フォーラムのビームフォーミングの内容は当初からあった MIMO の技術と同じであり統合が必要という意見が出された。これについては、オフラインで専門家同士で検討を行い、新しい案を出すこととなった。その後の日露のオフライン議論でマルチアンテナ技術の中に、ビームフォーミングと MIMO(マルチアンテナ技術)として分ける方向で WiMAX フォーラムと調整することとなり、メールやりとりにより同日中に WiMAX フォーラムとの間でも合意された。

1.3 Site shielding

- ・特に意見なし

1.4 Antenna downtilting

- ・ダウンチルトの記載で、「ダウンチルトによりセルサイズが小さくなりセル数が増える」の WP4A の追加の記載について、日から本体にある「セル数が増えるが送信電力が減る」の記載と論理的に矛盾するという懸念を示し、最終的に、WG 議長 Jamieson 氏 (ニュージーランド) の提案で” these two offsetting elements would have to be taken into account” という言葉の追加により、WP4A からの追記は行わないことにした。

1.5 Adaptive Beam-forming (WF の新規追加テキスト)

- ・ロシアが再度 MIMO とビームフォーミングは別とコメントした。

2 Dynamic spectrum access Spectrum management techniques

- ・韓国からの「FSS システムの帯域は 4 kHz-72 MHz」との表現は不正確との指摘があり、DG 議長の方で別途修正をすることにした。
- ・DSA の記載について、主に” FSS の利用状況を知る能力” の定義について「技術的には可能だがレギュレーションの問題でスコープが違う」(米、露)など大きな議論となり最終的に「The IMT system will have the capability to be aware whether the FSS bands can be utilized…」の記載になった。また、DSA の FSS 側がアンテナ方向や周波数を変更した場合の IMT 側の応答速度の定義について「in real time」の意味がわからない(独)など疑問が上がり、「in real time」を用いずに「this could imply that the IMT stations to adopt appropriately to maintain the interference level at an acceptable level」の表現とされた。
- ・WG 議長の Jamieson 氏 (ニュージーランド) より、ここは規則に関わる基本的なところなので、慎重にレビューする必要があるとされ、最終的にスクエアブラケットを付けて持ち越された。

第 2 回会合では、第 1 回 DG 会合後の修正 (1.1 セクタ A,B の明確化に関する修正、1.2 マルチアンテナに関するセクションの分割) について説明の後、引き続きレビューが行われた。(作業文書: WD-DaNang-03bis)

本文 recommends 部

- ・recommends2 の「spectrum management techniques」の部分は、ANNEX の議論に合わせて見直す必要があることが説明された。

1.2/1.21/1.22 MIMO 関連技術のタイトル

- ・(第 1 回会合での(日露、WiMaxForum)合意事項に基づき)ロシアの提案によりタイトル、構成が変更されたことが説明された。

1.2.1 ビームフォーミング

- ・ WP4A からの質問「離隔距離 22km というのは FSS 地球局が 1 局の場合か 3 局の場合か？」について、議長からコメントが求められ、ロシアから、この記載が、ITU-R 報告 M.2019 の Annex D に基づくもので地球局が 1 局を想定しての結果であると説明され、テキスト追加が必要とする Editor's note が付けられた。

1.2.2 MIMO

- ・ 離隔距離が大きい場合に（チャンネル推定値）干渉抑圧量が制限されること関する、表現が議論されたが、ロシアから、「日本との話し合いからも、この技術が現実的に適用されるエリアが限られている」とのコメント等が考慮され、最終的には、will -> would への変更と、substantial が追加された。

the application of this technique would not lead to any substantial interference reduction

1.3, 1.4

- ・ コメントなし

1.5

- ・ 1.2.1 に記載が移されたため、削除

2 章

- ・ 第 2 段落「The IMT system will [have] [require] the capability to be aware …」について、議長提案により require と記載することで合意。

- ・ 「spectrum management techniques」を含むテキストの修正

The following spectrum management techniques may be of interest to administrations wishing to introduce new services in specific geographical areas.

⇒The following techniques for dynamic spectrum access may be of interest to administrations wishing to introduce new services in specific geographical areas.

Attachment 2

- ・ 記載について、スクエアブラケット内の記載とし、本勧告に残す必要があるかについて検討すべきとの、Editor's note が付記された。

[A technique used in one administration allowing for dynamic spectrum access (the Dynamic Frequency Lease (DFL) spectrum sharing approach) can be found in Attachment 2 to this Annex.]

- ・ 韓国からのコメントに基づき used in one administration を追加
- ・ 韓国から、such arrangements の意味について質問があり、議長より DSA を用いた場合の arrangement と説明された。

2.1 ビーコンの利用

- ・ 米国からの「Additionally, it is unlikely that an FSS earth station operator would be willing to bear the additional financial and technical costs of maintaining the aforementioned beacon.」追加提案について、仏から technical costs を complexity に変更したほうがよいなどいくつかのコメントがあったが、カナダから、ここでは、技術的な干渉低減技術（pros&cons）について記載しているので、ニュージーランドから提案された financial 関する点については、国ごとに状況が異なることなども考慮し、記載しないほうがよいとのコメントから、結果的に反映しないことにした。
- ・ 米国からの「This places a bureaucratic (and technical) burden on the FSS earth operator which did not previously exist.」の bureaucratic について仏より懸念が示され、これに対して DG 議長より “which might or might not be acceptable.” を追加すること、Ericsson より regulatory とすること等が提案されたが、administrative とし、本節については、以下の Editor's note:を残して、次回のミーティングで、再度検討されることとなった。

Editor's note: To be further developed noting that many earth stations are receive only and are not licensed and this may pose difficulties when considering the concept of a network of beacons.

2.2 データベースと位置情報の利用

- ・この技術は秘匿の問題を含むこと、さらに、他の WP での状況を踏まえて検討される必要があることが Editor's note として記載された。
- ・また、本件について、韓国から、データベースについて ITU-R により管理されるということかという質問があり、議長より FSS administration により管理されるとの回答があった。

2.3 CRS

- ・本サブセクション全体がスクエアブラケット内の記述として残されることになった。また、Editor's note として、2.1 と 2.2 と合わせて、再度検討が必要であること、SWG-Radio Aspect の CRS 作業との整合性をとる必要があることが付記され、次回の会合で検討することとなった。
- ・その他、主なコメントは下記の通り。
 - ロシア：ビーコンやロケーション技術もダイナミックなメカニズムを利用するという点で、CRS は、これらの技術に包含されるのではないかとコメント
 - 韓国よりセンシング+ロケーションに加えて学習という要素が入るので、ほかの 2 つとは違うとコメント。

Attachment 1

- ・セクタ停波と MIMO に関する日本からの提案について、現在の通り記載が残されることになった。
- ・アルカテル・ルーセントから、MS のアンテナが 1 つなので、MIMO という表現は適切ではないのではないか？というコメントがあり、会議後オフラインで話すことになった。会議終了後、チャネル全体として FSS の受信についても、チャネルからの 1 出力と考えて、MIMO と記載している点について説明し、理解を得た。
- ・Victim という表現は避け、Interfered と変更すべきとのコメントあり、修正することにした。

Attachment 2

- ・Dynamic Frequency Lease (DSL) に関するオランダ提案について、スクエアブラケットで記載が残され、記載の必要性について、次回会合で再度検討されることとなった。

第 3 回会合では、第 2 回 DG 会合までの議論が反映された作業文書 (WD-DaNang-04) と、DG 議長がこれまでの審議結果及び日本寄与文書 (5D/721) に基づいて作成したリエゾン文書案を審議した。

本文 Recommends 2 について

- ・ロシアの「主管庁間で合意すべき事項は Spectrum management technique に限定しない、パラメータなどだけではなく、干渉抑圧方式自体について agreement が必要である、ANNEX にある技術に限定されない」などのコメントに基づき、DG 議長、アルカテル・ルーセント、仏、米国、日本などのコメントで何度も修正が行われた後、recommends 2 が

that, when applied in bilateral or multilateral discussions, the use of the techniques such as those described in the Annex, as well as the associated parameters, should be agreed by the administrations concerned, と変更された。

1 節 (Possible mitigation techniques)

- ・Many FSS … (FSS 局 (受信のみ) の位置の特定が難しい) の追記案に関して、変更なく原案の通り記載のまま残されることになった。

Attachment 1

- ・1.2.1 のロシアから追加された WP4A の質問に基づく 22km の明確化のテキストが合意された。議長により一部エディトリアルな修正が行われたが、大きな変更は行われなかった

Attachment 2

- ・アルカテル・ルーセントからのコメントにより、DSL がマーケット的な記載であるなどとの理由から、タイトルから、「A new spectrum sharing approach」が削除された。
- ・米国からのコメントにより、Attachment 2 全体に対する Editor,s note が
Need to review the applicability and maturity of this approach
に変更された。

WP4A へのリエゾン案 (Draft LS to WP4A-E.docx) について

- ・DG 議長より、作業文書の審議結果及び日本寄与文書 (5D/721 : Sector Disabling 部分) に基づいて作成したリエゾン文書案が示され、審議した。
- ・米国、ロシア、ニュージーランドらのコメントにより、CRS に関する WP1B との連携に関する回答案の修正が行われた。

変更前 :

Section 2 no longer covers spectrum management techniques but rather the techniques to access spectrum dynamically. WP 5D notes the potential interest in the work of WP 1B and at this time; [however, it is not thought appropriate to liaise material to WP 1B at this time, given the change in direction of the text in section 2.]

変更後 :

Section 2 no longer covers spectrum management techniques but rather techniques to enable access to the spectrum dynamically. WP 5D notes the potential interest in the work of WP 1B and this liaison statement is copied to WP1B for information as a results.

- ・日本からのコメントにより、現在の作業計画では、次回で本勧告案が完成するため、WP4A へは、次回 WP4A が最後の確認の場になるので、作業計画に関する情報についても伝えておくのがよいのではと提案し、対応するコメントが追記されることとなった。コメントの詳細についてはニュージーランドと議長がオフラインで議論することになった。
- ・他の回答項目については、特段のコメントもなく、回答案の通りとされた。

(6) 今後の課題 :

現作業文書には我が国の技術的検討内容が反映されており、次回会合での新勧告案の完成にあたっては我が国の提案内容が適切に維持されるよう、7月7日~15日に予定されているWP4Aでの議論の結果を踏まえながら、適切に処することが必要である。

5. 3. 1. 4 DG ANTENNA ISOLATION

(1) 議長 : S. Magnasson (エリクソン)

(2) 主要メンバ : 米、中、韓、他数国、WiMAX フォーラム、フランス・テレコム、日本代表団 (北、小松)、約 10 名程度

(3) 入力文書 : 5D/748 (WiMAX フォーラム), 761,765,766 (中国), 768 (フランス・テレコム), 771 (エリクソン)

(4) 出力文書 : Doc.5D/TEMP

369 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]に関する WP1A
及び WP5A へのリエゾン文書

373 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]に向けた作業文書

376 SWG Sharing Studies に関する作業計画 (ANT Isolation 部分)

(5) 審 議 概 要 :

(5-1) 所掌と経緯

第 7 回トリノ会合において、中国、クアルコム、WiMAX フォーラムらの入力文書に基づき、新規レポートに向けた作業文書が更新され、本会合にキャリアフォワードしていた。

本 DG は、SWG-Sharing 第 1 回会合において、新レポートに向けた作業文書を更新することを目的に設立され、DG 議長には前回同様 Sverker Magnusson 氏（エリクソン）が選出された。

今会合における第 1 回 DG 会合では、入力文書のプレゼンと質疑と作業の方向性の確認、第 2 回 DG 会合では、入力文書に基づいて DG 議長が作成した作業文書の修正案、リエゾン文書案の審議が行われた。

(5-2) 審議概要と主要結果

第 1 回会合では、DG 議長より各文書は前日の SWG-Sharing 第 1 回会合で紹介されているが再度詳細に確認したいとし、提案元からのプレゼンと質疑が行われた。主な質疑は以下の通り。

5D/748(WiMAX フォーラム)

- ・ WiMAX フォーラムより説明があり、3GPP、3GPP2 からの参照を ITU 内のドキュメント(勧告 M.1457 等)に変えることが適当であること、名称に関しても IMT-2000 インタフェースでの記載が適当であるとコメント。また、M.1073 記載の技術も関連してくるためリエゾン文書を作成すべきとコメント。
- ・ DG 議長より語彙、リファレンスに関しての注意であり中国と議論して欲しいとコメントがあり中国が了解した。

5D/761 (中国)

- ・ 中国から前回会合からの課題のサイドローブに関する図の追加および、前回会合の議論の結果を反映して技術ごとの記載から System(A, B, C)といった例へ変更の提案であることが説明された。
 - ・ WiMAX フォーラムがこの提案をサポートしたがフランステレコムから Antenna isolation にフォーカスするのではないかと確認があり、前回会合の結果を議長から説明し、了解された。
 - ・ Figure.4(サイドローブ)および、example 毎の記載から System の例として変更していると紹介あり。
- ⇒DG 議長より中国提案の式とクアルコム提案の式は本質的に同じであるため提案の Fig.4 に関しては Annex に入れる予定だとコメントされた。

5D/765 (中国)

- ・ シミュレーション結果に関して中国より説明あり。フランステレコムからは typical な条件でなければ簡単に利用することはできないとコメントがあり、中国から条件の説明あり、typical な結果と主張。フランステレコムからは近接時のパターンによって値が大きく異なるとコメントされた。
 - ・ DG 議長からは結論、結果は何かと質問があり、中国からは直接の影響と鉄塔のマスト反射の影響があることと回答。フランステレコムからは実測値とシミュレーションの比較はないのかと質問があり、中国からは来月実施予定と回答があり、DG 議長も結果を盛り込むには一般的な測定結果は有益であるとコメントした。
- ⇒DG 議長より作業文書へのサマリのテキストもしくは Annex への追加に関しては火曜日の DG で議論したいとした。

5D/766 (中国)

- ・ 2 つのアンテナ間のアイソレーションでは不十分とし、複数アンテナのシナリオを提案したもの。
- ・ DG 議長より寄与文書内の cask effect に関して質問あり、最も影響を与えるアンテナ端がシステムに影響を与えると説明。フランステレコムからは実際の複数アンテナの状況をどのように扱うのかとコメント、米国からは non deterministic な結果であり複数アンテナシナリオに適用するのは難しいのではとコメント。

⇒DG 議長からオフラインでの議論の要請あり。

5D/768 (フランステレコム)

- ・アンテナ間のアイソレーション、マルチバンドアンテナのバンド間のアイソレーションはアンテナのスペックになること、マルチバンド間のアイソレーションに関しては ACIR から求められると説明し、まずはレポートの作業範囲を明確化すべきと主張。
- ・中国からは支持のコメントがあり、寄与文書の内容をレポートに含めたいとコメントがあり、議長からは別の章を検討すると回答あり。
- ・WiMAX フォーラムからは GSM/UMTS/LTE の記載があったため脚注への ITU Name 追加と参照元の要求あり。

5D/771 (Ericsson)

- ・DG 議長から紹介があり、作業文書には一般的な式を盛り込みたいとコメントがあり、フランステレコムがサポートおよび近接時についてのテキストを入れたほうが良いとコメント。

作業手順：

- ・DG 議長より、前回キャリアフォワードした作業文書からの更新方法として、前回クアルコムと中国から提案された Introduction 部分および isolation 計算式の重複している箇所をマージすること、中国提案に基づいて技術ごと分析の記載を本文からの削除する手順・方向性が示され、確認された。
- ・DG 議長より月曜日に Share Point へアップし火曜の DG 会合で議論したいとコメントがあり、複数アンテナのシナリオに関してはオフラインで協議したいとコメントされた。

他の WP へのリエゾン文書の必要性：

- ・DG 議長からはリエゾンを作成しないつもりだとコメントされたが、米国がリエゾンを作成すべきと指摘し、DG 議長より送り先は前回のリエゾンを確認して作成すると回答あり。

第 2 回会合では、DG 議長の作成したリエゾン文書案、新レポートに向けた作業文書、ワークプランが審議された。

初めに DG 議長が週末に各入力文書から作業文書を更新したと説明し、全体の構成を説明した後、冒頭からレビューし、テキスト修正あるいは今後検討が必要な事項の洗い出しが行われた。

(作業文書は Shareholder 内の、Draft doc After 1st session)

(1)Introduction

- ・co-locate、near-locate の明確化。全体に用語の統一が必要。

(2)Scope

- ・特になし

(3)Definition

- ・MCL の説明文を修正

(4) Typical antenna configuration cases

- ・アンテナ距離はアンテナ中心間か、端 to 端か、明確化が必要。

(5) Analytical methods for determining antenna isolation

- ・5.1 の(4)式で係数が 2π か 4 か要確認。
- ・CCSA 文書を reference とすることに問題ないか、ITU 事務局に確認必要。
- ・5.3 マルチアンテナのメソロジーが適当か、そもそも必要か。

(6)Additional considerations for antenna isolation

- ・ 6.2 Frequency dependency、6.3 Antenna tilting etc の節は、現在空欄。

(7) Measurement methodology

- ・ 前回の WiMAX フォーラムテキストそのまま。

(8) Measurement results

- ・ 前回の WiMAX フォーラムテキストそのまま。
- ・ 8.2 の表 1 で、距離は端 to 端であることの明確化。

(9) Spurious, blocking and intermodulation effects

- ・ 一般化したテキストを入れるべき箇所。
- ・ 現在のテキストの一部は Annex に移す。

(10) Summary and Conclusions

- ・ 現在は中国テキストが [] 付きで含まれているが、全体が出来た段階で見直す必要がある。

WP1A 及び WP5A へのリエゾン文書案：

- ・ 日本より本リエゾンの目的を質問し、DG 議長より「明確に記載していないが、基本的には情報提供。協調を継続と記載しており、コメントがあれば受け付ける。」との回答。
- ・ その他、特に議論なく、SWG-Sharing に報告することが合意された。

ワークプラン (5D/679 Ch. 2 Rev.1)：

- ・ 特に変更する必要が無いことが確認された。
- (ただし、SWG-Sharing 第 2 回会合で、ニュージーランドより ITU-T/SG5, WP5A からのリエゾンの回答を考慮すると次回の完成は困難と指摘され、完成時期を 1 回延期することになった。)

(6) 今後の課題：

- ・ SWG-Sharing 第 1 回会合において、本 DG へのガイドラインとしてアンテナ・アイソレーションそのものに関するレポートと方式固有の干渉検討に関する内容を分割する方針が示されたが、現在は 1 つの作業文書となっている。方式固有の干渉検討に関する内容が適度なもの（例程度）であれば、1 つのレポートでも問題ないと考えられる。また、中国からの提案は、複数アンテナのアイソレーション、金属性ポールの反射の影響を含むアイソレーションなど、過度な検討の傾向があるが、単なる情報として記載するのであれば特段問題ないと考えられる。
- ・ レポート案の完成時期が当初の次回から次々回に延期になり、レポートの構成が再度議論になる可能性があるが、いずれの場合でも、適切な内容となるよう、必要に応じて対処することが必要である。

5. 3. 2 SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS

(1) 議長：Y. Zhu (中)、A. Sanders (米)

(2) 主要メンバ：米、加、メキシコ、英、仏、独、露、スウェーデン、フィンランド、中、韓、印、ニュージーランド、クアルコム、エリクソン、ノキア、インテル、WiMAX-F、日本代表団（坂中、橋本、小松、広池、北、新）、全 70 名程度

(3) 入力文書：619 (米)、622 (加)、638 (WiMAX-F)、643 (UTMS-F)、656 (エリクソン)、659 (UAE)、665 (コロンビア)、701 (メキシコ)、708 (加)、737 (テレフォニカ)、749 (WiMAX-F)、751 (コロンビア)、753 (仏)、754 (ノキア等)、755 (仏、独、スウェーデン)、773 (ノキア等)、776 (ブラジル)

※____はキャリアフォワード文書

(4) 出力文書：Doc. 5D/TEMP

- 354 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に係る作業計画
- 355 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に向けた作業文書
- 356 SWG Frequency Arrangements 議長報告

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

WRC-07 において新たな周波数が IMT に特定されるとともに、既存 IMT-2000 帯域も IMT に特定し直されたことにより、周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 を改訂することが WP5D 第 1 回会合で合意され、勧告改訂の作業が実施されている。前回会合に引き続き、Y. Zhu 氏（中）及び A. Sanders 女史（米）が SWG 議長に任命された。

今回の WP5D 会合では、合計 7 ピリオド開催され、

- ①周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 改訂案作成のための作業文書の更新
- ②M.1036-3 改訂案作成の作業計画の見直し

についての議論が行われた。

(5-2) 審議概要と主要結果

①周波数アレンジメント勧告M.1036-3 改訂案作成のための作業文書の更新

入力文書の紹介が行われたのち、各入力文書の提案をマージした作業文書が SWG 議長より提示され、作業文書の改訂作業を行った。今回の会合で議論された内容を、以下にまとめる。

(1) Scope（本文 2 章）

- ・ 以前の会合で、ドイツからの提案により具体的な関連勧告番号（M.1580, M.1581 等）を引用する修正が行われていたが、記載をより一般化する修正がカナダより提案され、カナダ提案の趣旨に従って修正が行われた。

(2) 用語の定義（本文 2 章 bis）

- ・ 周波数アレンジメントのフレキシビリティに関する Flexible FDD/TDD の定義は、後述の Annex に記載する NOTE の結論が得られなかったため、引き続き[]付きのまま次回会合で引き続き議論することにした。

(3) General Considerations（本文 6 章）における周波数アレンジメントのフレキシビリティの記載

- ・ 周波数アレンジメントのフレキシビリティの議論に関連する当該記述について、Flexible FDD/TDD の考えを許容したい米、英、WiMAX-F と、許容したくないドイツ、カナダ、エリクソン、ノキアとの間で、Costa 氏（加）を中心とした DG による小グループで議論を行った結果、以下の記載で合意され、作業文書に反映された。

n) There are benefits in the use of both FDD and TDD modes in the same band; however, this usage needs careful consideration to minimize the interference between the systems, as per the guidance provided in considering p); especially, if flexible FDD/TDD boundaries are selected, there may be a need for additional filters in both transmitters and receivers, guard bands that may impact spectrum utilization and the use of various mitigation techniques for specific situations.

(4) Recommendations における周波数アレンジメントのフレキシビリティの記載（本文 7 章）

- ・ 周波数アレンジメントのフレキシビリティの議論に関連する当該記述について、Flexible FDD/TDD の考えを許容したい米、英、WiMAX-F と、許容したくないドイツ、カナダ、エリクソン、ノキアとの間で、Wasilewski 氏（米）を中心とした DG による小グループで議論を行った結果、以下の記載で合意され、作業文書に反

映された。

It is noted that Administrations may implement other frequency arrangements (for example, arrangements which include different duplex schemes, different FDD/TDD boundaries, etc.) to fulfil their requirements. These administrations should consider geographical neighboring deployments as well as matters related to achieving economies of scale, facilitating roaming, and measures to minimize interference.

- ・ ただし、上記第 2 文の記載について、具体的にどのような考慮を行うのが不明確であるとロシアがコメントしており、次回会合でも議論となる可能性がある。

(5) Recommendations における非対称トラフィックの収用に関する記載（本文 7.2 章）

- ・ WiMAX-F より、対称 FDD に比較して TDD の方が、非対称トラフィックの収用に関する柔軟性があるとの修正提案が行われたが、カナダ、仏、日、ノキアらが反対を行った。折衷案として、SWG 議長の提案により varying の単語を追加し、以下のテキストが作業文書に反映された。

It is noted that traffic asymmetry can be accommodated by a variety of techniques including flexible timeslot allocation, different modulation formats, and different coding schemes for the uplink and downlink. With equal FDD pairing for uplink and downlink, or TDD, ~~a~~-varying degrees of traffic asymmetry can be accommodated.

(6) 各 Annex における NOTE の記載（主管庁が自由な周波数アレンジメントを策定できるとの内容）

- ・ ④の結論により、当該 NOTE は不要とするドイツ、カナダ、エリクソン、ノキアに対して、当該 NOTE は必要であるとする米、英との間で結論が出ず、[] 付きのまま次回会合へキャリーフォワードすることにした。

[NOTE 2 - Notwithstanding the recommended frequency arrangements, administrations may take any action (including the use of other combinations of FDD and/or TDD) to fulfil their requirements. Editor's note: This text was found to be problematic due to inconsistency with recommended arrangements (esp. in E and C); also, there were problems with 'notwithstanding' as a word choice; finally, the emphasis on administrations' sovereign rights was thought by some to be unnecessary.]

(7) Annex 2（698-960MHz）における新たな周波数アレンジメントの提案

- ・ 文書 5D/737 によりテレフォニカより、700MHz 帯における新たな周波数アレンジメントの提案が行われた（FDD のペアバンドの間に TDD を挟む提案）。当該提案は、Region 3 向けと示唆する内容が入力文書に記載がしてあったため、韓国が Region 3 の周波数アレンジメントを行っている APT Wireless Forum (AWF) で検討がなされていない内容として、作業文書に反映するべきでないと強く反対した。一方、テレフォニカは入力文書として正当に取り扱うべきと反論した。最終的に作業文書には[] 付きとして反映する一方で、韓国の見解を SWG 議長報告に記載することにした。

(8) Annex 4（2300-2400MHz）における Flexible FDD/TDD の周波数アレンジメントの扱い

- ・ SWG 議長が周波数アレンジメントのフレキシビリティ全体の議論と関連するとコメントをしたが、その際にドイツ、スウェーデンが削除提案を行った。特段反対を行う意見が出なかったため、作業文書から削除を行った。

(9) Annex 5（2500-2690MHz）における Flexible FDD/TDD の周波数アレンジメントの扱い

- ・ ニュージーランドより、C3 の Flexible FDD/TDD のアレンジメントは現行の勧告 M.1036-3 に入っており、修正に合意が得られなければ維持すべきで、削除には大きな問題が伴うとコメントした。本議論は別とすることにし、作業文書にはそのままとした。

(10) Annex 6（3400-3600MHz）における周波数アレンジメントの議論

- ・ 文書 5D/749（WiMAX-F）及び 755（仏、独、スウェーデン）において、当該周波数帯における周波数アレ

レンジメントの基本指針の考え方が示された。作業文書において Editor's note として含めることにして、ロシアの意見を取り入れた修正を行って、作業文書に反映を行った。

- ・ 文書 5D/776（ブラジル）において 3.4-3.6GHz 帯全体を TDD に利用する提案が行われ、作業文書に反映を行った。

② M.1036-3 改訂案作成の作業計画の見直し

- ・ 米国より、改訂作業の最終化について次回の第 9 回会合でほぼ完了すべきとの提案が行われた。ニュージーランドより、勧告改訂案の安定化という点からは米国の意見を支持、第 9 回の作業計画において Produce a relatively stable modified version of the revised Recommendation との表現に修正した。

(6) 今後の課題：

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂作業については、次回会合で安定化した内容とすることが合意されたため、作業文書に記載されている日本の提案内容を含め、最終的なまとめ方を意識した検討を行っていく必要がある。

5. 4 AH WORKPLAN

(1) 議長：Hakan OHLSEN（スウェーデン）

(2) 主要メンバ：S. Blust (WP5D 議長)、A. JAMIESON (WG-SPEC 議長)、S. Lixin (WG-TECH 議長)、M. Grant (SWG-Radio Aspect 議長)、H. WANG (SWG-WVAL 議長)、N. P. Magnani (SWG-1457 議長)、U. LÖWENSTEIN (SWG-1580/1581 議長)、J. Costa (加)、S. Green (UK)、K.J. Wee (WG-GENE 議長)、Menenga (独)、他、日本代表団（坂中団長、佐藤副団長、橋本、広池、木幡、本多、鬼頭、石川、林、佐藤(一)、他)、合計約 60 名

(3) 入力文書：

5D/685 (WP4C)：リエゾン(IMT の衛星コンポーネント関連の研究の進捗状況)

5D/712 (SG5 議長)：ワーキングパーティに割り当てられた SG5 の課題のレビュー

5D/679 第 2 章(Rev.1) (WP5D 議長)：前回会合の WP5D 議長報告第 2 章「WP5D の組織とワークプラン」

(4) 出力文書：

5D/TEMP/401：AH WORKPLAN の会合報告

5D/TEMP/400：WP5D 議長報告第 2 章「WP5D の組織とワークプラン」の最新化版

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

中長期的作業計画に従って活動する必要があるとされた経緯から、毎回会合ごとに Living Document として各作業グループ間の相互に関連ある作業計画等の調整作業を行うこと、また、WP5D 全体のワークプランを最新化して維持管理している。結果を WP5D 議長報告の第 2 章として添付している。

(5-2) 審議経過

- ・ 今回会合では、AH-WORKPLAN は 1 回開催された。
- ・ 初日の WP5D プレナリで WG-TECH と WG GEN にも検討が割り当てられた WP4C からの IMT の衛星コンポーネント関連のリエゾン(5D/685)、及び AH-WORKPLAN に割り当てられた SG5 議長寄書(5D/712)中の課題 77 に対して議論し、最後に、5D/679 第 2 章をソースとして AH 議長が最新化したワークプラン資料を審議した。

(i) 5D/685: 本 AH 議長から WG GEN 議長に対して、WG TECH との遣り取りについて報告を求めた。WG GEN

議長からは未だ意見交換していないこと、WG GEN では本 AH 後に議論するとの報告があった。結果は直接最終日の WP5D プレナリへ上げることとした。

(ii) 5D/712 : WG-GENE 議長から、Q.77 と Q.229 についてレビューをしたが、Q.77 については次回の WP5D 会合で寄書を募って議論する予定と報告が行われた。

(iii) ワークプランのアップデート:5D/679 をソースとして AH 議長が作成した資料が示され、審議が行われた。

- ・ アタッチメント（以下 Att.と表記）2.5 : SWG-SPECS は今回で SWG-SPECIFICATIONS に変更されたので反映した。

- ・ Att.2.6(会合スケジュール):

(ア) 第 10 回会合についてはジュネーブ開催は日程的に確保出来ず、スウェーデンでの開催も検討を進めている。ただ、3/9～3/16 の会期はずれる可能性があるとして[]付きの表現に訂正された。

(イ) 第 11 回会合は米国が予定されており、会期も 7/6～13 と明記された。ただし、韓国の K.J.WEE から、米国のホリデー（7月4日：米国独立記念日）が直前にあるので easy to access な開催地が希望された。

(ウ) IEEE から第 10 回会合は IEEE 会合と重複するので考慮するように依頼があった。議長は、一応会合スケジュール上は現状をキープするとしたが、最後には上記の不確定要素があるので[]付で表記された。

(エ) 第 12 回会合の会期はフィックスされているのか質問があったが、現状通りと表記するとされた。

(オ) 2011 年の SG5 の会期は 2011 年 11 月 21-22 日とコリンからアナウンスがあって追記された。

(カ) 2012 年の WP5D 会合は、今までの慣習通りに WRC での開催年の会合回数は 2 回会合との確認が行われた。第 13 回会合は RA-12 から最初の会合なので、恒例通り、2012 年 4 月 23 日～27 日の 1 週間内の 5 日間会合としジュネーブが予定されている。第 14 回会合は 2012 年 10 月 10 日～18 日の 7 日間会合と復帰するが、場所は未定である。

- ・ Att.2.8(会合毎のオーバーオール成果と作業計画):

(ア) 第 10 回会合：勧告 1580/1581 の改定の最終化が追加された。

(イ) 第 10 回会合の会期は 3 月か 4 月か不明なので March/April に修正された。

(ウ) 第 11 回会合は 2011 年 6 月として明確な日付を入れずに表記し、Terminologies update の最終化が今回から延期されて記入された。

(エ) 第 12 回会合は 2011 年 10 月と表記の修正が行われ、IMT UPDATE の最終化が追記された。

- ・ Att.2.9(詳細ワークプラン): [IMT UPDATE]が追加される。その他の見直しについて確認が行われたが、詳細ワークプランは各 WG が決定した後、最終日の Closing Plenary で本ワークプランに反映することとした。
- ・ Att.2.9(ノートすべきリエゾンと関連作業): 2.10.5 章に Liaison from WP 4C (Source: Doc. 5D/685)および 2.10.6 章に Contribution from Chairman SG 5 (Source: Doc. 5D/712)を追記した。
- ・ Att.2.11(Schedule for the IMT-Advanced process)でアップデートプロセスを説明しているテキスト(米国寄書がソース)について、韓国から検討作業は既に WG TECH で行われているとの指摘があり、is on going and を need to take in account の直前に挿入した。

(iv) その他:

- ・ 次回 WP5D 第 9 回会合は中国から招聘が行われた。

(5-3) 審議結果

- ・ WP5D 議長報告第 2 章のワークプランが最新化された。

(5-4) 今後の課題

- ・ IMT-Advanced の無線インタフェース新勧告草案[IMT.SPECS]は WG TECH で具体的な議論が進んでおり、予定通りファイナライズしトランスポーズも順調に進むように注視する。また、そのアップデートプロセスや[IMT.UPDATE]等次期研究会期に向けたスケジュールの動向に注視する。

5. 5 AH VOCABULARY

第8回会合では Ad Hoc Vocabulary は 6/14 ピリオド 2 に予定されていたが、直前でキャンセルされ、開催されなかった。Closing Plenary での AH 議長発言によれば、前回会合で各 SWG に対してボキャブラリーリストの提出を依頼していたが、今回会合で入力がなかったため、開催を取りやめたとのことである。今回会合で、次回以降の AH 作業計画（マイルストーン）が更新された(5D/TEMP/347)。

今後、各 SWG での新規用語や定義の収集を行うとともに、AH Vocabulary 活動を促進するために必要に応じて既存勧告、レポートからの用語のリストアップ作業を検討する必要がある。

6. Region 3非公式会合

(1) 議長：佐藤（孝）（日本）

(2) 主要メンバー：Y.Wan、L.Wang、H.Wang、Y.Li、Y.Zhu(中国)、K.J.Wee、D.J.Kim、J.Oh、K.Yeo、Y.Kim、K.Kim、E.Lim(韓国)、坂中、木幡、広池(日本)、A.Jamieson(ニュージーランド)、N.Q.Mai(ベトナム)、A.Fakrullah(マレーシア)、W.Dorji(ブータン)、A.Chandra、V.Goel、J.P.Garg、B.Bhatia(インド)、J.Lewis (AWF)

(3) 入力文書：5D/785(リージョン3レポート) Activities related to IMT-2000 and IMT-Advanced in Region 3

(4) 審議概要：

Region 3 参加国から、各国での IMT 等の移動通信システムの検討・導入状況並びに本 WP5D 会合における関心事項について情報を提供してもらい、それらについての質疑応答をする形で議事を進めた。また AWF の活動状況について情報を共有した。議事の状況は以下のとおりである。

①中国：

- CCSA は将来の移動通信市場と周波数利用について(800MHz、900MHz 帯含む)フィージビリティスタディを実施中である。
- 5 月に 3GPP と IEEE が各々主催の IMT-Advanced 無線インタフェース技術提案の評価に関するワークショップが北京で開催された。
- 中国の評価グループ(ChEG)は本会合に最終評価報告書を提出した。
- TD-LTE の実験システムが上海万博会場にて運用中である。商用導入時期は未定である。
- 2010 年の最初の 4 ヶ月間での新規の携帯電話加入者数は 3,900 万以上であり、トータルでは約 7.9 億加入となっている。
- 今会合では IMT-Advanced 無線インタフェース候補技術の最終評価結果、インド提案のルール環境による追加評価結果、周波数アレンジメント勧告の改訂議論に注目している。

②日本：

- NTT ドコモは 2010 年 12 月に 2GHz 帯で LTE の商用サービスを開始予定であり、インドアカバレッジの強化のために小電力リピータの包括免許を受けた。
- 今会合では IMT-Advanced の開発プロセスのステップ 4 以降を進めて行きたい。M.[IMT.RSPEC]の構成に関する検討が進むことも望んでいる。また、M.[IMT.Mitigation]に関して干渉軽減技術に関する実験結果を寄与文書として提出しており、ドラフト文書に入れ込みたいと思っている。また、2020 年を見据えた将来の IMT についての議論にも関心があり、日本は寄与文書を提出している。

③韓国：

- KCC は今年 4 月に 800MHz 帯の 2×10MHz を既存オペレータの LG テレコムに、900MHz 帯の 2×10MHz を既存オペレータの KT に割り当てた。2011 年 7 月以降に有効となり、3G または Beyond 3G が運用される。また、2.1GHz 帯の 2×20MHz を既存オペレータの SKT に割り当てた。免許料を払い込めばすぐに有効となり、HSPA+が運用される。
- TTA の評価プロジェクトグループの PG707 は今会合に両技術に関する最終評価報告書を提出した。
- 今会合では IMT-Advanced の最終評価結果、周波数アレンジメント、将来の IMT 等、すべての課題に注視している。

④ニュージーランド：

- 注目点は周波数アレンジメントと Digital Dividend である。アナログ TV の終了に備える必要がある。ニュージーランド政府は遅くとも 2015 年までにはデジタル方式への切り替えを実施すると言っている。

- デジタル TV への切り替え後の 694MHz～806MHz は新たなセルラー方式で利用される。4G での利用が見込まれる。
- AWF で行われている UHF Digital Dividend に関するコレスポンスグループ(CG)活動に参加している。
- 今会合ではスペクトラム関連に注力している。

⑤ベトナム：

- MIC は昨年 4 つの 3G ライセンスを交付した。最近、第 4 オペレータの 3G システムの運用が始まった。
- 現在、IMT 向けの新周波数の割り当て検討を行っている。2.3GHz 帯の TDD バンド 3 ブロックと 2.5GHz 帯の TDD バンド 1 ブロック及び FDD バンド 3 ブロックである。
- 今会合での注目点は周波数アレンジメントである。2.5GHz 帯と Digital Dividend バンドに関心がある。

⑥マレーシア：

- 800MHz 帯の IMT での利用の準備をしている。既存オペレータに割り当てられる。
- 700MHz 帯のバンドプランは検討中。
- 今週開催されたリージョナルワークショップでプレゼンテーションを行ったのでプレゼン資料を Region3 メンバに送付する。

⑦バングラデシュ：

- 3G の周波数割当に関するガイドラインが出されたところである。2GHz 帯について 4 ブロックをオークションする。10MHz×2 を 3 オペレータ（既存オペレータ）、15MHz×2 を 1 オペレータ（新規オペレータ）に割り当てる。来年の初めにはオークションは終了予定。新規オペレータはコンソーシアムになるだろう。

⑧ブータン：

- 2 つのセルラーオペレータが GSM800/900MHz を運用中。
- デジタル TV への切り替えは現在コンサル中で、近い将来に実施される。

⑨インド：

- 2.3GHz 帯及び 2.5GHz 帯の BWA 向けブロックの周波数オークションは本日完了した。2.1GHz 帯の 3G 向けブロックのオークション結果と合わせると総額は 230 億米ドルとなった。BWA のライセンスはすぐに出されるが、ロールアウト時期はオペレータ依存である。
- IMT アプリケーション用に今後、700MHz 帯、2.3～2.4GHz 帯(追加分)などをオークションする予定である。時期については他の国のバンドプランに関する動きを見ているところであり現状未定である。
- 4G に関するコンサルテーションペーパーを出したところである。ステークホルダーからのコメントを求めている。

⑩AWF：

- AWF では本年 9 月の AWF 第 9 回会合に向けて UHF Digital Dividend に関するコレスポンスグループ (CG) 活動が行われているところである。第 9 回会合の初日の前日に CG メンバの F2F 会合も予定されている。
- 2.3～2.4GHz 帯の周波数アレンジメントに冠する APT レポートは完成した。

7. 1 WP5D 及び関連会合の今後の開催予定

「WP5D の開催予定」

- ・ WP5D 第 9 回会合 中国（重慶） 2010/10/13 ～ 20
第 8 回会合後に、開催地が成都市から重慶市に変更された。
（報告書中の成都会合は重慶会合に読み替える）
- ・ WP5D 第 10 回会合 欧州（未定） 2011/3/30 ～ 4/6
- ・ WP5D 第 11 回会合 米国（未定） 2011/7/7 ～ 14

- ・ WP5A スイス（ジュネーブ） 2010/11/8 ～ 17
- ・ SG5 スイス（ジュネーブ） 2010/11/22、23

7. 2. 1 WG GENERALASPECTS 関係

- ・ 特になし

- ・ IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 向けの改訂に関しては、日本として特に必要事項はない。
ARIB/TTC は CDMA DS/MC/TDD の Stakeholder SDO として必要な情報を ITU に連絡する必要がある。
- ・ IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、日本は 3GPP 技術、IEEE 技術の提案者として、ARIB/TTC は 3GPP 技術の提案者としてリエゾン文書に記載の規定に則った必要入力を期限までに入力する必要がある。
- ・ また、M.[IMT.RSPEC]の改定手順に関しては、その内容を精査し、必要であれば次回寄書入力を行う。
- ・ 勧告 M.1580/M.1581 に関しては特に必要事項はない。
- ・ IMT.RADIO に関しては、ステップ 7 及びステップ 8 に向けた項目に関して、日本は提案者としてステップ 7 に対する対応に合わせ、必要であれば文書の検討を行う。
- ・ CRS に関しては内容が IMT に特化したものから拡張される入力がなされているため、次回会合までに検討を行い、必要であれば寄書入力を行う。
- ・ IMT-Advanced 選定プロセスに関しては必要であれば作業内容の提案を行う。

・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂、及び 698-960MHz 帯の周波数アレンジメント策定に関わる作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、以下の点を考慮して、適切に対処していく必要がある。

(1) 勧告 M.1036-3 の改訂作業については、次回会合で安定化した内容とすることが合意されたため、作業文書に記載されている日本の提案内容を含め、最終的なまとめ方を意識した検討を行っていく必要がある。

(2) 作業文書[IMT.700]は、我が国における 700/900MHz 帯の利用に関わる国内の検討状況を注視し、今後の対応の検討を行っていく必要がある。

- ・ 共用検討関連では、以下の点を考慮して、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、適切に対処していく必要がある。
 - (1) 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案[IMT Mitigation]の作成に当たっては、我が国の技術的検討内容が作業文書に反映されていることを踏まえ、次回会合で新勧告案が完成されるよう対処していく必要がある。
 - (2) IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータに関するレポート M.2039 の改訂は、外部団体からの意見が審議に適切に反映されるよう対処しつつ、次回会合でレポート改訂案が完成されるよう対処していく必要がある。
 - (3) IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案[ANT ISO]の作成の作業は、作業文書の内容の適切性の確認を行うとともに、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。
 - (4) UHF 帯における共用検討は、作業文書の内容の適切性の確認を行うとともに、我が国では当該周波数帯の一部を IMT に使用（及び使用予定）であることを踏まえ、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。
 - (5) ITU-T SG9 の新研究課題の検討については、検討されている周波数帯の一部が、我が国では IMT に使用（及び使用予定）であることを踏まえ、議論の動向を注視し、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。

付属資料 1 参加国・機関と寄与文書数

参加国	参加者数	寄与文書数
アフガニスタン	1	
オーストリア	1	
バングラディッシュ	1	
ブータン	1	
ブラジル	3	4
カナダ	5	3
コロンビア		1
中国	21	6(再掲 2)
フィンランド	1	
フランス	7	3
ドイツ	4	1(再掲 1)
インド	8	1
イラン	2	
イタリア	1	
日本	19	6
韓国	17	6(再掲 2)
マレーシア	1	
メキシコ	1	1
モロッコ	1	
オランダ		1
ニュージーランド	1	
オマーン		1
ロシア	3	
サウジアラビア	2	
スウェーデン	1	1(再掲 1)
スイス	1	
英国	2	
米国	12	5
ベトナム	14	
小計	131	34

参加機関	参加者数	寄与文書数
China Mobile	2	
E-Plus Mobilfunk	1	
O2 Germany	1	
テレコムイタリア	1(再掲 1)	1(再掲 1)
NTT ドコモ	2	1(再掲 1)
テリアソネラ (スウェーデン)	2	
AT&T	1	4
エリクソン(カナダ)	1(再掲 1)	
Research in Motion	2	
アルカテル・ルーセント上海ベル	1	
大唐テレコム	2	1(再掲 1)
Huawei	1(再掲 1)	1
ZTE	4	2(再掲 1)
ノキア	2	4
Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG		3(再掲 3)
France Télécom Orange		1
Agilent Technologies Inc.		3
アルカテル・ルーセント (フランス)	3(再掲 3)	
サムスン	2	
Telefon AB - LM Ericsson	5	4(再掲 3)
エリクソン	2	
Access Partnership Limited	1	
アルカテル・ルーセント(米国)	3	3(再掲 3)
インテル (米国)	2	
モトローラ (米国)	1	
Qualcomm	3	3(再掲 3)
ETSI		2
IEEE	2	5
WiMAX Forum	4	6
Radiocommunication Bureau	1	
Telecommunication Development Bureau	1	
ATIS		3
3G Americas		1
Telefónica, S.A.		1
BR Study Group Department		1
Chairman, ITU-T SG 13		
Chairman, SG 5		2
Chairmen, SGs 5 and 6		1
Chairman, WP5D		1
Chairman & Vice Chairmen WP5D		
Director, BR		16
ITU-D SG2		
ITU-R SG4		
ITU-R SG5		
ITU-T SG2		

参加機関	参加者数	寄与文書数
ITU-T SG5		1
ITU-T SG13		
ITU-T SG15		
Region 1 (CEPT) Rapporteur		1
Region 2 Rapporteur		1
Region 3 Rapporteur		1
WP1A		
WP4A		1
WP 4C		1
WP1B		
WP3M		
WP5A		3
WP5B		1
WP5C		1
WP5D		
WP6A		2
JTG5-6		
Convener of Correspondence Group		1
Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S. A., Telecom Italia S.p.A., Telefon AB-LM Ericsson, Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Nokia Corporation, NEC Corporation, Huawei Technologies Co Ltd., Hitachi Ltd., Fujitsu Limited, DaTang Telecom. Tech. & Ind. Holding Co. Ltd., AT&T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.		2
Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S. A., Telecom Italia S.p.A., Telefon AB-LM Ericsson, Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Nokia Corporation, NEC Corporation, Huawei Technologies Co Ltd., Hitachi Ltd., Fujitsu Limited, Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.		3
小計	53	73
合計	184	107

付属資料2 ITU-R WP5D第8回会合日本代表团名簿

区 分	氏 名	会社名・団体名	所 属 ・ 役 職
団 長	坂中 靖志	総務省	総合通信基盤局 電波部 移動通信課 新世代移動通信システム推進室長
副団長	佐藤 孝平	(社)電波産業会	常務理事
構成員	北 豊	イー・モバイル(株)	技術本部 設備基盤部 無線企画 G
構成員	橋本 明	(株)NTT ドコモ	無線標準化推進室 室長
構成員	新 博行	(株)NTT ドコモ	電波部 電波企画担当課長
構成員	田中 晋也	(株)NTT ドコモ	研究開発推進部 国際標準化担当
構成員	藤井 啓正	(株)NTT ドコモ	先進技術研究所
構成員	菅田 明則	KDDI(株)	技術渉外室 電波部 担当部長
構成員	桂川 浩	シャープ(株)	研究開発本部 先端映像・通信技術研究所 主任研究員
構成員	小松 裕	ソフトバンクモバイル(株)	モバイルネットワーク本部 ネットワーク統括部 電波部 課長
構成員	高野 俊也	(株)東芝	ビジュアルプロダクツ社 コアテクノロジーセンター モバ イル技術開発部第4担当
構成員	本多 美雄	日本エリクソン(株)	技術本部 標準化・レギュレーション担当部長
構成員	鬼頭 英二	日本電気(株)	キャリアネットワーク企画本部 エグゼクティブエキスパート
構成員	外山 隆行	パナソニック モバイル コミュニケーションズ(株)	技術統括センター 通信システム開発センター 第2グループ 第4チーム チームリーダー
構成員	石川 禎典	(株)日立製作所	通信ネットワーク事業部 主任技師
構成員	林 律雄	富士通(株)	事業管理統括部 標準化推進部
構成員	佐藤 一美	三菱電機(株)	通信システム事業本部通信システムエンジニアリングセンター 戦略 事業推進グループ 担当部長
構成員	広池 彰	(社)電波産業会	研究開発本部 移動通信グループ 担当部長
構成員	木幡 祐一	(社)電波産業会	研究開発本部 移動通信グループ 主任研究員

付属資料3 日本寄書等の審議結果

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-GEN	Doc. 5D/718 (J-1)	本寄与文書は、2020 年前後を見通した IMT システムを用いたネットワークの検討において、当該テーマの議論を促進する上で参考となりうる考え方や進め方の論点の案を提案する。 更に、議論に資するよう、日本における LTE の技術検討で参考とした、日本で想定する将来の情報通信とそれを用いる社会条件に関する一例を紹介する。 <u>議論</u> ○ 将来の情報通信を検討する他の動向 ○ グランドデザイン、ビジョン、見解(ターゲットやシナリオ)の作成に材料となる関連情報例 ○ 検討での考慮すべき点の例 ○ 検討の進め方に係る案 ○ トラフィック量の推測の進め方 ○ ネットワークスループットの特性を確定するための他 WP との連携 ○ 日本の携帯電話等周波数有効利用方策委員会の報告における IMT-2000 の高度化のための技術的方策から参考として、概要、主要情報を例示。 <u>提案</u> 1. 今後の段階的進め方について提案 1) サービスの将来イメージの共有化 2) 想定される各アプリについて、利用者の観点で送受されるデータの分量とその望ましい伝送時間の関係 3) 以上の検討内容に応じた将来作業計画の見直し 2. 将来の IMT ネットワークの検討に関し認識されるべき議論の項目の提案 ・ データ伝送量の増加の度合 ・ 国、地域毎のアプリと伝送データ量の関係情報 ・ 現在と将来の間の比較したデータ伝送量の情報 ・ 誰に、どんなサービスアプリを実現するのかについての点に焦点をあてた見直し	本寄与文書で提案した今後の検討に資する情報、論点情報が、作業文書[IMT.UPDATE]に採用され、今後の検討材料となった。

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-TECH	Doc. 5D/719 (J-2)	本寄与文書は、IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関して、開発のための検討事項及び考え方を、勧告作業文書の原案等と共に提案したものである。	SWG-IMT SPECIFICATIONS において討議され、要検討事項として提案した内容は共通理解を得た。また、M.[IMT.RSPEC]は提案通りハイパーリンクを利用した形式を前提に作成することで合意し、日本寄書の添付文書を基に作業文書が作成された。 尚、GCS を用いた策定方法の規定は提案内容と整合した形で米国提案文書を基に IMT-ADV 文書として承認した。
WG-SPEC	Doc. 5D/720 (J-3)	本寄与文書は、第 7 回 WP5D 会合で更新された新勧告草案 ITU-R M.[IMT.MITIGATION]の作業文書に対して、総務省技術試験事務「次世代移動通信システムのための周波数共用技術」に関する調査検討会(H18 年度～H21 年度)、及び総務省電波資源拡大のための研究開発「同一周波数帯における複数無線システム間無線リソース制御技術の研究開発」(H20 年度～)で得られた成果を盛り込むことを提案した。	提案を行った、 ・セクタ送信停止による干渉軽減 ・フィードバック情報を用いた MIMO による干渉軽減 の屋外実験での検証、及びシミュレーションによるその妥当性の検証結果の概要を新勧告草案の作業文書の Annex へ、検証結果の詳細を同 Attachment へ、それぞれ盛り込むことに成功した。
WG-SPEC	Doc. 5D/721 (J-4)	本寄与文書は、3.4-3.6GHz 帯における IMT と FSS との共用促進技術に関する新勧告草案 [IMT.MITIGATION]に関し、WP4A からの返答リエゾン文書(5D/684)で示された意見のうち、特に WP5D としてコメントすべき下記について日本の考え方を示し、WP5D における WP4A 対応の審議の際に考慮するよう提案するものである。 ① セクタ送信停止(Sector Disabling)の郊外での導入シナリオ、 ② アンテナダウンチルトを使用する場合の集合干渉	SWG SHARING STUDY 及び DG IMT MITIGATION において審議され、提案の主旨及びテキストの一部が、新勧告草案の作業文書及び WP4A へのリエゾン文書に反映された。
WG-TECH	Doc. 5D/731 (J-6)	本寄与文書は、日中韓の 3 国共同で IMT.RADIO に関して、Scope、記載内容に関して作業文書の更新内容を提案したものである。	SWG-Radio Aspects において討議され、提案通り Scope からは“Framework”の文言は削除、ステップ 5, ステップ 6 の項に関しては、その纏めのみを本文に記載し、SWG-EVAL から出力される詳細内容は Annex にて参照することに合意した。 作業文書に関しては、提案の内容を盛り込み 5D/TEMP/395 として作成し、次回会合にキャリーフォワードした。

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-TECH	Doc. 5D/764 (J-5)	IMT-Advanced 開発プロセスを促進することを目的として、以下の作業を行うことを提案する。 - ステップ4(外部評価グループによる提案の評価)の終了 - ステップ5(外部評価グループ活動のレビューと調整)を終了するか検討 - ステップ6(最小要求条件への適合評価)の開始と終了 具体的な作業としては以下を提案する。 - 外部評価グループからの評価レポートをチェックして、WP5D の意見を追加した ADV 文書(WP5D の内部文書)を作成する(Annex1 にADV 文書の雛形案)。 - 外部評価グループへのリエゾンを作成する。このリエゾンでは評価レポートの受領およびステップ4の終了を知らせる(Annex2 にリエゾン案)。 - ステップ6の出力として、WP5D の評価レポートを作成する。本レポートは、候補技術提案毎にADV 文書として作成して、IMT.RADIO に含む内容とする(Annex3 に評価レポート案)。 - ステップ5を本会合または第 9 回会合で終了するか、検討する。 なお本寄与文書は、日中韓の共同寄与文書である。	本寄与文書の提案に従って、IMT-Advanced 開発プロセスの活動が行われ、プロセスのコーディネーション及び評価活動に大いに貢献した。 具低的には、評価グループの最終評価レポートのレビューを行い、ステップ4及び5の終了を確認、その結果を評価グループに知らせるリエゾンを作成した。さらに評価レポート毎にADV 文書を作成して、ITU-R のウェブサイトで公開することとなった。またステップ6は終了しなかったが、その作業が進んだ。

付属資料 4 入力文書一覧 (1/8)

Doc.	TITLE	Source
5D/602	Liaison statement to Working Party 5B and Working Party 5D - Draft revision of Report ITU-R M.1051-1 - Public mobile telephone service with aircraft	carried forward
5D/612	Terrestrial IMT networks development in the timeframe of years 2012-2020	carried forward
5D/617	Consideration of work to assess the compatibility of IMTS systems with other systems including those of other service in the band 698-960 MHz	carried forward
5D/619	Comments/Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3"	carried forward
5D/622	Progression of the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Frequency arrangements for implementation of the terrestrial component of International Mobile Telecommunications (IMT) in the bands identified for IMT in the Radio Regulations (RR)	carried forward
5D/638	Revision to Recommendation ITU-R M.1036-3	carried forward
5D/643	Change proposals to Recommendation ITU-R M.1036 in order to include clear Recommendations on frequency arrangements	carried forward
5D/656	Revision to Recommendation ITU-R M.1036-3 in order to include clear Recommendations on frequency arrangements	carried forward
5D/659	Views on revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	carried forward
5D/665	Views on revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	carried forward
5D/679	Report of the seventh meeting of Working Party 5D (Turin, 17-24 February 2010) Note: Chapter 2 is revised	Chairman, WP 5D
5D/680	Results of the 17th RAG meeting	Chairman, SG 5
5D/681	Naming of IEEE's IMT-Advanced proposal	IEEE
5D/682	MT-2000 OFDMA TDD WMAN submission towards Revision 10 of Recommendation ITU R M.1457 (Meeting X+2)	IEEE
5D/683	Follow-up study after the work of Joint Task Group 5 6 is over	Chairmen, SGs 5 and 6
5D/684	Liaison statement to Working Party 5D - Techniques to improve the compatibility or sharing between IMT systems and FSS networks in the 3.4 3.6 GHz band	WP 4A
5D/685	Liaison statement to Working Party 5D - Progress of studies related to the satellite component of IMT	WP 4C
5D/686	ITU-R Question to be brought to the attention of Working Parties 5A and 5D	BR, Study Group Department
5D/687	DECT information regarding the update of Recommendation ITU-R M.1457	ETSI
5D/688 Rev1	Proposed updates towards a new revision of Recommendation ITU-R M.1580 for IMT 2000 CDMA MC	Agilent Technologies Inc., Alcatel Lucent USA Inc. and Qualcomm Inc
5D/689	Proposed updates towards a new revision of Recommendation ITU-R M.1581 for IMT 2000 CDMA MC	Agilent Technologies Inc., Qualcomm Inc., Alcatel-Lucent USA Inc.
5D/690	Information and text towards a revised Recommendation ITU-R M.2039-1 for IMT 2000 CDMA MC	Agilent Technologies Inc., Qualcomm Inc., Alcatel-Lucent USA Inc.
5D/691	Schedule and procedural aspects for the completion of the first release of Recommendation ITU-R M.[IMT.RSPEC]	United States of America

付属資料 4 入力文書一覧 (2/8)

Doc.	TITLE	Source
5D/692	Recommendation ITU-R M.1457-9 update package for TDMA.-SC in response to Circular Letter 8/LCCE/95	Alliance for Telecommunications Industry Solutions
5D/693 Rev1	Liaison statement - Studies related to Resolution 224 (Rev.WRC-07)	WP 6A
5D/694	Liaison statement to ITU-T Study Group 5 (copy to ITU-T Study Group 9 and ITU-R Working Party 5D) - Proposed new Question in ITU-T Study Group 9	WP 6A
5D/695	Liaison statement to ITU-R Working Party 5D and ITU-T Study Groups 12, 15 and 16 on "Performance and availability requirements and objectives for wireless access systems"	WP 5A
5D/696	Liaison statement to ITU-R Working Party 5D - Revision of Report ITU-R M.2117 - Software defined radio in the land mobile, amateur and amateur satellite services	WP 5A
5D/697	Liaison statement to ITU-R Working Parties 1A and 5D, ITU-T JCA-NID, ITU-T Study Group 16, ITU T Study Group 17 and External Organizations on "Mobile wireless access systems providing telecommunications for a large number of ubiquitous sensors and/or actuators scattered over wide areas in the land mobile service"	WP 5A
5D/698	Procedure for the update of technologies included in Recommendation ITU-R M.[IMT.RSPEC]	United States of America
5D/699	Growth of wireless broadband in the United State	United States of America
5D/700	Proposed revisions to the working document towards a draft new Report on cognitive radio systems (CRS)	United States of America
5D/701	Views on revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	Mexico
5D/702	Comments toward the revision of Recommendation ITU-R M.1580	Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telefon AB-LM Ericsson, Telecom Italia S.p.A., Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Nokia Corporation, NEC Corporation, Huawei Technologies Co. Ltd., Hitachi Ltd., Fujitsu Limited, DaTang Telecom. Technology & Industry Hod'go Co. Ltd., AT&T Inc , Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.□

付属資料 4 入力文書一覧 (3/8)

Doc.	TITLE	Source
5D/703	Comments toward the revision of Recommendation ITU-R M.1581	Alcatel-Lucent France, NEC Corporation, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telefon AB-LM Ericsson, Telecom Italia S.p.A., Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks, Nokia Corporation, Huawei Technologies Co. Ltd., Hitachi Ltd., Fujitsu Limited, AT&T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.
5D/704	Response to ITU-R Working Party 5D on "Revision of Report ITU-R M.2039-1"	Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telefon AB-LM Ericsson, Telecom Italia S.p.A., Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Nokia Corporation, NEC Corporation, Huawei Technologies Co. Ltd., Hitachi Ltd., Fujitsu Limited, AT&T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.

Doc.	TITLE	Source
5D/705	Response to ITU-R Working Party 5D on "Techniques to improve the compatibility or sharing between IMT systems and FSS networks in the 3.4 3.6 GHz band"	Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telefon AB-LM Ericsson, Telecom Italia S.p.A., Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG, Nokia Corporation, NEC Corporation, Huawei Technologies Co. Ltd., Hitachi Ltd., Fujitsu Limited, AT&T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.
5D/706	Update material for CDMA MC for Recommendation ITU-R M.1457-10	Director, BR (TIA TR-45.5)
5D/707	IMT.RADIO	Canada
5D/708	Progression of the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Frequency arrangements for implementation of the terrestrial component of International Mobile Telecommunications (IMT) in the bands identified for IMT in the Radio Regulations (RRs)	Canada
5D/709	Analysis and assessment of global broadband wireless services and marketplace for IMT	Canada
5D/710	Report of IMT-Advanced Israeli Evaluation Group (IEG)	Director, BR (Israeli Evaluation Group (IEG))
5D/711	Latin America broadband wireless marketplace	3G Americas
5D/712	Review of the Study Group 5 Questions assigned to the Working Parties	Chairman, SG 5
5D/713	Reply to liaison statement from Working Party 5A (copy to Working Party 5D) - Draft revision of Report ITU-R M.1051-1 - Public Mobile Telephone Service with Aircraft	WP 5B

Doc.	TITLE	Source
5D/714	Updated material on IMT-2000 CDMA DS and IMT-2000 CDMA TDD for revision 10 of Recommendation ITU-R M.1457	Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telefon AB - LM Ericsson, TELECOM ITALIA S.p.A., Samsung Electronics Co. Ltd., Qualcomm, Inc., NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH&Co. KG, Nokia Corporation, NEC Corporation, Huawei Technologies Co. Ltd., Hitachi Ltd., Fujitsu Ltd., DaTang Telecommunication Tech&industry Hold. Co. Ltd., AT&T, Alcatel Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.
5D/715	Report on the activity of the ETSI Evaluation Group	ETSI
5D/716	ATIS WTSC Evaluation Report on the IMT Advanced proposal in IMT-ADV/4	Alliance for Telecommunications Industry Solutions
5D/717	ATIS WTSC Evaluation Report on the IMT-Advanced proposal in IMT-ADV/8 Note: Delegates are asked to confirm that they have recently downloaded the current document as the early posted document was erroneously the same as 5D/716	Alliance for Telecommunications Industry Solutions
5D/718	Proposals for study on system of future IMT network towards around the year 2020	Japan
5D/719	Proposals on the developing work of PDNR M.[IMT.RSPEC]	Japan
5D/720	Proposed modifications to working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R M.[IMT.MITIGATION] - Techniques to improve the compatibility or sharing between IMT systems and FSS networks in the 3.4 3.6 GHz band	Japan
5D/721	Comments on some of the remarks from WP 4A related to working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU R M.[IMT.MITIGATION] - Techniques to improve the compatibility or sharing between IMT systems and FSS networks in the 3.4 3.6 GHz band	Japan
5D/722	Providing additional flexibility for the GCS to transposition interval in the proposed timing cycle for the revision of Recommendation ITU-R M.[IMT.RSPEC]	AT&T
5D/723	Schedule for Revision 11 update of Recommendation ITU-R M.1457-10	AT&T, Telecom Italia S.p.A.
5D/724	Historical and future perspectives on the wireless broadband marketplace	AT&T
5D/725	Roadmap for updates of Recommendation ITU-R M.1457	IEEE
5D/726	Proposed structure and timeline of Recommendation ITU-R M.[IMT.RSPEC]	IEEE
5D/727	Report of second IEEE 802.16 IMT-Advanced Evaluation Group Coordination Meeting	IEEE

付属資料 4 入力文書一覧 (6/8)

Doc.	TITLE	Source
5D/728	Protection of IMT systems from DVB-T in 790-862 MHz	Oman (Sultanate of)
5D/729	Proposed future work of Working Party 5D	Korea (Republic of)
5D/730	Proposed consideration to develop ITU-R preliminary draft new Report [IMT.UPDATE]	Korea (Republic of)
5D/731	Proposed modification on working document towards IMT.Radio	China (People's Republic of), Korea (Republic of), Japan
5D/732	Proposal on working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU R M.[IMT.MITIGATION]	Korea (Republic of)
5D/733	IMT-2000 Handbook and GST	Korea (Republic of)
5D/734	Completion of new Report ITU-R M.[IMT.RADIO] and Recommendation ITU R M.[IMT.RSPEC]	India (Republic of)
5D/735	Mitigation techniques between IMT systems and FSS networks in the 3.5 GHz band	Netherlands (Kingdom of the)
5D/736	Final Report on the Evaluation of Candidate Radio Interface Technologies for the Terrestrial Component of IMT-Advanced	Director, BR (TR-45 Ad hoc Group on International Mobile Telecommunications TR 45 AHIMT)
5D/737	Input material for Recommendation ITU-R M.1036 - 698-806 MHz UHF frequency arrangement proposal	Telefónica, S.A.
5D/738	Report of Second 3GPP LTE-Advanced Evaluation Workshop	Director, BR (3GPP TSG-RAN, Chairman)
5D/739	Final evaluation Report on the proposed candidate IMT-Advanced (S) radio interface technology based on 3GPP LTE Release 10 & beyond (LTE-Advanced)	Director, BR (TTA PG707)
5D/740	Final Evaluation Report on the proposed candidate IMT-Advanced radio interface technology based on IEEE 802.16	Director, BR (TTA PG707)
5D/741	Response to the Liaison statement to External Organizations on revision of Report ITU-R M.2039-1	Director, BR (TTA (Telecommunications Technology Association))
5D/742	Proposed revisions to the working document towards a draft new Recommendation ITU-R M.[IMT-MITIGATION] - Techniques to improve the compatibility or sharing between IMT systems and FSS networks in the 3.4 3.6 GHz band	United States of America
5D/743	Final Report on Evaluation of the IMT Advanced Radio Interface Technologies	Director, BR (Russian Evaluation Group (REG))
5D/744	Revisions of Recommendations ITU-R M.1580-3 and ITU-R M.1581-3	WiMAX Forum
5D/745	Input towards development of ITU-R M.[IMT.MITIGATION]	WiMAX Forum
5D/746	Proposed way forward for the Handbook on deployment to IMT-2000 systems and the revision of Supplement 1	WiMAX Forum
5D/747	Comments on the working document towards the preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.CRS] Cognitive Radio Systems specific for IMT systems	WiMAX Forum
5D/748	Comments on the working document towards a preliminary draft new Report on isolation for antennas of base stations in the land mobile service including IMT	WiMAX Forum

付属資料 4 入力文書一覧 (7/8)

Doc.	TITLE	Source
5D/749	Input on revision to Recommendation ITU-R M.1036-3	WiMAX Forum
5D/750	Final Report of WCAI IMT-Advanced evaluation Group (WCAI EG)	Director, BR (Wireless Communications Association International (WCAI))
5D/751	Views on revision of Recommendation ITU-R M.1036-3	Colombia (Republic of)
5D/752	Proposal related to the working document towards the preliminary draft new Report ITU R M.[IMT.CRS] - Cognitive Radio Systems specific for IMT systems	France
5D/753	Principles for the development of channeling arrangements in the 3 400-3 600 MHz band	France
5D/754	Paired frequency and unpaired frequency access schemes for IMT networks with regard to spectrum arrangements in Recommendation ITU-R M.1036	Nokia Corporation, Telefon AB LM Ericsson, Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG
5D/755	Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3" in order to recommend frequency arrangements	France , Sweden, Germany (Federal Republic of)
5D/756	Final Report of Correspondence Group for IMT-Advanced Evaluation Groups	Convener of Correspondence Group
5D/757	Final Report on the IMT-Advanced candidate Radio Interface Technology Evaluation	Director, BR (TCOE India)
5D/758	Information on proposed new Question in ITU-T Study Group 9	ITU-T SG 5
5D/759	Working method and study area of market forecasting and spectrum estimation for IMT systems in next decade	China (People's Republic of)
5D/760	Final Evaluation Report on submissions in Documents IMT-Advanced/6, IMT Advanced/8 and IMT-Advanced/9	Director, BR (Chinese Evaluation Group (ChEG))
5D/761	Contribution to PDNR on isolation for antennas of base stations in the land mobile service including IMT.Doc	China (People's Republic of)
5D/762	Contribution to the workplan for sharing and compatibility studies in the UHF band	Huawei Technologies Co. Ltd. , ZTE Corporation
5D/763	Evaluation results in open area rural model provided by TCOE India with TDD RIT of submissions in documents IMT-ADV/ 6 IMT ADV/8 and IMT-ADV/9	(Director, BR) Chinese Evaluation Group (ChEG)
5D/764	Proposal of actions for IMT-Advanced development at the 8th Working Party 5D meeting	China (People's Republic of), Korea (Republic of), Japan
5D/765	Proposal of examples of isolation scenarios of the Report on isolation for antennas	China (People's Republic of)
5D/766	Proposal of the mobile service base station antennas of the Report on isolation for antennas	China (People's Republic of)
5D/767	Text proposal on preliminary draft new Report (PDNR) of ITU-R [IMT.CRS] - Cognitive radio systems specific to IMT systems	ZTE Corporation, DaTang Telecom. Technology & Industry Hod'go Co. Ltd.

付属資料 4 入力文書一覧 (8/8)

Doc.	TITLE	Source
5D/768	Minimum Coupling Loss and antenna isolation	France Télécom Orange
5D/769	Final Evaluation Report from WINNER+ on the IMT-Advanced proposal in documents IMT-ADV/6, IMT-ADV/8 and IMT-ADV/9	Director, BR (Independent Evaluation Group WINNER+)
5D/770	A way forward on the Update of ITU-R Supplement 1 of the Handbook on IMT-2000	AT&T Inc.
5D/771	Working document towards a PDNR on isolation for antennas of base stations in the land mobile service including IMT	Telefon AB-LM Ericsson □
5D/772	Elements for IMT.UPDATE discussion and a first proposal for structure of the Report	Nokia Corporation, Telefon AB LM Ericsson, NTT DoCoMo Inc., Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG
5D/773	Proposals related to band plan flexibility in Recommendation ITU-R M.1036-3	Nokia Corporation, Telefon AB LM Ericsson, Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG
5D/774	Comparison of Finnish mobile broadband data usage rates (2009) and UMTS Forum estimates (2005)	Nokia Corporation
5D/775	Results of IMT-Advanced Evaluations	Brazil (Federative Republic of)
5D/776	Considerations on frequency arrangement for 3 400- 3 600 MHz in Recommendation ITU-R M.1036	Brazil (Federative Republic of)
5D/777	Proposed preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.UPDATE] - Analysis and assessment of global broadband wireless services and marketplace for IMT	Brazil (Federative Republic of)
5D/778	Proposed update of the working document toward the preliminary draft new Report ITU R M.[IMT.CRS] - Cognitive radio systems specific for IMT systems	Brazil (Federative Republic of)
5D/779	Final Evaluation Report from WiMax Forum Evaluation Group on the IMT-Advanced proposal in documents IMT-ADV/4, IMT ADV/5 and IMT-AD/7 (IEE Wireless man Advanced)	Director, BR (WiMAX Forum Evaluation Group)
5D/780	Presentation - Final Report on Evaluation of the IMT-Advanced Radio Interface Technologies	Director, BR (Russian Evaluation Group)
5D/781	CEG Evaluation Report on the Candidate Proposals submitted to WP 5D of the ITU-R - Report with final results	Director, BR (Canadian Evaluation Group (CEG))
5D/782	Update on recent activities within CEPT	ITU Region 1 (CEPT) Rapporteur
5D/783	Update on STANDARDS activities	Region 2 Rapporteur
5D/784	Correspondence received regarding the update of Recommendation ITU-R M.1457 to Revision 10	Director, BR
5D/785	Activities related to IMT-2000 and IMT-Advanced in Region 3	Region 3 Rapporteur

付属資料5 出力文書一覧

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
333	WORKING DOCUMENT FOR THE DRAFT NEW RECOMMENDATION/REPORT ITU-R [IMT.UPDATE] ANALYSIS AND ASSESSMENT OF GLOBAL BROADBAND WIRELESS SERVICES AND MARKETPLACE FOR IMT	WG General Aspects	1、ヲ、e
334 Rev.1	MEETING REPORT	Chairman, DG IMT.UPDATE	1、ル、c
335	PROPOSED UPDATE OF SECTION 5.1 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1457-9	WG Technology Aspects	1、イ、b
336 Rev.1	LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 4C PROGRESS OF STUDIES RELATED TO FUTURE IMT	WG General Aspects	2、ホ、a
337	DRAFT WORKSHOP – “IMT FOR THE DECADE 2010 - 2020”	WG General Aspects	2、ヲ、e
338 Rev.2	DRAFT LIAISON STATEMENT TO ITU-D SG 2 AND ITU-T SG 13 REGARDING DEVELOPMENT OF A NEW HANDBOOK ON GLOBAL TRENDS IN INTERNATIONAL MOBILE TELECOMMUNICATIONS (IMT) (COPY TO WP 4C)	WG General Aspects	2、ホ、a
339	CHAPTER 3 OF CHAIRMAN'S REPORT 5D/679 (CHAPTER 3) DETAILED WORK PLAN ON PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON MOBILE MARKET STATUS [IMT.UPDATE]	AH – Workplan	1、ヌ、e
340	WORKING DOCUMENT FOR PRELIMINARY DRAFT NEW RECOMMENDATION OF ITU-R M.[IMT.RSPEC]	WG Technology Aspects	1、イ、e
341 Rev.1	DRAFT REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1457-9 DETAILED SPECIFICATIONS OF THE TERRESTRIAL RADIO INTERFACES OF INTERNATIONAL MOBILE TELECOMMUNICATIONS-2000 (IMT-2000)	WG Technology Aspects	2、イ、b
342			withdrawn
343 Rev.1	PROPOSED UPDATE OF SECTION 5.6 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1457-9	WG Technology Aspects	1、イ、b
344	PROPOSED UPDATE OF SECTION 5.2 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1457-9	WG Technology Aspects	1、イ、b
345	PROPOSED UPDATE OF SECTION 5.3 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1457-9	WG Technology Aspects	1、イ、b
346	PROPOSED UPDATE OF SECTION 5.4 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1457-9	WG Technology Aspects	1、イ、b
347	WORKPLAN FOR NEW TERMS AND DEFINITIONS RELATED TO IMT	AH – Workplan	2、ヌ、e
348 Rev.1	MEETING REPORT OF SWG M.1580/81	Chairman, SWG M.1580 & M.1581	1、ル、c
349 Rev.1	LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANISATIONS REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1580-3 AND M.1581-3 (WORKING DOCUMENT TOWARDS M.1580-4 AND M.1581-4)	WG Technology Aspects	2、ホ、a
350	DETAILED WORKPLAN FOR “UPDATE OF RECOMMENDATIONS ITU-R M.1580-3 AND ITU-R M.1581-3”	AH – Workplan	1、ヌ、e
351	WORKING DOCUMENT TOWARDS REVISION 4 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1580-3	WG Technology Aspects	1、イ、e
352	WORKING DOCUMENT TOWARDS REVISION 4 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1581-3	WG Technology Aspects	1、イ、e
353	PROCEDURE FOR THE DEVELOPMENT OF DRAFT REVISIONS OF RECOMMENDATION ITU-R M.[IMT.RSPEC]	AH – Workplan	1、ヲ、e
354	DETAILED WORKPLAN FOR REVISION(S) OF RECOMMENDATION ITU-R M.1036-3	AH – Workplan	1、ヌ、e
355	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1036-3 FREQUENCY ARRANGEMENTS FOR IMPLEMENTATION OF THE TERRESTRIAL COMPONENT OF INTERNATIONAL MOBILE TELECOMMUNICATIONS (IMT) IN THE BANDS IDENTIFIED FOR IMT IN THE RADIO REGULATIONS (RR)	WG Spectrum Aspects	1、イ、e

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
356	MEETING REPORT OF SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS	Chairman, SWG Frequency Arrangements	1、ル、c
357 Rev.1	[DRAFT] PROCESS AND THE USE OF GLOBAL CORE SPECIFICATION (GCS), REFERENCES, AND RELATED CERTIFICATIONS IN CONJUNCTION WITH RECOMMENDATION ITU-R M.[IMT.RSPEC]	WG Technology Aspects	2、リ、a
358	[DRAFT] LIAISON TO EXTERNAL ORGANIZATIONS ON THE SCHEDULE AND TECHNICAL AND ADMINISTRATIVE INPUTS FOR THE COMPLETION OF THE FIRST RELEASE OF RECOMMENDATION ITU-R M.[IMT.RSPEC]	WG Technology Aspects	1、ホ、a
359 Rev.1	MIGRATION TO IMT-2000 SYSTEMS REVISION TO SUPPLEMENT 1 HANDBOOK – DEPLOYMENT OF IMT-2000 SYSTEMS	WG General Aspects	1、へ、e
360	PROPOSED UPDATE OF SECTION 5.5 OF RECOMMENDATION ITU-R M.1457-9	WG Technology Aspects	1、イ、b
361	DETAILED WORK PLAN ON GLOBAL TRENDS IN IMT [IMT.HANDBOOK]	AH – Workplan	1、ヌ、e
362	MEETING REPORT OF DG IMT-2000 HANDBOOK SUPPLEMENT 1	Chairman, DG IMT-2000 Handbook Supplement 1	1、ル、c
363	DETAILED WORK PLAN ON DETAILED SPECIFICATIONS FOR IMT-ADVANCED, [IMT.RSPEC]	AH – Workplan	1、ヌ、e
364	WORKING DOCUMENT TOWARDS THE PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R M.[IMT.CRS] COGNITIVE RADIO SYSTEMS SPECIFIC FOR IMT SYSTEMS	WG Technology Aspects	1、ロ、e
365	WORKPLAN FOR COGNITIVE RADIOS (CR) ISSUES RELATED TO IMT	AH – Workplan	1、ヌ、e
366 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 6A SHARING AND COMPATIBILITY STUDIES RELATED TO IMT SYSTEMS IN THE MOBILE SERVICE	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
367	DRAFT LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANISATIONS REVISION OF REPORT ITU-R M.2039-1 AND WORK ON UHF SHARING STUDIES	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
368 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 4A (COPIED TO WORKING PARTY 1B FOR INFORMATION) TECHNIQUES DESIGNED TO INCREASE THE POTENTIAL FOR SHARING BETWEEN IMT SYSTEMS AND FSS NETWORKS IN THE 3.4-3.6 GHZ BAND	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
369	DRAFT LIAISON STATEMENT TO ITU-R WORKING PARTIES 1A AND 5A (COPIED FOR INFORMATION TO ITU-T STUDY GROUP 5) ISOLATION BETWEEN CO-LOCATED ANTENNAS OF SYSTEMS IN THE LAND MOBILE SERVICE INCLUDING IMT	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
370	DRAFT LIAISON STATEMENT TO ITU-T STUDY GROUP 5 (COPIED TO ITU-T SG 9 AND ITU-R WP 6A FOR INFORMATION) PROPOSED NEW QUESTION IN ITU-T STUDY GROUP 9	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
371	WORKING DOCUMENT TOWARDS A DRAFT NEW REPORT ON THE COEXISTENCE STUDIES IN RELATION TO RESOLUTION 224 AND QUESTION 229 IN THE BANDS 790-862 AND 698-806 MHZ	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
372	PRELIMINARY DRAFT REVISION OF REPORT ITU-R M.2039-1 CHARACTERISTICS OF TERRESTRIAL IMT-2000 SYSTEMS FOR FREQUENCY SHARING/INTERFERENCE ANALYSES	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
373	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON ISOLATION FOR ANTENNAS OF BASE STATIONS IN THE LAND MOBILE SERVICE INCLUDING IMT	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
374	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW RECOMMENDATION ITU-R M.[IMT.MITIGATION] TECHNIQUES DESIGNED TO INCREASE THE POTENTIAL FOR SHARING BETWEEN IMT SYSTEMS AND FSS NETWORKS IN THE 3.4 - 3.6 GHZ BAND	WG Spectrum Aspects	1、イ、e
375 Rev.1	MEETING REPORT SWG SHARING STUDIES	Chairman, SWG Sharing Studies	1、ル、c
376	DETAILED WORKPLANS FOR SWG SHARING STUDIES	AH – Workplan	1、ヌ、e
377	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION IN DOCUMENT IMT-ADV/4 BY ISRAELI EVALUATION GROUP	WG Technology Aspects	1、リ、a
378	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/4, IMT-ADV/5 AND IMT-ADV/7 BY ATIS WTSC	WG Technology Aspects	1、リ、a
379	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/6, IMT-ADV/8 AND IMT-ADV/9 BY ATIS WTSC	WG Technology Aspects	1、リ、a
380	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/4 AND IMT-ADV/8 BY TR-45 INDEPENDENT EVALUATION GROUP	WG Technology Aspects	1、リ、a
381	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION IN DOCUMENT IMT-ADV/8 BY TTA PG707	WG Technology Aspects	1、リ、a
382	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION IN DOCUMENT IMT-ADV/4 BY TTA PG707	WG Technology Aspects	1、リ、a
383	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/4 AND IMT-ADV/8 BY RUSSIAN EVALUATION GROUP	WG Technology Aspects	1、リ、a
384	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSION IN DOCUMENT IMT-ADV/4 BY WCAI EVALUATION GROUP	WG Technology Aspects	1、リ、a
385	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/4 AND IMT-ADV/8 BY TCOE INDIA	WG Technology Aspects	1、リ、a
386	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/6, IMT-ADV/8 AND IMT-ADV/9 BY CHINESE EVALUATION GROUP	WG Technology Aspects	1、リ、a
387	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/6, IMT-ADV/8 AND IMT-ADV/9 BY WINNER+ EVALUATION GROUP	WG Technology Aspects	1、リ、a
388	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/4, IMT-ADV/5 AND IMT-ADV/7 BY WIMAX FORUM EVALUATION GROUP	WG Technology Aspects	1、リ、a
389	EVALUATION OF IMT-ADVANCED CANDIDATE TECHNOLOGY SUBMISSIONS IN DOCUMENTS IMT-ADV/4 (AS WELL AS IMT-ADV/5 AND IMT-ADV/7) AND IMT-ADV/8 (AS WELL AS IMT-ADV/6 AND IMT-ADV/9) BY CANADIAN EVALUATION GROUP	WG Technology Aspects	1、リ、a
390	ADDITIONAL REPORTS FROM REGISTERED INDEPENDENT EVALUATION GROUPS	WG Technology Aspects	1、リ、a
391	WORKING DOCUMENT FOR STEP 6	WG Technology Aspects	1、ヲ、e
392 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO INDEPENDENT EVALUATION GROUPS (COPY TO IMT-ADVANCED TECHNOLOGY PROPONENTS) FOR FINAL EVALUATION REPORTS	WG Technology Aspects	1、ホ、a
393 Rev.1	MEETING REPORT	SWG Coordination	1、ル、c
394	WORKPLAN	AH – Workplan	1、ヌ、e
395	PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON THE OUTCOME OF STEPS 4-7 OF THE IMT-ADVANCED PROCESS INCLUDING CHARACTERISTICS OF THE RADIO INTERFACES OF IMT-ADVANCED [IMT.RADIO]	WG Technology Aspects	1、ロ、e

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
396	MEETING REPORT	SWG Radio Aspects	1、ル、c
397 Rev.1	MEETING REPORT OF TECHNOLOGY SWG IMT-SPECIFICATIONS	Chairman, SWG IMT-Specifications	1、ル、c
398	MEETING REPORT OF SWG EVALUATION	Chairman, SWG Evaluation	1、ル、c
399	MEETING REPORT	WG General Aspects	1、ル、a
400	CHAPTER 2 ITU-R WORKING PARTY 5D STRUCTURE AND WORKPLAN	AH – Workplan	2、ヌ、e
401	MEETING REPORT OF AD HOC WORKPLAN	Chairman, Ad hoc Workplan	1、ル、a
402	MEETING REPORT OF WORKING GROUP SPECTRUM ASPECTS	WG Spectrum Aspects	2、ル、a
403 Rev.1	MEETING REPORT OF WORKING GROUP TECHNOLOGY ASPECTS	WG Technology Aspects	1、ル、a

* 分類

1	修正無し
2	修正有り

イ	勧告案
ロ	レポート案
ハ	決議 (Resolution) 案
ニ	Question 案
ホ	Liaison statement
ヘ	Hand book text
ト	CPM Report text
チ	Circular letter text
リ	Text for web page or ADV document
ヌ	Work plan
ル	Meeting report
ヲ	その他 (未定を含む)

a	WP5D として承認
b	WP5D として合意 (SG 会合提出)
c	WP5D PL 審議対象外
d	WP5D として否決 (削除)
e	WP5D として継続 (キャリーオーバー)

付属資料6 各WGの当面のスケジュール

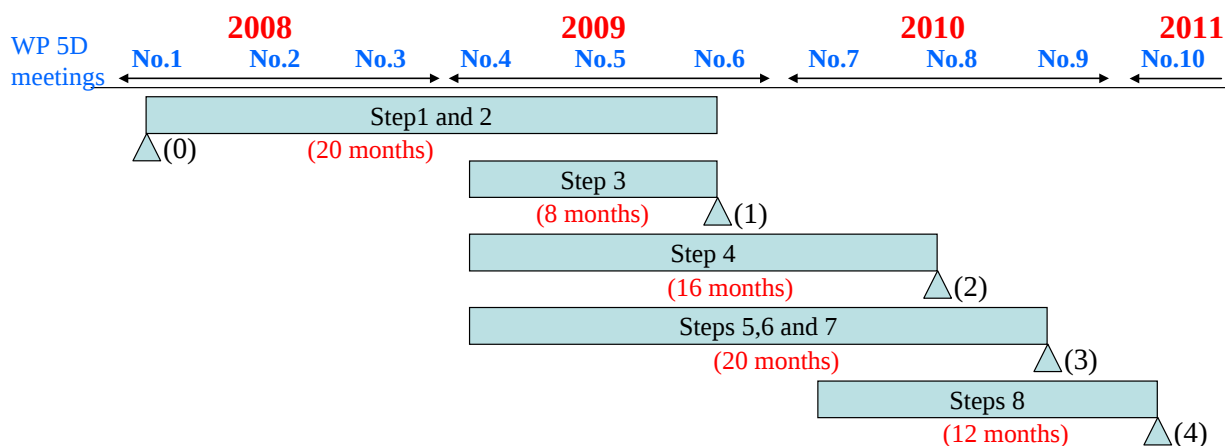
WG 区分	2008												2009												2010											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全体	☆ WP5D 1st Geneva	☆ SG5				☆ WP5D 2nd U.A.E				☆ WP5D 3rd Korea			☆ WP5D 4th Geneva				☆ WP5D 5th Geneva				☆ WP5D 6th Germany			☆ WP5D 7th Italy				☆ WP5D 8th Vietnam					☆ WP5D 9th China	☆ SG5		
AH Circular Letter	○	サーキュラレター 一部完成				○	サーキュラレター 完成																													
WG GEN																																				
WG TECH	☆ M.1457-7 RSPC改訂勧告案5.X.2章情報, CertificationをITUへ提出 2008.1.31					● RSPC改訂勧告案 M.1457-9検討				● RSPC改訂勧告案 M.1457-9検討								○ RSPC改訂勧告案 M.1457-9承認 (5.X.1章等)			☆ M.1457-9 RSPC改 訂勧告案5.X.2章 情報, Certification をITUへ提出 2009.8.3			◎ RSPC改訂勧告案M.1457-9採択												
	○ ◎ RSPC改訂勧告案M.1457-8承認 (5.X.1章等)									☆ M.1457-8 RSPC改訂勧告案5.X.2章情報, CertificationをITUへ提出 2008.10.31																										
	RSPC改訂勧告案 M.1457-8承認 (5.X.1章等)																																			
	● IMT.TECH 作業文書作成					○ IMT.TECH 承認				○ Technology Description Template 承認																										
	● IMT.EVAL 作業文書作成					● IMT.EVAL 作業文書作成				○ IMT.EVAL 承認																										
	● M.1580/M.1581改訂 勧告草案検討					● M.1580/M.1581改訂 勧告草案検討							○ 改訂勧告草案 M.1580-3、M.1581-3承認				◎ 改訂勧告草案 M.1580-3、M.1581-3採択							● M.1580/M.1581改訂 勧告草案検討			● M.1580/M.1581改訂 勧告草案検討			● M.1580/M.1581改訂 勧告草案検討				○ 改訂勧告草案 M.1580-4、 M.1581-4承認		
WG-SPEC	▲ M.2113改訂検討					● M.2113改訂検討				○ ◎ M.2113改訂案承認			○ M.2039改訂 報告案承認				▲ M.2039改定 作業計画作成							● M.2039改定 作業文書作成			● M.2039改定 作業文書作成			● M.2039改定 作業文書作成			○ M.2039改定 改訂案承認			
	● MBWA 共用 作業文書作成					● MBWA2.5GHz 作業文書				● MBWA2.5GHz 作業文書			○ MBWA2.5GHz 新報告案承認				▲ IMT.SHARING 2300検討中止						● ANT ISO 作業文書作成			● ANT ISO 作業文書作成			● ANT ISO 作業文書作成			● ANT ISO 作業文書作成				
	▲ IMT.Sharing 2300検討					▲ IMT.SHARING 2300検討				▲ IMT.SHARING 2300検討			▲ IMT.SHARING 2300検討										▲ IMT Mitigation 作業計画作成			● IMT Mitigation 作業文書作成			● IMT Mitigation 作業文書作成			● IMT Mitigation 作業文書作成			○ IMT Mitigation 新勧告案承認	
	▲ M1036-3 改訂検討					● M1036-3 改訂作業文書作成				● M1036-3 改訂作業文書作成			● M1036-3 改訂作業文書作成				● M1036-3 改訂作業文書作成						▲ IMT.SHARING.U HF作業計画作成			● IMT.SHARING.U HF作業計画作成			● IMT.SHARING.U HF作業文書作成			● IMT.SHARING.U HF作業文書作成			● IMT.SHARING.U HF作業文書作成	
																								● M1036-3 改訂作業文書作成			● M1036-3改訂 作業文書作成			● M1036-3改訂 作業文書作成			● M1036-3改訂 作業文書作成			● M1036-3改訂 作業文書作成

注1) ●：作業文書の作成 △ ▲：準備等 ○：勧告草案の承認（WP5D） ◎：勧告案の採択又は報告案の承認（SG5） ◎：勧告として成立

WG 区分	2011												2012												2013													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
全体	☆ CPM	☆ WP5D 10th					☆ WP5D 11th USA			☆ WP5D 12th	☆ SG5		☆ RA WRC			☆ WP5D 13th						☆ WP5D 14th																
WG GEN		● 新報告草案 IMTUPDATE 検討					● 新報告草案 IMTUPDATE 検討			● 新報告草案 IMTUPDATE 検討																												
		● ハンドブック作成					● ハンドブック作成			● ハンドブック作成						● ハンドブック作成						● ハンドブック作成				● ハンドブック作成						● ハンドブック作成						
WG TECH		○ M.[IMTRSPEC] 勧告草案合意								○ M.[IMTRSPEC] 勧告草案最終チェック		◎																										
		● LMS.CRS 検討					● LMS.CRS 検討			○ IMT.CRS 承認																												
WG-SPEC		○ ANT.ISO 新報告案承認																																				
		● IMT.SHARING.UHF 作業文書作成					● IMT.SHARING.UHF 作業文書作成			○ IMT.SHARING.UHF 新報告案承認																												
		○ M1036-3 改訂案承認																																				

注 1) ● : 作業文書の作成 △ ▲ : 準備等 ○ : 勧告草案の承認 (WP5D) ◎ : 勧告案の採択又は報告案の承認 (SG5) ◎ : 勧告として成立

参考資料 1 IMT-Advanced無線インタフェース勧告の開発スケジュール



Steps in radio interface development process:

- | | |
|---|--|
| Step 1: Issuance of the circular letter | Step 5: Review and coordination of outside evaluation activities |
| Step 2: Development of candidate RITs and SRITs | Step 6: Review to assess compliance with minimum requirements |
| Step 3: Submission/Reception of the RIT and SRIT proposals and acknowledgement of receipt | Step 7: Consideration of evaluation results, consensus building and decision |
| Step 4: Evaluation of candidate RITs and SRITs by evaluation groups | Step 8: Development of radio interface Recommendation(s) |

Critical milestones in radio interface development process:

- | | | | |
|--|--------------|---|---------------|
| (0): Issue an invitation to propose RITs | March 2008 | (2): Cut off for evaluation report to ITU | June 2010 |
| (1): ITU proposed cut off for submission of candidate RIT and SRIT proposals | October 2009 | (3): WP 5D decides framework and key characteristics of IMT-Advanced RITs and SRITs | October 2010 |
| | | (4): WP 5D completes development of radio interface specification Recommendations | February 2011 |

IMT-Advanced A2-01

IMT-ADV/2-E Revision.1

